

Daily Freinet 1999



(C) free school JAPAN FREINET_Hiroshi Kohata 2005.

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0001 ----- 1999/09/10

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 本日創刊!
2. 夏の終わりに...てっちゃんの思い出

1. 本日創刊!

こんにちは! 木幡です。教育現場にいたときには、ほとんど毎日“学級通信”を出していました。ジャパンフレネがオープンしてから5ヶ月...。フリースクールの日常、子ども達の様子、そして教育エッセイや学校問題など毎日(土x刊)お届けいたします。投稿も大歓迎です! 皆さん、よろしくお願ひします!

2. 夏の終わりに...てっちゃんの思い出(1)

この夏、夏季講習を行った。夏季講習は完全なマンツーマン授業。8月の終わりに小学1年生のてっちゃんがやってきた。学校で体験できない授業ということで、算数のゲームをしたり、漢字遊びをしたり...。そんなある日のこと、ふたりで“しりとり”をやった。あれこれ考え、シンプルだが楽しい!

くすり りす すいかわし しまうま まんとここでぼくの番。(よし!引き続き“と”で終わるようにしよう。ここは“とまと”だ)と心の中で思っていたのだが...、書いた文字は...、なあんと“とまん”!“あー!ぼくの勝ち!“ん”で終わった!”とてっちゃん、大喜び。「いけねー!“とまと”って書くつもりだったのに-!なんで“とまん”なんて書いちゃうんだ-!」

そばで見ていたてっちゃんのお母さん、大爆笑!

[敗因分析]

- (1)“とまと”と書こうと思っていた。
- (2)同時に“ん”でおわっちゃ行けないという意識があった。
- (3)(1)と(2)がごちゃ混ぜになり、とま...ここまで書いて“ん”の意識が頭をもたげ、一気に“ん”が出て、“とまん”となった。この日で夏季講習は終了...、しかしこの後、意外な展開が...。(続く)

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0002 ----- 1999/09/11

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 夏の終わりに...てっちゃんの思い出(2)
2. お願ひ

1. 夏の終わりに...てっちゃんの思い出(2)

さて、夏季講習も終了し、9月新学期が始まってからの数日後、「こうなると予想はしてたんですけど...」てっちゃんのお母さんが、次のような事を話してくれた。9月1日始業の日、家の玄関でてっちゃんが、突然立ち往生してしまった。「木幡先生のところに行く-!」どうなだめすかしてもだめで、お母さんとっても困ってしまったそうだ。普段はきちんと学校に行っている彼の中で何が起こったのかはわからない。

学校とフリースクール、それぞれ人が関わりそれぞれ、授業も行われているのだが...

ぼくはてっちゃんのお母さんに、次のようなメールを送った。

-----以下、ぼくのメール

今年は全く夏休みが無く、今日も朝6時半には新宿に来て仕事をしているという「女工哀史」のような生活です。そんな中でてっちゃんとの4日間は、実に楽しいひとときでした。

彼にとって楽しい事は、まさに彼の“生”に根ざしているのだと感じました。そして「彼にとって楽しい事は、ぼくにとっても楽しい事なのだ」という25年前の感覚...、そう!教師になったばかりの時のあの感覚を思い出しました。

大切な感覚を思い出させてくれた事に、とても感謝しています。子どもから学ぶということはこういうことだとあらためて思いました。

そうですか...、ぼくの所に行くといつて立ち往生した話をお聞きし、泣けてしまいました。

教師としてはとてもありがたいことです。

でも、学校に行けるうちは行ったほうが良いと思います。

つらいことA どうか彼

のままを受け入れてあげてください。

学校は必ずしも行かねばならない場所ではありませんから...

一番の思い出は、やはり「とまん」です。

しりとりで「とまん」なんて言うとは、夢にも思いませんでした。完全にぼくの負けです。

写真ができたからお送りいたします。

お困りの時はいつでもご連絡してくださいね!

そうじゃなくても、遊びに来てくださいね!

いつでもどこでも応援しています。では!

-----以上、メール終了

いま、てっちゃんは元気に学校に通っている。

そとの陽射しはまだ強い...

2. お願ひ

創刊号から、さっそくお便りいただきました。

投稿の場合は、“投稿”と明記してください。

匿名を希望する方は、その旨も明記してください。

紙面の関係上、掲載されない場合もあります。

ご了承ください。

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0003 ----- 1999/09/13

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 本日のジャパンフレネ
2. 正しい休日の過ごし方(毎週月曜掲載)
3. お便りコーナー

1. 本日のジャパンフレネ - 割り算てなあに? - ジャパンフレネは授業を楽しむフリースクール。

ぼくも授業大好きなので、何人か(異年齢)を集めて1回完結の授業をする。子ども達が「授業やろう!」と提案する事もある。

さて、ある日のこと...、「割り算やる!」とKちゃん。

4年T年のつまづきを克服するために、導入から入る。

「じゃあ、ジュースを買ってきてよ。」
 「べがし！べがし！」
 何を使うかですもめる。中3のちいちゃんが付き添っていったが、買ってきたのは“午後の紅茶”Kちゃん流の妥協らしい。ぼくは、甘い嫌いなのにい...。
 「いい？ 割り算でなあに？」
 「割ること！」
 「何を割るの？」
 「うん...、分けることかなあ？」
 中学生もいっしょに考える。
 「じゃあ、やってみるよ。」 コップを4つ用意し、
 「Kちゃんは小学生だから、少しね。」
 「ぼくは大人だから満タン。」
 「ちいちゃんは中学生だから...。」
 こんなふうに分けるとKちゃん「ぼく、これ！」もちろん、満タンのコップ。
 「算数の世界で“分ける”ってことは、どれも同じように分けるっていうことね。」Kちゃんに厳密にわけてもらう。
 「おっと、ただ分けただけじゃだめね。『これ、ぼくの！』って、しっかり自分の分を確保するの」
 割り算とは“全体の午後の紅茶を同じように何人かに分けて、一人分の量を求めること”「そうかあ」と中3のちいちゃん。
 かんばあい！
 水よりジュースの方がずっといいですよ！
 2. 正しい休日の過ごし方(1) - 9月12日(日) -
 ここではJF代表・木幡寛の日常を通し、教育を見えます(ほんとかね?)。
 今月の休みは、12日と15日のみ。あとはすべてつまっている。9時半起床。メールチェックのあと、自転車の空気入れをなじみの店に買いに行く(ぼくの趣味は自転車。ロードレーサーです。)
 帰りに本屋2軒に立ち寄り。
 教育誌“ひと”がリニューアルして出ていた。かつて、ぼくも“ひと”の編集をやってたんだけど、雑誌にもう勢いが無い。
 特集「読む」なのだが、子どもの姿が全然イメージにならない。結局、立ち読みで全部目を通して、おしまい。
 最近、教育雑誌はまるでだめ。本屋においてないもの。でも、教育雑誌の発刊ブームで何冊か新しいのが出ている。
 愛知の岡崎君の“お・は”。これは1回だけ買ったが、あとは立ち読み。軽すぎかな。
 斉藤次郎さんの“子ども+1”季刊でました。これは麗しすぎ。
 そして、平井雷太さんの月刊“見えない学校”創刊号をいただきました。特集が多すぎて、しかも編集がワンパターンなので、読みにくい。ぼくも雑誌作りタイヨー！
 これらすべてに言える事は、主張は多いが子どもの姿が見えないってこと...。2時間立ち読みし、お相撲を見て...後はワンパターン。
 「酒がのみたい夜は 酒だけではない。未来へも口をつけたいのだ。」10時には床に入る...、しかし眠れない！
 もんもんとして、はたと気づいた。
 そっかあ！ 眠れるわけないよなあ、
 相撲見ながら2時間昼寝したんだもん！
 今日買った本

「こころと体の対話」神庭重信(文春新書)
 「変貌する子ども世界」本田和子(中公新書)
 「レヴィナス入門」熊野純彦(ちくま新書)

 3. お便りコーナー

 早速ですが、メールマガジンの購読を申込させていただきました。(また、貴HPのニューデザインもとても今風で、ちょっとうらやましく思っています。)創刊号の「しりとりの」エピソードは、とても心が和みました。同時に「しりとりの」といった一見単純なゲームが、どれほど子どもの発達には大切なものであるかといったことを、私なりに垣間見ることができたような気がします。(勉強になりました。)つづきが楽しみです。
 一人でも多くの不登校やひきこもりの子どもが、ジャパンフレネさんのような幸せになれる空間にはやく出会えるようになることを願っています。
 前原 佳之
 前原さん、ありがとうございます。一度遊びに来て下さいね！

 =====
 =====

===== デイリー・フレネ =====
 ----- VOL.0004 ----- 1999/09/14
 ////////// CONTENTS //////////////////////////////////////
 1. ジャパンフレネあれこれ
 2. “Law”を作ったのはいいけれど...
 3. お便りコーナー
 =====
 1. ジャパンフレネあれこれ
 さつき、遠くから通っているヒイちゃんが帰った。K君も友達から電話がかかってきて、早めに帰る。中3のちいちゃんは、漢字の勉強。ついたての向こうでは謡(よう)ちゃんとサリーがおしゃべり...。「ねえ！ 漢字あってるかどうか見てよ。」
 「いいよー！」
 高1の謡ちゃんは答えも見ずにきばきと丸をつけ、誤字を直していく。そばでサリーがそれを感じてみている。
 いいなあ、いいなあ...。時間がゆっくりと流れていく。「木幡さん、中学の漢字読めますかあ？」
 自信はあったが“携える”で、一瞬立ち止まる。それぞれが自分の時間をゆったりと使う。今日みんなは、とってもいい顔。そとは久しぶりの雨...。
 乾いたほこりも...、しっとりしました。
 2. “Law”を作ったのはいいけれど...
 食いちらかし・飲みちらかしが多いので緊急ミーティング。
 子ども達は次のような張り紙...。
 【戒律】
 自分で散らかしたごみ、ものは各自で片ける(“づ”がぬけている!)。もし守らなかった場合、罰金 100円。
 しかもよく見たら“戒”の字が間違えている。

【誠律】と書いてある。

調べたら、確かに“誠”という字はある。

うーん...、僕は悩んだ。

戒律 誠律と、書いてもいいのでしょうか？

知ってるかた、ご連絡ください。

[スタッフ・若菜の目]

「X - j a p a n の歌詞にでもあるんじゃないですか？

ところで木幡さん、言った手前もあるんですから、自分の使ったコップ、洗ってくださいね。」

おまけ「木幡さん、『スジャータのミルクのふた、とっついて』って自分で言って忘れているでしょう。ぼんぼん捨ててますよ。」

スジャータのふたに世界の国旗が描かれていて、それを全部集めようとしてるんです。

持ってるかた、送ってください！

3. お便りコーナー

こんにちわ。

メルマガ、まだ2回目ですが、とても興味深く読むことが出来ました。これからも、がんばって、いろんなお話を聞かせてください。

僕は「金八先生」に憧れて、先生になりたいかったけれど、途中で寄り道をしてしまって(笑)、結局先生にはなれませんでした。だから、このメルマガのお話はとても興味を持って読んでいます。

しりとり「とまん」ですが、そんな言葉は無いのだから、負けにはならないのでは？(笑)

それでは。

(^o^)/~~~~ Bye Bye

とおるくん

とおるさん、お便りありがとうございました。

言われてみれば“とまん”なんて言葉、確かにありませんよね。次回のしりとり、がんばりまアす！

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0005 ----- 1999/09/16

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. ジャパンフレネ...、あれこれ

2. お便りコーナー

=====

1. ジャパンフレネ...、あれこれ

(その1)

中学生のお兄ちゃんo ちゃんたちが英語を勉強していたときのこと、「マイ ネーム イズ...」

そばでその様子を見ていた小学生のけんちゃんに、「けんちゃんも言ってみなよ。」と、いきなりスタッフが振る。

「ううん...、マヨネーズ けん！」みんな、大爆笑！

しかし、けんちゃんはいたってまじめ。うん！もしかして健ちゃんの英語の発音の方が正しいかもしれないぞ。

その昔、ロンドンからウエストケンジントン行きの列車に乗ろうとした日本人。切符売り場で「ウエストケンジントン、1枚」と、いくら行っても通じない。

もう頭に来て「上杉謙信、1枚！」って言ったら通じたんだって...。 ねっ！

(その2)

水曜日は基本的に外へ出かける日だ。

15日は祝日なので14日にみんなで上野に出かけた。

目的は、14日が初日の“オルセイ美術館展”。

16年ぐらい前、ぼくはパリで見ているので今度は2回目。

絵画唱ガラス工芸^...。

ぼくはクラレンスgz ワイトの写真「雨のしずく」の絵葉書を買った。

「木幡さん、あたしも買おうかと思ったんですけど、構図が平凡だったからやめました。」と謡ちゃん。

うーん、まいった！

彼女は美術関係にやたら造詣がある。ちなみに彼女は、しっかりと分厚い目録を買っていた。

「実物の作品と微妙に色使いが変化してるんですけどね。」

これも、まいった...。

2. お便りコーナー

デイリーフレネ通信が発信されてまだ間もないのですが、たくさんのお便りや質問が来ています。

きょうは、雑誌の事を書いた第3号についてのお問い合わせです。

往復書簡のかたちで紹介しましょう。

(1) 村上さんからのお便り

はじめまして。

「見えない学校ネットワーク」会員の村上と申します。

川崎市在住の主婦で、幼稚園年中の息子がいます。

就学前の子どものいる私にとって、子育ての情報を親や親戚、ご近所に限らずただのおじさんから聞くことができるようになった、この環境に感謝しつつ、デイリー・フレネも読ませていただいています。(どんな

関係がよくわからないという意味で、「ただの」。木幡さんにも勝手にそんな親しみ?を感じています。)

いろいろな教育雑誌をご覧になっての印象を書かれていたところに『見えない学校』についても「ワンパターン」と書かれていて、この表現で感想を聞いたのは私は初めてだったこともあり、「ううむ、ワンパターンか。なん

となくわかるような気もするけど、とくにどこをワンパターンと思われたのだろう」と思い、お聞きしたくなってメールさせていただきました。

日々書いたもののストックが、月刊誌『見えない学校』の原稿として使われることもありまして、私もネットワークで書いている結果、雑誌を作っている立場にあります。

ですので、ワンパターンという印象をとくに雑誌の構成(ハード)にお持ちになったか、内容(ソフト)にお感じになったか、

両方か(ハードとソフトは、不可分なものかもしれませんが)、それはたとえばどんなことだったか、お聞かせいただけたらありがたいと思っているのですが...

いかがでしょうか？

勝手なお願いかもしれませんが...

お返事いただけましたら、幸いです。

それでは、また「デイリー・フレネ」を楽しみにしています。

村上奈穂

ありがとうございます！次号にぼくの返事を掲載します。このようなかたちで、お互い高まってい

くのがいいですね！

皆さんもお便りたくさんくださいね！

=====

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0006 ----- 1999/09/17

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. Englishから沖縄のパイナップルへ...
2. “技”で買う、“技”を買う
3. お便りコーナー

1. Englishから沖縄のパイナップルへ
 ジャパンフレネでは、各自がスケジュール表を作り学習も遊びも自由に、しかし“自己契約”だからある意味では厳しく自己を律し(ここが難しい)、1日を過ごしています。

スケジュール表については、あらためて説明しましょう。

こうちゃんの朝一は、英語。

母音の前の冠詞はanになるなんてことをやって、a・i・u・e・oで始まる単語を考える。

「apple」

「OK! アップルの前にある単語をくっつけたら、南の方で採れる果物になるよ」

あれこれ考えpineapple!

「どうしてパイナップルって言うか知ってる?」

パインは「松」「松かさ」パイナップルの形にしている...、どんどん脱線し...ここで問題。

たまたまいた5人に聞いてみました。

「パイナップルってどんなふう栽培され、どんなふうにして収穫するか知ってる?」

[予想]

- (ア)りんごやみかんのように、木に実がつく(2名)
- (イ)大根やにんじんのように地下に根としてなる(3名)
- (ウ)花のように茎のうえに一個パイナップルの実がつく
- (エ)その他

実はこの答え、ぼく、28歳になるまで知らなかった。はじめていった沖縄(分裂以前の日教組全国教研大会)で実際にこの目で見ると、パイナップルは「.....」と思っていたのだ。

さて正解は...、明日...

英語がどんどん脱線し、とうとう沖縄まで行ってしまいました。ま!いいか! みんな楽しんでたからね! あっという間の1時間、ちゃんちゃん!

2. “技”で買う、“技”を買う

先日、池袋の西武デパートをぶらぶらしていたら、台所用品売り場で“実演販売”をやっていた。

ぼく、こういうのすっごくお好きなんです。

大道芸ですよ!

「さあさあ、おねいさん(実はおばさん)! だんなさんに飲ませてやってくださいよ! 小松菜が一番! 苦いってえ人には、レモンとりんごを入れて搾ってやってね。」こんな感じでなんだから...、とにかく断定的にこれが良いのだと思わせ、買わせちゃう。技だよえ...、惚れ惚れしちゃう。

いつも最後までしっかりと見ます。

この日もそうで、ええ、しっかりと買いました。

ジュース搾り器...、消費税込みで11550円也...

“芸”関係、おすすめの本2冊

「芸の秘密」 渡辺 保(角川選書)

歌舞伎の芸とは何か。

「芸人-その世界」 永 六輔(文春文庫)

これ、絶版になってるかも...?

3. お便りコーナー

往復書簡(2)木幡から村上さんへのメール

雑誌における“ワンパターン”について、木幡の考えです。

まず、ハードの部分に関して感じた事を書きます。

これは省略します。

次にソフトに関して少々...

創刊号を見たところ「特集が特集にならないタイトル」と感じました。例えば“義務教育”は今の状況でキーワードになりにくいと思います。

雑誌を作ると言う事は、ソフトに関して戦略的視点を持っているかどうかという事です。

記事の内容(原稿の内容)はかなりの部分、残念ながら読者のハートをつかむには力量不足です。

“思い”はわかりますが、それを読まされるのは読者としては、ちょっとつらいです。

一発ズドンという原稿があり、それをベースに子どもの姿が見えるものとか...

構成にリズムがほしいところです。

長々とすみません。 応援の意味で感じたままに書かせていただきました。

私にできる事があれば、何なりとおっしゃってください。実は、私も雑誌を考えているのですが、2002年までに今やっている運動のベースを作り、それからでも遅くないと...

いろいろな雑誌を見させていただき、参考にしたいと思いません。

メールありがとうございました! では!

(あと1回だけ続く)

このあと、村上さんから丁寧なメールをいただきました。

次回、転載いたします。

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0007 ----- 1999/09/20

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. “「選択登校」を語ろう会”を行いました
2. ほんの買い方、そして読み方
3. お便りコーナー

1. “「選択登校」を語ろう会”を行いました

“不登校”ではない...、“選択登校”なのだ。

学校以外の場所で学ぶ事があってもいいじゃないか。

学校は「教育する場」であって、子どもは「教育される」...、これは宿命といってもいい。その場からドロップアウトすることは、かつて許されなかった。

しかし、スキーマ(人それぞれが持っている枠組み見方)を一度変えてみよう。 はたして学校はどうしてもいかなければいけない場所なのか...

保護者と子どもが「自分の学びは自前でやる」という落とし前をつける(自己決定1択)ことで、新しい世界

が広がる...

第2回の集まりは9月18日(土)、12名が参加。引きこもり状態の子どもの要求にどこまで応えるのか...、といった話題が中心を占めました。

「夜中に 買ってこい！」といわれ、それを拒否した話...、閉じこもる事により暇になり時間を持て余し、ゲームやパソコンを要求する話...

でも、ゲームやパソコンは、外とつながるチャンスかもしれない...

あれやこれやで、午後1時から5時半まで悩みを出し合いました。

「フリースクールに通うようになってから、対話ができるようになった。」「外で一人で食事が取れるようになった。」などの明るい話題も...

皆さんもぜひ一度、お集まりくださいね!

2. ほんの買い方、そして読み方

本は結構買います。目についたものは、とにかく買う。

“つん読”でもいい。本との出会いは人の出会いと同じ。

「後で」と思うと、たぶんもうだめ。

だから、買う(同じ本が数冊なんてこともある)。

まず、目次を読む。次に後書き0書きの順に読む。

ここで最後まで読むかどうか決める。

ほとんど最初の数小節で決まってしまう。

最後まで読む本(僕は3回読むことにしている)は必ず筆記用具を持ち、重要な個所をチェックする。

2回目は、チェックのついているところだけ読み、重要と思うところにはさらにチェックを入れる。

3回目はダブルチェックの所だけ読み、重要と思うところにさらにチェックを入れる。

これでトリプルチェックが生まれるが、その部分を京大型カードに書き写し分類する。以上で終了。

本の内容は、かなり頭に入る。

何冊かの本を同時進行で読んでいく。

必要なとき、いつでも取り出せるようにしておけば良いと思う。

不必要になった本は、どんどん捨てる。

ためておくと、ごみと化する。

でも、読書の目的は知識の集積じゃない...。作者に寄り添っていく身体性...、そんなことも考える。

そんなこんなでこの二〇日で買った本のリストです。

「こころの情報学」西垣 通(ちくま新書)

「学びの快楽」佐藤 学(世織書房)

「教育時評-1997 1999」佐藤 学(世織書房)

「子どもたちは、いま」トリイw イデン 斉藤 学(早川書房)

「子別れレッスン」斉藤 学 久田 恵(学陽書房)

「教育が生まれ変わるために」板倉 聖宣(仮説社)

「変貌する子ども世界」本田和子(中公新書)

「アドラー心理学入門」岸見一郎(NEW新書)

うーん...、こんなにいつ読むの...?

それにしても、小説読まなくなったなあ...

3. お便りコーナー

往復書簡(3)

ぼくのコメントに関し、村上さんからのメールです。

木幡様

月刊「見えない学校」についてのご意見、

早速ありがとうございます。

ご参考にさせていただきます。

書いてくださった中で、

記事の内容(原稿の内容)はかなりの部分、残念ながら読者のハートをつかむには力量不足です。

“思い”はわかりませんが、それを読まされるのは読者としては、ちょっとつらいです。

とくにこれは、耳が痛い...

理解の押し付けをされるとたまらないですものね。

伝え方を磨いていかないといけないのだろうなと思います。

9月号は9月15日に書店に出ます。

また、ご覧になってください。

村上奈穂

----- (以上、転載終了)

村上さん、これからも連絡しあい、よりよいものを作っていきましょう。

もう一つ、とおるさんからのメールとURLです。

メルマガの長さですが、ちょうど良いと思いますよ。

僕は興味を持って読んでいたので、物足りないくらいですが、長すぎるのも飽きてしまうと思います。

文章も読みやすく、引き込まれて読んでしまいました。

それでは、これからも、がんばってください。

<http://member.nifty.ne.jp/hyu-hyu/>

----- (以上、転載終了)

とおるさんは、プロレスファン。 同好の士が集まればいいですね!

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0008 ----- 1999/09/21

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 「クジラの授業、やってよう！」
2. お便りコーナー
3. 正しい休日のすごしかた(今回は、お休みです)

=====

1. 「クジラの授業、やってよう！」

暇そうにしているお二人さん...

「なんか、授業でもやるうか?何でもできるよ。」

「じゃあさー、クジラの授業やって。」

とサリーは、クジラの貯金箱を手取る(皮製・東急ハンズで購入・わりとでかい)。

「はあ...、クジラねえ...。」

何でもできるといった以上、やらねば木幡の名がすたる。

「OK!その代わり

「えー!」

ホワイトボードに“1本でもニンジン”の歌を書く。

1本でも ニンジン 6羽でも 七面鳥

2足でも サンダル 7匹でも ハチ

3そうでも ヨット 8頭でも クジラ!(やったね!)

4粒でも ごま塩 9杯でも ジュース

5台でも ロケット 10個でも いちご

「ほら、ちゃんとクジラの授業だぞ!」

「ずるーい!」

ここで問題、「これ全部足すと

「55」

「うん、全国あちこちで授業してきたけど、99%の子どもたちはそう答えるんだ。でもね、残りの0.9%は、57って答えるんだ。」
 「?????」「ほら、サンダル2足で...?」
 「あっ、そうか!」
 「残りの0.1%は、どう答えると思う?」
 「?????」
 「55の後にどういう単位がつくの?本足そう粒...杯個?」
 「たせないの?」
 「そう!」
 1 + 1 = 2のベースには、“同じ量”という概念があるのだ。

だから、いつでも1 + 1 = 2ではない。
 (おまけその1)
 クジラの絵を書く。
 「ほら、またクジラだぞ。」牛の絵も書く。
 「なあにい...、それ? 犬?」あわせて何頭?
 「?????」
 (おまけその2)
 50ccの水と50ccのアルコールを合わせると何cc?

これは実際にやってみる。(このでの実験は、いつでも臨機応変にできるよう準備している)
 「あれー...! 100ccにならない...? どうして?」
 うん、そのどうして...英語のWhy?が大切なんだね!
 ジャパンフレネの授業はこんな感じです...。ちゃんちゃん...。
 たまたま、取材に来ていた“日テレ式”の人、感心していわく
 “お題頂戴”って感じの授業ですねえ。」

2. お便りコーナー
 上野の美術館行きのもよう、楽しく読ませていただきました。私自身16年前(中学3年でした)、父の仕事で1年間イギリスにいたのですが、はじめの2ヶ月間は学校に行かず、母と妹と3人で美術館めぐりなどしていたのを思い出しました。
 秋からの半年間は、母がシュタイナーに関心を持っていたこともあり、シュタイナー学校(サセックス州のマイケルホールというところ)に行きました。
 私はシュタイナーを語ることはできませんし、学校に通って体験したことの記憶も断片的なのですが、母を通してシュタイナー教育という日本の普通の学校教育と違うものと縁ができたことで、自分には選択肢があり、今やっていることは(何であれ)自分が選んでやっていると思うようになる、そのきっかけを与えられた気がします。
 シュタイナーとフレネとは違うのでしょうか。
 木幡さんがどんなプロセスを経てフレネと出会ったのか、フレネと出会って見えてきたものは何か、聞いてみたいと思いました。
 先日のリクエストに答えてジャパンフレネのポリシーを将来書いてくださるとのこと、ありがとうございます。そのときはぜひ、フレネと木幡さんとのつながりも書いていただけるよう、重ねてリクエストいたします。それではまた。
 これからも時折こうやってメールさせていただくかもしれません、よろしく願います。

神奈川・N子さん
 N子さん、お便りありがとうございました。
 シュタイナーとフレネの違い、あるいはそれぞれの特色...、これだけで一大論文になりますね。
 “フレネの内側”みたいなエッセイのなかで、少しずつと思っています。

===== デイリー・フレネ =====
 ----- VOL.0009----- 1999/09/22

- //////// CONTENTS //////////////////////////////////////
 1. うわーっ!、拷問だあー!
 2. 囚人写真に大爆笑!
 3. お便りコーナー

===== 1. うわーっ! 拷問だあー!
 中学生のサツ君といっしょに文字式の計算をやる。
 $a \div b = a / b$ のところで、ちょっと分数にふれる。
 「2本のようかんを3人で分けると、1人分は何本?」
 [予想](ア) 1 / 3本 --- 4人
 (イ) 2 / 6本 --- 2人
 (ウ) 1 / 3本 --- 0人
 あれこれ討論していると、「勉強やる!」
 でた! きまぐれKちゃん...
 「だからさあ、今、中学生のお兄ちゃんと数学やっただろう。朝のうちにスケジュールを決めてって、何度も言ってるでしょう。」
 とはいっても「やるー!」攻撃の前にはかなわない木幡マン...。割り算のタイル図、作問を数題作ってやってもらう。
 この時の時刻は、午後1時30分...、うー(腹へったあ)というモード...。
 「1本のようかんを三つに分けた一つ分は、1 / 3本...、へー、2本のようかんを3人で分けても1 / 本...、変ですねえ。いろいろな1 / 3本があるんですねえ。」
 (もう、だめ...腹へったあ...)
 しかし、授業にのりまくり、まわりも結構楽しんでいるので2時までやって、the end!
 その瞬間、「勉強終わった! もっとやる!」とKちゃん。
 「わー! 拷問だあ! 木幡さん、お昼食べられないよ!」
 まわりの子どもたち、大爆笑!
 結局、この日お昼にありついたのは、午後2時30分でした。とほほ...。

----- 2. 囚人写真に大爆笑!
 昨日、“日テレ式”の人達が来て、いろいろ取材していった。後日、放映とのことなので連絡しますね。それとは別にグラフィック雑誌の取材で長期間ジャパンフレネに滞在しているのが、写真家のワイダさん。
 「写真で遊びましょう!」ということで、プロの機材を使いみんなで遊びました。それがなあと“囚人写真”。ブラカードを胸にうらぶれ、疲れた表情を演じる。ポラロイドカメラ(プロ仕様、コダックみたいな半端なもんじやない)を使って一人一人写真を撮る...、「ワイダさん、似合ってるウ!」「若菜、すごくない?」大爆笑の渦。
 その写真、ジャパンフレネの壁に貼ってあります。ぜひ一度、おいでください。

3. お便りコーナー

[Wちゃんからのお便り]

先日はお忙しい中、本当にどうもありがとうございました。久しぶりにお会いできて、とても嬉しかったです。木幡さんに言われた“まず、Wちゃんが自然体じゃなくちゃね。”のことが印象に残っています。しばらく家を留守にしていたので私は家事におわれ、娘は、ひとり遊びをする時間がほとんど・・・退屈そうにしているのが見ると私の気持ちは、落ち着かなくなってきました。そして、「ちょっと、そこらへん一回りしてくれば。」「何で？」と怪訝そうに言う娘に「だって、つまらなそうだから」「つまらないわけじゃないよ」と言われ、あれっ！て思いました。幼稚園に行かなくなっていたいい、でもお友達と遊べるチャンスは、作ってやらなければ・・・できるだけ私が“遊び”の機会を増やしてやらなければ・・・他の子に遅れをとらないように・・・とっていたんですね。私が何かしてやらなければいけない、という思いに駆られていて、今、この子が何を望んでいて、どう感じているか、心の中の動きにまでは目を向けられずにいたことに気づきました。友だちとは遊びたい、「幼稚園やっぱり行こうかな」と口にするのはあっても、じゃあ、とこちらが動こうとすると「やっぱりいい」と応える娘。正直なところ私と家で過ごす時間ばかりでいいのかしら、という不安はすぐに消えないまでも、この子が自分から動き出すのをもう少しのんびり待ってやりたいと思います。この子はこの子で自分なりにやっていることがある。私は、私自身が不安から動こうとしているのか、楽しみの中にいるのかが大事なんだと思いました。HP、メールマガジン、今後の新しい企画、楽しみにしています。ご多忙のことと思いますが、お体に気をつけてご活躍ください。

これからもアドバイスお願いします。

-----以上、転載終了

Wちゃん、メールありがとうございます。

-----以下、木幡の返事

子どものあるがママを認める...、受容する=聞く...、という構えが大切なのですが、大人はどうしても「大人の論理」の正論で子どもに向かい合ってしまう。

そうすると子どもはますます背を向けてしまうんですね。

でも、子どものすべてを受け入れる事も不可能です。

そのへんのかねあいが難しいところです。

“指圧”の感覚をイメージしてください。

押された時、どう反応するか...、押し手の反応は...

お互いが気持ちいい関係になるには...

=====

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0010 ----- 1999/09/24

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. セピア色の原点に帰る
- 2. 変わりゆくアメリカの教育現場
- 3. お便りコーナー

=====

- 1. セピア色の原点に帰る

昨日、21世紀教育研究所の学習会に参加した。問題提起は、横浜市立大学教授の加藤彰彦さん。加藤さんのペンネームは“野本三吉”...。ぼくは「不可視のコミュン」以来の読者。出会いは今日がはじめてだったが、はじめてあった気がしない。昔からの知り合いが久しぶりにあったという感じ。加藤さんの場合、早々と学校tに見切りをつけ、各地の共同体を放浪、そして横浜¥ーシャルワーカーとしての実践(このへんについては「裸足の原始人」参照)、その後児童相談所のケースワーカーなどを経て現在に至っている。ぼくはといえば、大学をドロップアウトし、やはり共同体をふらつき再び復学、公立小学校を振り出しに学校幻想を追いつづけ、私立小中??b n り歩き現在に至っている。軌跡やアプローチの仕方は違うが、教育や子どもに対する追求の眼は似ている部分を感じていた。そして、昨日の学習会でその事を確認する事ができた。嬉しかった！加藤さんはハイデッガーの「存在と時間」を例に、“誰かの事が気になるC にかける”、つまり、“その人のために時間を費やせるL できる”あるいは“無償の行為としていつも見ているh そう言う関係性こそが重要である事を力説していた。そうなんだ、そうなんだよなあ...、とぼくは遠い昔を回想していた。はじめて教員になった25年前、放課後、子ども達と遊ぶ事が理由も無く楽しかった。時間が止まり、遊んでいるという感覚と同時に“遊んでいただいてありがとう”という感覚が進行していく。授業もそうだった。「こいつは面白いなあ。これを教材にしたら子ども達喜ぶかなあ...。」一人でニヤニヤしながら、教材研究をしたり、毎日学級通信を出す事が何の苦にもならなかった。明日の子ども達の顔が目に見えただ。 “あなたが楽しければ、私も楽しい。私が楽しければ、あなたも楽しい。”という関係を確かに実感できた。互いの“あこがれ”に寄りそうことのできる関係...、セピア色の原点...。今、ジャパンフレネというスペースでもう一度その感覚を確かめている毎日...。子どもの生活の中に根ざし、子どもと共に生きるという事を再確認できた...。そんな加藤さんと10月16日(土)、シンポジウムを行う。どんな話ができるか、今からとっても楽しみだ。

- 2. 変わりゆくアメリカの教育現場

日本の教育状況は自由化の一途をたどっているが、アメリカは、その逆を行っている。だいたい教育政策は、いつも振り子のように両極端に振れる。自由化路線に危機を感じ、獲得目標を明確に設定し、それを統一テストで測定しようとする動きがアメリカに出てきた。

同時にそのテストで平均以上の点を取らせた教員は給料がアップするというシステムも導入される。アメリカの教育改革について、下記のホームページ(US Front Line)にレポートされている。ぜひのぞいてみてください。

<http://frontline.cmclub.com/990905/index.html>

3. お便りコーナー

とおるさんからの便りです。

毎回、とても面白い話をありがとうございます。
1 + 1 = 2 にならない、と言うのは、プロレスも同じです。
(笑)

タッグマッチで二人のチームなのだけれど、
チームとしての力は2以上になる。
チームワークの事です。(笑)

----- (以上、転載終了)

いつもお便りありがとうございます。
ささやかな一言が、大きな励ましになります。
プロレスといえば、昔、教育関係の研究会で酔っ払った勢いでタッグを組み(女性を含むギャラリーが40人ほどいました)、みごとに“グランドコブラ”をかけられ(相手は猪木派の大ファン)、その後2ヶ月ほど足を引きずっていましたが・・・、とほほです。
(木幡の実体験です)

=====

=====
----- VOL.0020 ----- 1999/10/08

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. 親子三代...大遠足!
- 2. 強力助っ人...二人。

=====

1. 親子三代...大遠足 - 高尾山に行きました

降りそうで降らない...、そんな天候の中、行ってきました
“高尾山”...。でも紅葉なんて全くなし。
どうすんだあ! スタッフ・松岡!
気持ちよかった事は、事実。 久しぶりの森林浴。
お笑いはいっぱいあったけど、その最たるものは...。
「いいですねえ。親子三代のハイキングですか?」と、
聞かれた事。
なんだなんだ、ぼくたちの事か? 親子三代? えええ??

じゃあ、ぼくが“じいさん”かあ? スタッフ・松岡若菜
(29歳)がぼくの娘で、生徒はぼくの孫...? ざけんじゃねえ!
大爆笑!
「おじいちゃん!お小遣い、ちょうだい!」と、生徒も悪乗りしながらの大遠足でありました。

2. 強力助っ人...二人。

募集していたボランティア...、ぼくの独断で決定!
その名は...、あえて秘す。 ヒント、いけメンのK君(いつも登場するKちゃんではない)。
もう一人は、カウンセリングを担当するTさん。
日本拳法の達人でもあります。 ますます、充実するJFです。

匿名にしても、JFの新作情報に出すので、何の意味もない。

本日は、遠足ですべてのエネルギーを費やしました。
したがって、ジミ・シンプル...、ご容赦のほどを...。
デイリー・フレネは、平日刊です。
次回、10月12日(火)をお楽しみに!

=====

=====
----- VOL.0021 ----- 1999/10/12

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. 人が増えると...。「私は学びたい!」
- 2. 不思議なリングと矢
- 3. 正しい休日の過ごし方

=====

1. 人が増えると...。「私は学びたい!」

ジャパンフレネ、少しずつ生徒の数が増えてきた。
小5から高一まで...の13名。
いろんな関係が生まれてくる。
きちんと1日のスケジュールを立てることが出来る生徒、ずるずるとゲームに明け暮れる生徒、そこにはいろいろなわだかまりも出てくる。
「学びたいけど、何人かがゲームをしていると集中できない。」「注意したいんだけど、なかなか言えない...」
「 ちゃんがx xに対する態度がよくない」
いろんなことが起き、いろんな声が聞こえてくる。
どんなに小さな集団でも、そこは社会の縮図...。 スタッフは頭を悩ませ、会議を開く。
でも、押し付けはしない。まずは生徒に考えてもらうことから始める。

「ようちゃん、来週のミーティングで、提案してよ。」
「そうする。誰か司会してよ。」
机の配置を換えるのも、ゲームの時間帯を設定するのも、みんなミーティングで検討される。
そこからLawが生まれ、自律・自立が生まれてくる。
さて、今度のミーティング、何が作れるか...

2. 不思議なリングと矢

先日の遠足、高尾山で不思議なものを仕入れた。
グライNDER用の砥石(昔のEP盤レコードをイメージしてほしい。)の中の円に、1本の矢印型の木が突き刺さっている。どうしてそこにいれる事が出来たのか、全く理解できないという代物だ。
その木の先の矢と羽根がじゃまになり、中に突き刺しようがないように感じられる。
「おじさん、これってどうやって入れたの? 抜くこと出来るの?」

「 入れる事が出来たんだから、その逆をすれば出来るよ。」
うん、わからん...。その他にも、5円玉のリングを射貫いた形になっているものまで見せてくれた。
これら手作りのパズル。
矢の形をしている棒にはニスも塗られている。
こういうヘンなものに興味を持つのがぼく。
それぞれ、お金を出して譲ってもらう。
大きいのは2000円、5円玉のは400円。
この間いろんな人に見せている。

「なんか気持ち悪いねえ。」
「物理的には絶対無理だよねえ。」
「 珍答もある。」
「これは製作するのに相当年季がかかっていると思うよ。5円玉の下にタネを置き、苗を育てて穴に通るようにしながら、木にしたんじゃない?」(爆笑!)
しかし、天才(?)木幡は、その謎を解き明かしたのだ!
そして、このパズルを解く過程を授業化する事にも成功!
名づけて“科学的とはどういうことか?”という授業。

実に科学的に解明された謎とは...? それは秘密です。
 だって、明かすと授業になんないもの。
 このパズル、チャレンジしてみたい方はご連絡ください。
 これからぼくが作成し、お送りいたします。
 値段は、あのおじさんと同じ400円です(プラス送料)

3. 正しい休日の過ごし方

10月10日...、体育の日、朝8時に新宿につく。
 本日は“教師のための授業づくりセミナー”第2回目。
 親や保護者、子どもだけが悩んでいるわけじゃない。
 教師だって悩んでいる。特に良心的な教師こそ...。
 まずは“丹田呼吸法”でリラックス。
 明治大学の齋藤孝さんから教わり、最初は馬鹿にしていた
 ものの、最近結構はまっている。
 鼻から3秒間息を吸い、腹に2秒間ためる。15秒かけて、
 ゆっくりと口から吐き出す。この20秒1セットを2分
 間6セット、行う。
 これだけでずいぶん気持ちが違う。
 精神統一、リラックス、メンタルタフネス...、いろんな
 効用がある。だまされたと思ってやってみてください。
 けて、宗教ではありません。
 小学校の教材を中心に“ものづくり算数授業の作り方”を
 約2時間。教科書どおりにやっても、賢い子どもは育た
 ない。
 物に触れ、作り、実感する。そんな算数を目指している。
 「ためになるほど、つまらない。」...、押し付けの授業
 ・なにになのための授業って、こういう感じだと思う。
 “鳩目返し・柔軟角形”etcを作る。
 まずは教師が実感してみる事が必要だ。
 セミナーの後半、クラスの問題についての質問も出てくる。

子ども2人が、授業中立ち歩いて困ると言う...。
 みんな悩んでいる。何とかしたいと思っている。一人で
 すべてを背負う事は出来ない。
 家庭と学校の連携・ラインナップが望まれる。
 帰り、新宿・紀ノ国屋、池袋・ジュンク堂にて本を漁る。
 日本史の流れの中の必然として生まれてきた「火花」。
 その授業化のための資料を集めている。
 書籍代はなんとか一ヶ月5万円以内、できれば4万円以内に
 してほしいと連れ合いに言われているのだが、こればかりは、
 なんともならぬ...。
 かくして、体育の日の夜もふける...。

=====

==== デイリー・フレネ =====
 ----- VOL.0022 ----- 1999/10/13

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////
 1. The ミーティング! 自由と自律のはざままで...
 2. 不思議な“矢印” Tooruさんからの郵便り
 =====
 1. The ミーティング! 自由と自律のはざままで

おねいちゃんからクレームが出てきた。
 「ゲームの音で、学びに集中できない。」
 そこでさっそく、ミーティングとあいなった。
 司会、ちいちゃん。書記、スタッフ・若菜。
 [議題 1] ゲームがうるさくて、勉強できない

「この件に関して、何か意見のある人はいませんか？」
 「音立てないように、イヤホーンを使ってやってるよ。」
 「でもさあ、興奮すると『きいー』とか『このやるー』
 とかわめいて、うるさくなるじゃない。」
 「興奮しないゲームをやれば。」
 「時間を決めてやれば？ それ以外は、つけても画面だ
 だけ見ているとか。」(笑)
 「一切やらなくてもいいんだよ。」
 「学校みたいに時間を制約されるのは、いやじゃない。
 自由の意味がなくなるよ。」(拍手)
 「でもさ、スケジュールも決めないで、朝から晩までじ
 ゃあ...。スケジュールは朝のうちに決めてほしいよ。」
 「少なくとも、午前中はゲームをやらない。きちんと
 スケジュールを作って、1日の過ごし方を決めようよ。」(拍
 手)
 決定：午前中はゲームをやらない
 JFではこんなふう話し合い、論議を尽くした後、
 多数決で議事を決定していく。
 子どもスタッフも、各1票を平等に持つ。
 問題解決のために具体的な方法を決定していく。
 賛成意見には、拍手する。反論・批判も堂々とする。

[議題2] スケジュールについて

「突然、『授業!』と言われても困るんだ...。そこでね
 、月曜の朝10時~11時は基礎数学っていうように、
 ある程度コマを決めておきたいんだけど。」
 「それは賛成！」
 「午前中はコマを決めて選択し、午後は自由に過ごす
 てるのは？」「自習の体制を作ろうよ。」「英語をやる人、
 数学をやる人同士が集まって教えあえばいいよね！」(拍手)
 「英語は毎日少しづつ、継続してやってほしい。木幡さん、
 そうしてくださいよ。」(拍手)
 決定：午前中にいくつかのコマを決め、勉強したい人はし
 たい人だけで集まる。
 自習したい人はそれがかまわない。英語は毎日やる。
 「関連してスケジュールの事だけけど...」と僕が発言し
 た時、小学生のKちゃん「“関連”ってなあに？」
 「ええとね...」「あ、わかった。“しびれること”
 なの？」爆笑！それはね、“感電”。

[議題3] 配置替え

そもそも、ゲームの場所と勉強の場所が近いという事
 にも問題がある。これは、即決定した。
 決定：スペースの配置替えを行う。日時は、13日の午前中。
 生徒は10時半までに、集まる。
 ゲームと学習、結構もめると思ったが...、以外とすんな
 り納得したみたい。おねいちゃんの言うことには、み
 んな耳を傾けます。いい意味での縦割りの集団。
 そして、小人数というのもいい。この日の話し合いは、
 6人。自由と自律の重要な問題...、みんなそれぞれに考
 えて
 ています。

 2. 不思議な“矢印” Tooruさんからの郵便り
 ----- 以下、転載
 こんにちは
 今回の5円玉の物。ぜひ、お願い致します。
 15年くらい前に、パズルの本で読んだことがあるのです。
 その本の中では、5円玉に矢印型の木が刺さっている物と、

コーラのピンに穴があいていて、矢印型の木が刺さっているものでした。

5 円玉の方は解答が書いてあり、ドングリの目に 5 円玉を通し、

10 年程したら切って矢印型に削るとありました。

しかし、コーラのピンの方は、そういう方法では無いとありました。

こちらは、解答は書いてありませんでした。

(その後の雑誌で答えを発表したようですが)

気になって仕方がなかったのですが、それ以来忘れていて、今回のメルマガで思い出してしまいました。(笑)

ぜひお譲りください!!

そのパズルの本には、いろんな人の意見が載っていました。結構面白いので、書いておきます。

- ・苗木のうちにピンに通して、20 年ほど待つ。
- ・四次元空間に持って行って入れてくる。(数学者の弁(笑))
- ・木をハンマーで叩いてへこませて入れ、お湯をかけて戻す。(大工の娘さんの意見。実際にはそんなにへこませるのは不可能)

・先に木を作って、まわりにガラスを吹いてピンを作る。

(ガラス職人の意見)

・ある物理学者は、そのピンを数時間いじくりまわし、「結論が出ました。これは絶対につくれないと言う事です」

----- 以上、転載終了

いつもお便りありがとうございます。

前回紹介したパズル...、やはり興味を持つ人がいるってことに、嬉しくなりました。

やっぱ、こういう遊び心がなけりゃ、人生楽しくありませんよね!

がんばって製作し、送らせていただきます。

=====

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0023 ----- 1999/10/14

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 史上最大の集合! にぎやかフレネです
2. シリーズ“おねいちゃんのはなし” - その 1 -
(JF おねいちゃんの生態)
3. 本日のおすすめ

=====

1. 史上最大の集合! にぎやかフレネです

昨日発信したように、本日はスペースの模様替え。

「10時半集合!」と約束していたが...

来ました! トップバッター、いつものようにけんちゃん。

10時きっかり! それから、あれよあれよというまま...、8人が集合した。

これはJF 始まって以来の密度。「今日は、濃いなあ!」ちゃっちゃっと机や本棚を移動。学習のスペースが2つになって、ゲーム部屋が隔離された。

それぞれがスケジュールを設定し、それをスケジュール表に書く。だんだんとかっちり、そしてしづくキメることが出来るようになってきた。

本日初登場のようちゃん、「マジック・ザ・ギャザリング」が趣味。さっそく、対戦していたが「初心者なのに俺勝っちゃった!」ほえるけんちゃん。

それぞれしみじみと自分のスケジュールをこなしていた1日でした。

2. シリーズ“おねいちゃんのはなし” その1

(JFのおねいちゃんの生態を逐次お伝えします。)

Englishのひとつま...「定規を英語で言うかと?」すかさず「モノサーシ!」といったのは、ようこおねいちゃん。

そのおねいちゃん、初めて“立ち食いソバ”を食べたそう。だ。「なにを食べたの?」

「トロロそば。恥ずかしかったけど、おいしかった。」

「女の人、少ないんだよね。」

じつは昨夜、埼玉北部で授業をした帰り、あまりの空腹に大宮駅の構内でソバを食べていたら、部活帰りの女子高生(スポーツ系・ショート・ルーズソックス)らしい集団がどやどやと入ってきた。

見ていたら“コロケうどん”の大盛りを食べているのが約1名...。JFのおねいちゃんは負けた。

しかし、JFのおねいちゃんも負けてはいない。

「最近、何を讀んだの?」

「月と六ペンス」

「うーん、しぶい! サマセット・モームかあ...。その前は?」

「異邦人」

さりげなく、カミュが出てくるのが泣ける。

どうだい、中3・高1の年齢でこのラインを讀むってのは...。いまどき珍しい...。ここはJFのおねいちゃんの勝ち!

「おい! コギャル! 茶髪にしているのは、不良だぞ!」

丸坊主のけんちゃんが脱色系のサリーに言う。

さらに続ける。

「木幡さんはもっと不良だ! 髪を銀髪にしているもん!」(大爆笑)

いろんな髪、いろんな服装...、みんな違ってみんないい。

3. 本日のおすすめ

「教育が生まれ変わるために」板倉聖宣(仮説社)

1970年代の初期、教育誌“ひと”のアルバイト(なんと! バイト第1号、元祖ですよ)をしていた頃、板倉さんに出会った(そのほか、元帥・遠山啓、水道方式の神様・岡田進、井の中から大海を撃つ・新居信正...、もういろんな人に出会った)。

その後、ぼくも“ひと”誌の編集委員の末端に席を連ねるなどとは、ましていっしょに仕事をするなどとは、夢想だにしなかった。

これらの人達との出会いが、教師としてのぼくの生き方を決定づけたといっても過言ではない。

年齢に関係なく、実に生き生きとしている彼らは“永遠の若さ”を持っているように見えた。

そんな仕事をしてみたい...、そして教師になった。

板倉さんのいいところは、その一貫性である。

科学に裏付けられた方法 - 仮説実験授業、実際的な評価論、楽しさの追求...、いつまでも子どもの感性「ちょっといたずらしてみよう」。

そんな板倉さんの教育論です。ただ、“仮説実験授業”という枠の中での多様化だけではなく、他者との連携・ラインナップはどうなっていくのかも知りたかったです。

例の“矢印”パズルが掲載されている本

「一生遊べる 奇想天外パズル かぎりなく天才に近づける本」

芦ヶ原伸之著 光文社文庫 昭和59年(情報提供 Tooruさん)

=====

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0024 ----- 1999/10/15

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. “基礎・基本”ってなあに？ 教研集会に参加して
2. JF 語録...あれこれ
3. 学生さんからのお便りです

=====

1. “基礎・基本”ってなあに？ 教研集会に参加して

昨日、湘南教組の教研集会（算数・数学科会）に共同研究者として参加した。湘南教組とは20年来のお付き合い。この算数・数学会は“楽しいだけでいい！”という過激なスローガンを掲げ、異色の存在だった。が...、今年はずいぶんレポート数がたったの1本。今の教育状況の中、各教科の研究は人気がない。2002年以降の“総合的学習”を見込んだ環境学習などに人は集まる。そりゃそうだ、なんだかんだ言っても、結局やらなきゃいけないんだから...。それでも算数・数学科会には15人ぐらい集まった。その中で気になったこと一つ...。
「数学でいう基礎・基本ってなんですか？」という質問に中学教師が答える...

「中学校に入学してくる子供たちの中には、掛け算が出来ない子どもがいるんですよね。全く、中学校の授業が成り立たないんですよ。基礎・基本っていうと、やはり基本的な計算とか...、授業が成立するための最低限の知識ということでしょうか。」

まあそんなところだろうと、参加者からは、あまり反応がない。ここで、共同研究者・木幡登場！

「基礎・基本というのは、固定的なものじゃないと思うんです。例えば、時代や状況によって、あるいは授業形態によっても変わるんですね。」

15・16・17世紀のヨーロッパ、貴族と庶民の身に付ける基礎・基本は明らかに違った。貴族は学校などには行かなかった(もちろん階級差の問題はある)。学校そのものが今とは全く違った形態だった。

日本の寺子屋もそうだった。

学びの場は各自選ぶ事が出来た。

簡単に言えば“個”の学びである。

個の要求、個のレベルによって教え方も違うし、そういった意味で学びのスタートで基礎・基本はないに等しい。

教研で提出された基礎・基本は学校サイドの都合、および受験制度に乗った基礎・基本であることがわかるだろう。

基礎・基本は学びの中で獲得していくもので、基礎・基本をベースに学んでいくのではない。

では、基礎・基本とは何か？

“生きる力”などとは言わない。

「聴く 見盗る(模倣する)。ここから出発し、要約する・コメントする、そして段取っていく...。こういう具体的力=基礎・基本を想定し、それを獲得していく場が学校である。」

これらを自在に使いこなし、主体的に生きていく人こそが本当の意味での“自由”=“民主主義的主体”であるとぼくは思う。

いかがですか？

2. JF 語録...あれこれ

体験入学をしたHちゃんが帰る。

「また来てね！」「ゆっくりして行ってね！」

JFの子ども達が声をかける。

そばでこの様子を見ていたHちゃんのお母さん...

「声をかけてもらうって、嬉しい事なんですねえ！」

「おめえ、じゃまなんだよう！」とAくんがBちゃんに言う。

「A！そんなこと言うんじゃないよ。」

「そうだ！そうだ！」まわりがたしなめる。

そのとき、Bちゃん「まあ、そういうこともあるさあ。人生、長いんだからあ！」(大爆笑！)

おねいちゃんたちが好きな人のことなど話している。

「Kちゃん、まだ好きな人なんかいないだろう！」

「いたよ！おばあちゃん！」(大爆笑！)

「でも、死んじゃったの...。」(しみじみ)

「犬っておもしろいんだよ！ 火薬に火をつけてバン！って脅かすと『ワン！』って言って、パターンと倒れるんだよ。

“ワンパターン”)(誰も笑わず、冷たい風が吹く)

「ジャパンフレネって生徒とスタッフが一心同体ですよね。」

JF通信の折りこみを子ども達に頼んでいた時のおねいちゃんのセリフ。

3. 学生さんからのお便りです

毎月一回やっている学習会に慶応大学の2名が参加。いろいろな人が集まり、ラインナップを作っていきます。

-----以下、転載。

土曜日にお邪魔させていただいたA・Sです。

遅くなりましたが、ごちそうさまでした。

授業についての学習会、というのでしょうか、ミーティングはとても面白かったです。

私は教職課程も取っていないので、教育実習もなく、現場の先生のお話を聞く機会がまったくなかったのととても新鮮でした。

また機会があったら、その時もよろしくお願いします。

それでは失礼します。(A・Sさん)

-----以上、転載終了。

終了後の飲み会。基本的に学生さんには、ご馳走します。ぼくも学生の時は、さんざんお世話になりました。ですから、ぼくはいつも当時を思いだし、ご馳走します。ただし、木幡の老後は頼んだぜ！？

デイリーフレネは、平日刊です。

今回は、18日に発行します。

=====

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0025 ----- 1999/10/18

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. なんで学校なの？ シンポジウムにて
2. “まったり”の月曜日...、はああ
3. 本日のおすすめ 学級崩壊の原因・中間報告 (文部省のサイトです)

=====

1. なんで学校なの？ シンポジウムにて

の娘である娼婦のソーニャが語ること、その語り合い、対話によって醸し出されるシンフォニーのようなものが、ドストエフスキーの語りた内容だととるわけですね。」これをバフチンのポリフォニー論というが、ぼくが大昔『罪と罰』を読んだ時、とてもこういう読み方は出来なかった。ラスコーリニコフの生き方を自己に照らし合わせ、正当化の道具にしていたにすぎない。ところがどうだ！ バフチンの言う世界、これは授業の世界そのままと認識する事が出来る。「教育は伝達ではなく“対話”である。」というパウロ・フレイレ。

佐藤学の言葉でいうなら「テイラーリング・オーケストレーション」ということになる。これに関してぼくは「教材を媒介にして引き起こされた事件の波紋」といつている。

その他にも「われわれのために書く」「自己と他者の関係のために書く＝共同体のために書く」など、教育にリンクしていくエッセンスがいっぱいです。

2. しっとり、にぎやかな火曜日

あれあれ...、どうしたのかな？
今日は朝からみんな机について、お勉強...。どういうわけか、みんな英語をやってるぞ。

じゃあぼくも...、こうちゃんとEnglish。

「私もやるよ。」とちいちゃんも仲間入り。

「Who is he?」「ええっと...、あれは...?」

「おいおい、彼は物じゃないぞ。」(笑)

「俺って3歳ぐらいから英語やってるのに、全然上達しない。」とけんちゃん。そろそろ飽きてきて、にぎやかモードかな？

「欽ちゃんの仮装大賞に出たい!」「できれば...」と、子どもたち冷たいんです。「木幡さんて大人のくせに子どもっぽいだよ」「そうそう、トランプやってる時なんかもむきになってさ、大人げないんだよなあ。」

「だんだん幼児化して、赤ちゃんになってくんじゃないの。」
「遠足でリフトに乗った時、『ヤッホー!』なんて言ってさ、子どもみたい。」

「子どもでもやんないんじゃない。」(大爆笑)

ガキオヤジなんていわれている、今日この頃です。

3. チェ・ゲバラに続け!?! JF静岡支部からのお便り

静岡県からのお便りです。ジャパンフレネの静岡支部(通信局)

をお願いしたところ、快く(?)引き受けてくれる事になりました。

全国各地、通信員になってくださる方を募集します。

各地のニュースを発信してください。

-----以下、転載。

JFの皆さま、木幡さん、こんにちは。

メールマガジン、拝読しております。

”タメ口”、”ぼやき”ですが、ご容赦ください。

全く、気がないのです。

「市民」に気がないね。なんかそう思う。

このままじゃやばいよ。

「市民」像も、ステレオタイプなおぼはんを

想像してしまう。「市民派」の書いた、

「買ってはいけない」を読んだら、

情けなくなったよ。

もう、自分で動きを作るしかないんだろうか。自分の感覚を信じていくしかないんだな。

当事者はいちばんつらいんだ。わかってほしいよ。

実験のためのプレパレートなんかじゃない。

訴えていく元気がわたしにはまったくないのが情けない。

不登校を体験された方のご意見、木幡さんの、いわゆる”選別化”(とでもいいましょうか?)についてのご意見にとっても共感いたしました。

チェ・ゲバラに続け! 今こそ闘争を! (うそ)

(静岡M・S)

-----以上、転載終了。

ゲバラ...、懐かしいですね。以前ボリビアに行ったとき、ゲバラは禁句でした。

今はどうなっているのでしょうか?

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0027 ----- 1999/10/20

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 決定! 時間枠...授業バリバリ!

2. 盛り返そう! 私塾の会!

3. ずばっと2本です

=====

1. 決定! ...時間枠...授業バリバリ!

「勉強やりたあい! ゲームがうるさあい!」

あれこれルールを決めて、あるていどの時間枠も決めようかということになったのだ。

ぼくの好みで・子どものニーズで授業をやっていたが、午前中になんこマカ決めて、選択可能にしてくれという事...

「でも、それをやると1週間のスケジュールを決めてもらう事になるよ。こっちの仕事、みんなのスケジュールを調整して、枠以外の授業を設定しなきゃいけないから。」

「そのほうがけじめがつくよ。」とようちゃん。

「でもさあ、これまで1週間のスケジュールさえ決められなかったのに、いきなり1週間のスケジュールを決めるのは無理だよ!」と、けんちゃん反論。「

少なくとも、午前の選択をどうするかは、自分で決められる?」

これは大丈夫みたい。あれこれあれこれ討論して...、決定! 以外や以外...、週間スケジュールは、全員が支持!

(1) 1週間のスケジュールは前もって決める。

(2) 選択授業は各自自由に選択。選択する・しない、全く取らない、それも自由。

「出られなかったら遅れちゃうようなことはないの?」

「それは大丈夫。マンツーマン、もしくは小人数だから。」

月曜日

11時 英語

基礎数学

12時

その他決まった事、いろいろ

左のように設定したら、英語基礎数学をやる人はそれぞれ選択。そうでない人は、自由にスケジュールを決める。

水曜日の午後に“ 絵画教室・工作教室 ”を行う。
水曜日はどこかに出かける日としても使う。
金曜日の午前は、散歩の時間とする。

近日中に予定されている事

日本橋まで歩くツアー

22日(金)は「野口記念館」に行く。

みんなで決めた“ 毎日の生活 ”...、自由と自律の真の意味が問われる！

2. 盛り返そう！私塾の会！

先日、私塾の会からお声がかかり、今考えている事をあれこれ話してきた。

私塾の会は教育誌“ ひと ”をベースに1983年に発足。オープニングには150人以上も人が集まったそうだ。その後、廃業する人も増え会員は減少の一途...。最近は何回にも3人しか集まらないということもあったと聞く。今回はそれでも15名の参加。

「良かった、良かった。」「活性化の道が出来ましたね。」

懐かしい顔にも出見え、浸ってしまった一日...、それにしてもなんとか盛り返したい！

次回の例会はジャパンフレネを会場に、科学実験が行われる。ぜひ、おいでください！

私塾の会“ 1月例会 ”

日時：2000年1月26日(日)午後2時～5時

場所：新宿ジャパンフレネ

内容：楽しい科学実験(麻布科学実験教室：阿部昌浩さん)

参加費：500円

3. ずばっと2本です

全国各地からのお便りありがとうございます。本日は、女性からのお便りを2本お届けします。

-----以下、転載。

初めまして、木幡さん。

昔学校に勤めていて、今は会社員してます。

今日の通信を読んでいて、女の人に対する結婚して一人前、子どもを産んで当たり前といったジョーシキのことをふと思いました。

でも、結婚してもいいし、しなくてもいい。

子どもを産んでも生まなくてもいい。

離婚だってしなくちゃいけなかったら

すればいい。

いろんな人が自分に納得できる生き方のできる

社会であることが大事だと思う。

一つの枠をこしらえて、こうすることで

しあわせになれるよっていうおしきせで、

これまで女の人たちはいろいろ大変だったんですね。

関係あるような無いようなメールですみません。

でも、私の中ではつながったんです。

これからも通信、読みますね。

飲みすぎませんように。

(いわゆき)

-----以上、転載終了。

いわゆきさん、お便りありがとうございます。

ジョーシキを疑ってみると、新たな世界が展望できますね。

尿酸が出ているので、酒は控えめというお達しが主治医から出ました。

続いて、美香さんからの便りです。

-----以下、転載。

木幡様

はじめまして。

私は、栃木県に住んでいます、勝田美香という者です。現在、派遣講師として企業で英語(TOEIC対策・英会話)を教える一方、自宅で、たった3人ですが、(大人2名・子供1名の2クラス)英会話教室を開いています。

4月から今の勤務状態になるまでは、某大手児童英語スクールで、週に15クラス、約100人の子供(3才から中2まで)を相手に講師をしていました。

いろんな子供達を見てきました。

いろんな話をしました。

いろんな事を考えました。

その中で、私の悩みは絶えることはありませんでした。英語スクールの講師なのだから、英語さえ教えていけば良かったのですが、ひとりひとりの子供の個性、悩み、問題が、一週間にたった一回のレッスンの中でもはつきりと見えてしまうのです。

見えてしまうものに、目をつぶることは、私にはできませんでした。だから、必死にぶつかったこともあったし、どうしていいのか途方に暮れてしまうこともあったのです。でも、学校=会社は、英語さえ教えていけばいいと言う。いえ、英語の教授法を相談しても、返事をもらえない時すらあった。

ただ、「生徒の数を増やせ！増やせ！」と言うばかり...。なんだか、せつかく子供達というチャンスを与えてもらっていたのに、私は、他のことがつらくなって、そして、その仕事を辞めました。

あれだけ、多くの子供を目の前にできる、素晴らしく興味深い時間だったのに。

いつか、自分で、ささやかながら、子供達と時間を共有できるスペースを作れたら、と考えていた所、偶然にも、テレビとインターネットでフレネの存在を知りました。早速、メールマガジンの購読手配をし、フレネについて、木幡さんについていろいろ知りたいと考えました。

そして、フリースクールというものについても。

本当は、木幡さんにいろいろお聞きしたいことがあるのですが、自分の言いたいことを書くだけでも、こんなに長くなってしまいました。

許されるのなら、また次のメールにて、質問をさせていただきます。

大変恥ずかしい出来なのですが、私もホームページを持っています。

お時間があれば、遊びにいらして下さい。

<http://www.interq.or.jp/japan/mikansky/>

TOPページに、小さく“go to FP”とあります。

隠しページへの入口です。

私の本音を書いているページです。

では、長々と、申し訳ありません。

-----以上、転載終了。

美香さんのHP、グラスを片手にジャズを聞きたく

なるようなムード...。ぜひ一度、のぞいてみましょう！

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0028 ----- 1999/10/21

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. “ギャザリング ザ マジック”
銀髪先生はさっぱりわからない
2. 大検情報！ ますますレヴェルダウン？
3. 保坂氏とのシンポジウムを別角度から...

=====

1. “ギャザリング ザ マジック”
銀髪先生はさっぱりわからない
“ギャザリング ザ マジック”というゲームがある。
ようすけ君が大好きなんだけれど、やり方が複雑で、1回聴いただけでは、さっぱりわからない。
要するにカードにいろいろな役割があり、それを出しながら相手を攻撃し、持ち点がなくなれば負け。
こう書くとシンプルなんだけれど、積極的にやろうと思わないのか...、全然覚えられない。
「やーい、やーい。おじさんはだめだね。」
そばで見ていたけんちゃんにやじられ、「うっせー！」と返すと
「大人げなあい！」「こどもっばーい！」とか逆襲される。
だめだ...、子どもの遊びについて行けなくなってきた...。
「木幡さんの髪、しろーい！」
「白じゃないもん、銀髪。」
「ちがうよ、ほとんど白！」
ううむ、いろいろ言われて悔しい...。
そこで「新宿2丁目銀髪先生！」(脈絡なし)
爆笑と共に「ばーかジャン！」...。むむむ...、くやしー！

2. 大検情報 ますますレヴェルダウン？
某大手予備校の知人に聞いた話...。
今年の大検の一発合格率は、全国受験者のなあと！
50%という事だそうだ。
毎年8月に行われる大学入学のための検定試験、これまで全教科の一発合格は30%ぐらいだったのが急上昇。
50%と聞いた知人、「こんな馬鹿な事はない。もう一度確かめてほしい。」やっぱり間違いはなかったとか...。
しかも、この予備校の合格率はさらに高く、70%！
「ちなみに英語のテストの最低合格ラインは28点だってえから、驚いちゃったよ。例年、50~60点台だったのに...。どうなってるんだか？」
少子化、そして大学進学率の上昇...。
大検もますます通りやすくなっていくの？
これはいい事なのか、それとも...。

3. 保坂展人氏(衆議院議員・社民党)とのシンポジウム

これは先日報告したシンポジウムを別の角度からながめたものです。(週間メルマガより転載)
野本三吉氏(横浜市大)が発熱で急遽欠席...、木幡と保坂氏の二人でシンポジウムとあいなった。
先日の“君が代・日の丸”法制化と今後の教育情勢について保坂氏はこう言う。
「いきなりの法制化で市民運動が対応できていない。だいたい市民運動は問題が起きてそれに対応するのに、2~3年かかる。体制が整わないのにスコンとやられてしまった。

自民党の2世議員の大多数は明治以来の教育観を持っている。『不登校生徒の保護者には刑事罰を！』なんてことをいいかねない雰囲気がある。“君が代・日の丸”法制化とタイアップし、教育の反動化が懸念される。」
ぼくも似たような感想を持っている。
先月号の“論座”(朝日新聞社)で寺脇研氏(文部省政策

課長)は、次のように話っていた。
指導要領における教育内容の30%削減によるゆとりでどの子も100点取らせるようにしなければならない。

これができないと問題になる。
「総合的学習」を導入し、知識偏重の教育を是正する。
ただし、お金がないのでボランティアを有効活用する。

教師に求められるのは、これらボランティアをまとめてコーディネートしていく力である。
経団連のHPを覗いてみると、同様な事を寺脇氏は言っていた。
また、あちこちの教育センターでも同じ話しをしていると聞いている。
かなり、本気と言っていていいだろう。
しかし、これら三つを教育現場に求めるのは酷だろう。
「こんなにたくさんさんのことは出来ない」という声が、現場から出てきている。学力格差も心配される。
例えば中学校での英語の必修単語は従来の5分の1におさえ、100語。これだけは全員に叩き込み、もっと学びたい生徒にはそれを保障するというが、いまの受験体制の中、レヴェルの高い高校・大学への進学熱の激化も心配されている。
公教育における中・高一貫教育によるエリートの養成と同時に、各領域におけるエリート養成と中間労働層の拡大としか、ぼくには思えない。
現場はますます混迷を深めるだろう。そんな事を感じた。
そこで本日のおすすめ

「経団連くりっぶ No110.-021」
教育改革について文部省寺脇政策課長に聞く
(下記のURLにアクセスしてください)
<http://www.keidanren.or.jp/japanese/journal/CLIP/clip0110/cli021.html>
“文部省のホームページ”より、文部省ニュース
「学級経営をめぐる問題の現状とその対応
関係者間の信頼と連携による魅力ある学級づくり」
(下記のURLにアクセスしてください)
<http://www.monbu.go.jp/news/00000369/>
「“学級崩壊”の原因...7割は教師の指導力不足」と報道された学級経営研究会の中間報告です。具体例がたくさん。
=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0029 ----- 1999/10/22

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 作ったぜ！ 「矢印パズル」と「コンポートゼリー」
2. さっきまで死んでました...、やっと復活
3. 本日のおすすめ

=====

1. 作ったぜ！ 「矢印パズル」と「コンポートゼリー」

懸案だった“矢印パズル”...、授業レシピを作ってしっかりと授業化しました。解答はここに書きません。
皆さん、考えてくださいね！
そんなこんなで、昨日の午後はパズルづくり。東急ハンズに子ども達が材料を仕入れに行き、さあ開始！
[材料 道具] 五円玉 木材 ニス 刷毛 紙やすり

糸鋸 鉄鋸 カッター

その他あるものが必要だが、それを書くときパズルの正体がわかるので秘密です。まずは矢印()を木材で作るんだけど、これが大変！矢印のこの部分(真中の棒)を5円玉が通る太さに調節しなければいけない。

今の子ども達、ナイフを自在に扱うことがとても苦手だ。ぼくが小3の時、浅沼稲二郎刺殺事件をきっかけに“子どもに刃物を持たせない運動”というじつにくだらな運動が起こり、学校から“肥後の守”が追放されてしまった。それがじわじわと子どもの身体活動に影響を及ぼしている。「あー！もうちょっとだったのに！」完成間近で矢印が折れたり、すんなりと5円玉の穴を通るはずがなかなか、通らなかつたり…。いやはや大変。

これの完成品、400円で売られていたのがよーくわかりました。納得です。

みんなでこういう作業をしていると、必ず一番に完成させようとするやつがいる。ぼくもわりとそのタイプ。

女のこは矢印ではなく“クローバー”を作り、5円玉に可愛く通していました。

この後、女のこが中心になり、“りんごのコンポート”ゼリーを作って、この日はチャンチャン！

明日の“「選択登校」を語る会”に参加の皆さんには、このゼリー召し上がっていただきます(ただし、先着12名)。

「作らないの？」「やーだよ！パズルなんか興味ないもん。」中1のけんちゃんと小5のKちゃんは、ゲームの道をひた走る。

でも、パズルづくりにもちょっとは関心があるのか、なんかやかと干渉してくる。

「けんちゃん！パズルづくりをやってないのに茶々いれないでよ。」

「ね？“茶々”ってなんだ？」

と小5のKちゃんに聞くけんちゃん。(爆笑)

合いの手を入れる感じのKちゃんの応答がまたいい！

「“チャチャ”？おもちゃのチャチャチャ？」(大爆笑)

本日もジャパンフレネ異常なし！

2. さっきまで死んでました…、やっとな復活

昨夜、工藤順一さん(DF28号参照)と飲んだ…、飲んだ…。1949年生まれ同世代ということで、話が尽きないんです。

今朝目覚めたら少し酒が残ってました。年をとったら回復が遅い。

今日の午前中は散歩の時間になってるので、ちょっときつかった。

「大人ってどうしてお酒飲むの？」

「二日酔いになるまで飲まなくてもいいんじゃないの？」

あれこれ、子ども達にいわれてしまうぼくです。

工藤さんとの話は、やはり今の教育、特に母国語能力を自在に操る主体の問題。それに“空間・場”の問題を絡めて、表現者としての主体・共同性と広がりました。

テキストなども見せていただきましたが、プロの仕事ですね。公教育の中での国語教育をはるかに凌駕するものだと感じ入りました。これからの協力・ネットワークづくりが楽しみです。

3. 本日のおすすめ

「マルセ太郎 記憶は弱者にあり

- 喜劇・人権日本を語る」森 正編著(明石書店)

ぼくの好きな芸人、一人はすでに亡くなった早野凡平、縄やハットのツバの芸がおかしかった。そしてもう一人がこのマルセ太郎。猿の形態模写から出発し、一人芝居・一人語りの芸を確立。彼が在日朝鮮人である事を知ったのは、そんなに昔の事ではない。彼が“日の丸・君が代”を痛烈に笑うコントを仕掛けるのも、そんな背景がある。芸の裏に潜む彼の間人観・哲学観…、自由と管理、あるいは革新と保守というパラダイムで何かを語るのではなく“偽物・本物”という視座を持つ。刺激的な一冊だ。

デイリーフレネは平日刊です。

今回は10月25日に発行します。

感想、お便りなどどんどんお寄せください。

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.00 30----- 1999/10/25

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. “野口”をたずねて三千里
2. こいつはひどい！ 幼児虐待HP

=====

デイリーフレネ…、「ちょっと長い」という意見がありましたので、今回はぼくなりコンパクトにしてみました。

ご意見・ご批判よろしく願いいたします。

1. 「野口」をたずねて三千里

ううう…、頭が痛い。昨日、飲みすぎた。ちょっと横になったら…、「木幡さん、いびきかいて寝てましたよ。」とスタッフにチェックされる。「どうするんですか？行くんですか？行かないんですか？」「行く！絶対行く！」今日は散歩だ。楽しいな！

気力を奮立たせ「みんな行くぞ！」

(金曜日の午前中は散歩の授業)

「行きたくない！」と言っていたけんちゃんのバッグの中にテニスボール。

「それどうすんの？」

「いや、どっかボールで遊ぶところがあつたらと思って…」

「なんだよ、一番、行きたかつたて事じゃないか。」

「へへえ」(爆笑)

目指すは「野口だ！野口記念館！」

たぶん、野口英世の記念館だと思っただけ、ちょっとあやしい。

「野口英世ってなあに？」

今の子どもにとって、野口英世はすでに死語。

「昔はえらいと言われた人。今は借金の天才と評価されたりもする人。」(福島県の皆さん、すみません。)

「本当に記念館あるの？」「下見してきたの？」

ジャパンフレネから徒歩20分。地図には確かに“野口記念館”があるのだが、それがかの野口英世の…？ 自信がなくなってきた。

商店の人に聞いてみる。

「ああ、すぐそこですよ。ほら、“野口ハウス”って看板があるでしょ。そこを曲がつたところ。」

なあにい...、野口ハウス？もしかして土地の名士の記念館？

子供たちの非難が目につかぶ。

しかし（この接続詞で意味が逆転！）、曲がったらパーンと目に入ったのが、“野口英世記念館”の金看板！

「やったあ！」と感動したのはぼくだけか...

入り口隣の小さな部屋が展示室。

「これだけ？」子ども達は約3分で見学終了でした。

帰りは裏道を戻る。思わぬところに神社があったり、都心でも以外と静か。

散歩はいろんな発見がありますよ！二日酔いも治ったし。

ちゃんちゃん！

どうでしょうか？やっぱり長いかな？

2. こいつはひどい！ 幼児虐待HP

ぼくの所属しているメーリングリストに児童虐待を正当化しているHPのことが載っていました。

堂々と“幼児虐待日記”などを掲載しています。

この人は本当に虐待を正当化しているのか、それとも心の中に

何かあり癒されたいのか...、ぼくには判断つきかねます。

もし本当にこのような行為が行われているとしたら、大変な事

なのですが...。一度覗いて、感じた事を発信してみてください。

<http://www.geocities.co.jp/SweetHome/2823/>

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0031 ----- 1999/10/26

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. 記録は破れず！ 立方体パズルはつおおおい！
- 2. 読み聞かせは疲れます
- 3. 堂々、発表！ シネマアイドルBEST10！

=====

- 1. 記録は破れず！ 立方体パズルはつおおおい！

「いやあ、1日で完成させますよ。」と、けんちゃんパパ。この5年間誰も完成できない“立方体パズル”を自宅に持ちかえた。

さて、本日、月曜日...「オヤジさん、パズルできた？」無言で紙袋を取り出し、中からパズルを取り出すけんちゃん...、なにがいい！「できたの！」

中から出てきたのは...立方体の枠に入りきらず、はみ出ている立方体の破片。

「なんだよう！紛らわしい真似するんじゃないよ！」

二人で顔を見合わせて大笑い！

「みんなが話しているときも、台所で一人でやってたよ。」

1995年に購入以来、誰も出来ない立方体パズル。

だてにメイド インスウェーデンじゃない！

2. 読み聞かせは疲れます

「絵本を持ってきたの。読むから聴いてくれる？」

というわけで、本日は絵本の読み聞かせ。

作品は映画にもなった「木を植えた男」(ジャン・ジオノ原作 フレデリック・バック絵)。中・高校生にはいいが、小学生にはちょっとむずかしいかな？

たまたま見学に来ていた女の子も含め、はじまりはじまり！

ところが「ああ...、うう、えふっ！」

「なに緊張してるの？」

「いやあ、久しぶりだから。」

「こはたひろし、男しじゅうく！がんばります！」

おどけるちいちゃんに爆笑！ これでほぐれてスタンバイ。

いやあ、結構疲れました。

みんな静かに聞いてくれて、ありがとうね。

「途中、眠たくなった」という声もあったけど...

絵本・児童文学書を譲ってくださる方いませんか？

ご連絡ください。

3. 堂々、発表！ シネマアイドルBEST10！

週刊文春を読んでたら「読者3500人大アンケート！」

ということで映画のアイドル特集をやっていた。

吉永小百合と一緒に写真に映っていた浜田光夫を指差して、

おねいちゃん「だあれ、この人？結構、いけメンだなあ。」

「キューポラのある街、ああ、鐵工所の話ね。」

「鉄工所じゃないの。鋳物工場。」

「鋳物ってなあに？」

すでに死語の世界。

JFにも“キューポラのある街”のビデオがある。

「途中まで見たけどやめちゃった。」

時代は変わりました。

では、発表です！（50位まで書いてあったけど、ここでは10位まで。気になる人は文春を買うか、JFに問い合わせてくださいね）。

(1位) 吉永小百合(キューポラのある街) ダントツ！

(2位) 山口百恵(伊豆の踊り子)

(3位) 夏目雅子(瀬戸内少年野球団)

(4位) 薬師丸ひろ子(セーラー服と機関銃)

(5位) 原田知世(時をかける少女)

(6位) 関根恵子(おさな妻)

(7位) 秋吉久美子(妹)

(8位) 由美かおる(同棲時代)

(9位) 田中裕子(「男はつらいよ」花も嵐も寅次郎)

(10位) 宮沢りえ(ぼくらの七日間戦争)

ちなみに、ぼくが好きだった内藤洋子(喜多嶋舞のママ)は19位、広末涼子は27位でした。

以上、報告終わり！

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0032 ----- 1999/10/27

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. 西武新宿駅までの道
- 2. 工藤順一さんからの郵便

=====

- 1. 西武新宿駅までの道

「ちかちゃん、待ってて。仕事もうじき終わるから、一緒に帰ろうよ。」というわけで、おじさんはおねいちゃんと帰る。

西武新宿駅までゆっくり歩いて、10分。途中には日本最大の繁華街と言われる歌舞伎町を通る。

若者の生態がよくわかる。若者言葉で言えば、ぱつきん・やまんば・うーろん茶(うざい、ロング、ちゃぱつ)のオンパレード。

「私、いつも地下を歩いていくんだよ。へええ、上を歩いていけるんだア。」などと、とても東京生まれとは思えないような事を言っている。

「ちかが地下に行く。」
 「木幡さあん、もっと気のきいたことってくださいよう。」
 「例えば、どんなこと？」
 「『ぶどう、ひとつぶどうぞ』とか、『アルミ缶のうえにあるみかん』
 とか、へへえ。」
 たわいもないことを言ってるうちに、着きました。
 「じゃあねー！」本日もジャパンフレネ、平穏なり。

2. 工藤順一さんからのお便り
 「国語のできる子どもを育てる」(講談社新書)の
 著者・工藤順一さんからのお便りです。

教材の件ですが、いままで数え切れないぐらいの種類の
 国語の教材を作ってきました。
 その動機は現在の教材のひどさへの怒りからです。
 そのうちで自己推薦するならば、何といっても、みくに
 出版から出たもので、たいていの本屋さんに置いてある
 「長文読解記述教室」がお勧めです。
 詩そして物語をどうに読んでいけばよいのか、レトリッ
 クや言外の意味をどう教えるべきか、ヤコブソンの詩学と
 構造主義系記号学などの達成をもりこんでいますが、
 むきだしの学問は包み隠しています。
 難しいという意見が圧倒的なのですが、私はまったくそう
 は思っていません。小学校の六年生から使えるのですから。
 これは職務出版ということで、著作者として私の名前は入
 っていませんし、印税も何も関係ありません。
 思うに、教材や学参の貧しさはこの国の文化の貧しさを象
 徴しているようです。考える教材、表現する教材、子ども
 時代ほどそれを必要とする時代はないでしょう。ですが、
 この国ではそれがもっともおろそかにされているようです。
 さいきん見なおされているインディアンの文化には「教える」
 という意味の言葉がないそうですが、それは識字文明以前、
 近代化以前の社会でのみ通用することでしょう。高度な知識
 と情報を駆使する社会ではインディアンのように見ようみま
 ねだけでは何一つ学べないはずであり、どうしても教えるこ
 と
 ぬきには成り立たないはずです。
 その大切なひとつとして書くことがあります。
 話すようには書けないのです。日本が達成した近代と高度な
 識
 字文明をどう考え、捉え、受け継いでいくのか。それを考え
 てい
 る教育者が日本に果たしているのかどうか危ういと思います。
 「論座」での寺脇さんの議論はそこから読むと教育でも学びで
 もなく管理でしかないことがわかります。それならそのよう
 な
 データベースを作ればいいだけです文部省の怠慢はそれす
 ら
 ないことです。
 真剣にそして死に物狂いで、この老いた文明を修正してい
 け
 めに学ぶ子どもと大人を作り出していく運動に荷担したいと思
 うし、安易に、たとえば縄文がいい森がいいといってもそこ
 に
 はもどれないわけですから、ロマンでしかない聞きやすい文
 明
 論は、もういいと思うものです。
 著書に書かれている「こぼちゃんの実践」あるいは

「ロダンのこころの実践」を追試して、あらためて
 ぼくの感想を書いてみたいと思います。
 ありがとうございました。

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0033 ----- 1999/10/28

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 面目丸つぶれ...、とほほ
2. 「“ 選択登校 ” を語ろう会」に参加して

=====

1. 面目丸つぶれ...、とほほ

「算数道場<http://village.infoweb.ne.jp/~plato/>」と
 いうホームページがある。
 ここに月3回、算数の問題が出る。解答をメールし、先着
 10名にはカードがもらえる。ぼくも毎回楽しみにしている。
 今回はじめて解答を投稿してみた。もちろん、自信満々！
 ついでにジャパンフレネの子どもにも同じ問題を課題とし
 て出し「正解者には、日テレ式のテレカをあげるよ。」
 といっておいた。

ところが...、
 - - - - - 以下、転載。
 「算数道場」へようこそ。
 折角のご投稿でしたが
 これに懲りることなく
 - - - - - 転載、終了。
 なんじゃい！ 何でまちがってんの？！ もう一度問題を見
 てやり直しだ。(レヴェルは小5ですぞ)
 実はこのホームページ、ぼくの高校時代の同級生の草村君が
 やっているんですよ。草村ああ！どこがちがうんじゃい！
 ...と、ほえてもだめか。 面目丸つぶれ...。
 - - - - - 以下、転載。

「週間メルマガ準備第4号」で
 てありがとう。
 おかげ様で
 本当にありがとう。算数道場は最近やっと定着してきたかの
 ようです。
 投稿者も多くなってきました。受験算数の解法を解説して
 いるのですが
 徹に通しているところをよしとする人も多いようです。
 投稿者のほとんどは
 ている人です。中にはおばちゃんもいますよ。
 「教師とインターネット」という本でも紹介されました。
 土曜日に算数関連サイトを調べてみたら
 ぶりに驚きました。以前は
 しかなかったのですが
 不況のせいかしら。
 それでは
 そのうち
 - - - - - 以上、転載終了。
 草村君、お酒はご馳走してくださいね(残念賞というこ
 とで)。
 後日談
 その後、再チャレンジ、リヴェンジ！ やった！
 堂々の正解、HPに名前が載りました。
 草村君に転載許可をメールしたところ...。
 - - - - - 以下、転載。

木幡寛がミスったということはマル秘事項にしておりますのでご安心ください。

えーっ
ください。
この問題

ます。また
学生も以前誤答をしたことがあります。
実力のある人ほど簡単にミスを侵す傾向があります。
どうぞご安心の程を。
草村算達

2. 「“ 選択登校 ” を語ろう会」に参加して
10月23日(土)に行われた例会の感想がメールされてきました。

以下、転載。
先日は有難うございました。
大変有意義な時間をすごせました。この一ヶ月、色々資料を読んだりホームページを検索したりと、不登校について少しは勉強したつもりでしたが、現実には厳しくつらい物ですね。
親達はあの場で、理解して分かり合おうとする人が居ることを確認できて、その向こうにいる子供達は、ほんの小さなきっかけを掴めずに葛藤してるのでしょうか。その子供がいる、その場で学ぶことが、普通のこととして認められる事が選択登校ですね。
さて親や大人は、その学びのきっかけをどう示して行くのか、ああして語る場は親が冷静になり、理解し合える人がいた、と思えるだけでなくにかを探し出し、提案し、試していければと強く思いました。
またお邪魔します。
(一参加者より)

以上、転載終了。
ありがとうございます。学校以外の学びの場が保障されなければ、救われない子ども達がたくさんいます。提案や試みが出来るよう、例会を続けていきたいと思えます。

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0034 ----- 1999/10/29

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. “ ゴーヤ ” を描く 水曜日は絵画の時間
- 2. 児童虐待のHPの反響

- =====
- 1. “ ゴーヤ ” を描く 水曜日は絵画の時間

ゴーヤって知ってますか？ 別名(本名か?)にが瓜。沖縄でよく食べます。ぼくは、ゴーヤチャンプルが大好き!

そのゴーヤを使って、ちょっとした授業。
水曜の午後は、絵画・工作の時間。
授業レシピは山梨の塩島さんが作ったものです。
ちょっとレシピを見てみましょう。

タイトル 「ゴーヤをあらわす」

ねらい

ゴーヤから受ける感じを自分らしく表現する。
筆の穂先を生かして着彩する。

混色やみずうすめの方法を知る。

素材

ゴーヤ 水彩絵の具

キーワード 「自分らしくあらわす」

段取り

- (1) ゴーヤを見る・触る・においをかぐ
五感で感じとる
- (2) 「食べられそうか?」「どんな味がすると思うか?」など話し合い、素材に対するイメージを広げる。
- (3) 「ゴーヤは...だ。」の文づくりをして、ゴーヤから受ける感じを自分らしい言葉で表す。
- (4) 気に入ったゴーヤを、気に入った方向から見てコンテ(茶)で下書きし、水彩絵の具で着彩する。
- (5) 調理してみんなで食べる。

裏段取り 色づいたゴーヤ(3個)

ゴーヤの色に合う紙(キャンソン紙5色)

「それなあに?アボガド?」いきなりアボガドときた。ゴーヤはみんなはじめて。(「へちま?」って子もいた。)では、ゴーヤを持って、さあ一言!
「ゴーヤはちょんまげだ!」鼻に持ってきて「ゴーヤはひげ。」
「ゴーヤは埴輪。」
「ゴーヤはぶつぶつにきびマンだ。」
「ゴーヤは緑便。」きったねえ!
あとはコンテを使い自由に描いていく。ぶつぶつ感と鮮やかな緑色をどう描くかがポイント。
お互いアドバイスしながら楽しく書きました。
明日は、ぼくがゴーヤチャンプルを作ってみんなに食べてもらいます。
「明日のお昼、ご飯だけ持ってきな。おかずはいらないよ」
こんなこと言って...、よかったかしら...

2. 児童虐待HPの反響

新聞にも報道されていた“児童虐待”のHP、ぼくは見ました。その事を発信したところ、いくつか反応がありましたので、転載いたします。

以下、転載。

我が管内での最近の、ハードなケースでは、実父による幼ない娘への性的虐待で、とてもかけないような事を強いていたケース。

それでも、社会生活は一応ちゃんとしてるんだから、始末に悪い。児相が踏み込んで、すぐには何ともならないな。賢く立ち振る舞うからね、
かつて我が管内のケースで、幼児二人の虐待をしていた父親がA市に転居した後、母親が逃げてしまったから、父親がその子供たちに何も与えずに、一人を死なせてしまったケースがある。

我が事務所からA中央児相に連絡して、関わってもらったけれど、結局、実家の祖父母が様子を見るって事になり、ワーカーが様子を見に行く予定の狭間で死なせちゃった。児童福祉司が関わっても、踏み込めない現実がある。そういう家って、いくつもの問題を抱えていてね、一気に解決しません。(その父親も、覚醒剤をやって、やけどがらみでもあった)

福祉からすると、児相がいついながら、しなせちゃったってことで、あの時もみんな、ドヨンと落ち込んだまして、そのうちの一人は、障害を持っていた。どんな事感じながら死んでいったかなと思うと、可哀相で、生まれてきた事の意味ってなんだったの?

だからなおさら、その子供たちの声なき声を代弁したい。
見えないものを見える形にしたい。
いえないんだよね、子どもって...親には。

-----以上、転載終了。

子どもが小さい時、いったいぼくはどういう対応をしてきたのか...、不安になる事があります。
ぼくのおやじも恐かったですね。虐待じゃあもちろんないけど、悪いことをした時はなぐられました。
北海道だったもんで、冬は凍った股引で殴られてました。
デイリーフレネは平日刊、次回は11月1日(月)の発行です。今週は、できるだけ短めにしたつもりですが、いかがでしたか？
記事の内容についての感想、リクエストなどどんどんお寄せください。
では！

=====

===== **デイリー・フレネ** =====

----- VOL.0035 ----- 1999/11/01

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. “ゴーヤチャンブル”を食べた日
- 2. おじさんはしつこーい 何者？
- 3. 10月の日報より

=====

1. “ゴーヤチャンブル”を食べた日

ゴーヤを素材に絵を描き(すでに発信)、そして食べる。
いよいよ、腕のみせどころ！

材料

ゴーヤ 木綿豆腐 卵(2個) 豚ばら肉(100g)
鰹節 サラダ油 塩 胡椒 醤油

作り方

- (1) 熱した中華鍋にサラダ油を引き、豚ばら肉をいためる。
そこに細かく切ったゴーヤを入れいためる。
- (2) 水切りしておいた木綿豆腐を入れて、細かくつぶしながらいためる。
- (3) とき卵を入れいためる
- (4) 塩胡椒し、味を整える。
醤油を少々たらし、隠しあじにする。
- (5) 鰹節削りを入れて、出来あがり。

子ども達がスーパーマーケットに行き、材料を仕入れてきました。ぼくが調理しました。
ただ、JFの台所が狭いんだよねえ。コンロも1個しかない。
「木幡さん、鍋つかみがこげてるよ！」
換気も悪くて部屋中、煙がもくもく...。
さあて、出来あがりは？

「おいしいい！」
「けっこういけるんじゃない？」
「あんまり苦くないよね。沖縄で食べたのは、もっと苦かったよ。」

あっという間になくなりました。
「余った豚バラ、欲しい。」とおねいちゃん。
「お家に持って帰って、お好み焼き作るの。」だって。

2. おじさんはしつこーい 何者？

きんようびの午前中は、散歩の時間。本日は、徒歩5分の新宿御苑。この日のために、ぼくは“エアガン”を調達していたのだ。
「けんちゃん、打ち合いやろうな！三発当たったら、死

んだ事になるんだぞ。」
ところで、このタイトルのおじさんとは、ぼくの事ではない。いざ！新宿御苑へ！話はここから始まるのだ！
エアガンバトルをはじめる前に、けん、こう、そしてボランティアのきむさんの3人はフリスビーをはじめた。
しばらくやっている...、
「ここでそれをやってはいけないよ。やめなさい。」
自転車に乗ったおじさんに注意された3人。やーい、やーい。
「いいからいいから、またやろう。」ときむさん。
ところがそのおじさん、戻ってきて「やめなさい。」
おじさんがいなくなってからまたやろうとしていた3人...、しかしおじさんは自転車を止めてじっとこっちを見ている。
いなくなったかと思ったら、木の陰に隠れて見ている。
ううむ、できる。何者なんだ...、あのおじさんは？
とうとうあきらめ、しかもしらけて帰るのでした。
と、いたー！またまた、あのおじさん。
彼は新宿御苑の管理人さんでした。

3. 10月の日報より

- 1日(金) 都民の日にて、休み。しかし、ぼくは新宿にて仕事。長崎大教授よりフレネ教育についての問い合わせ。相談、1件。
- 2日(日) 駒場・東大にて教育社会学会に参加。夜、国研・永田氏と痛飲。
- 4日(月) カメラマン・わいだ氏、21C協育研究所・永井氏来訪。ミーティングにて遠足・スケジュール表の徹底など決定。熊本日々新聞社の取材。教育相談、2件。
- 5日(火) 相談、2件。埼玉・吹上にて、夜、授業。この子供達母親の教育運動の関係で、小2のときから足掛け11年も教えていて、ツーカーのなか。
- 6日(水) 日本テレビ“ザ・ワイド”にてジャパンフレネが紹介される。問い合わせが多くなる。相談、10件。
- 7日(木) 高尾山へ遠足。ここの猿園の前で不思議な矢印のパズルを発見。購入。夜、カウンセラー田代氏と会い、痛飲。相談、2件。
- 8日(金) ワイダ氏、太田氏来訪。ずっと取材をしてくれていたのだが、海外向け日本情報誌(英字)“PACIFIC friend - A WINDOW ON JAPAN”に掲載されるJFの写真が決定。
子供たちの了解を得る。記事はこの後とか。相談、1件。
午後の特急“甲斐路”で山梨・下部町、授業づくりのサークルで話をする。高野氏宅泊。痛飲。
- 9日(土) 学習会。授業レシピの発表。慶応大学の学生も2名参加。遠くは愛知からも。嬉しい事だ。夜、学習会の流れで飲み会。痛飲！明治大・斉藤氏、飲むとますますテンション高し。
- 10日(日) JFにて“教師のためのセミナー”小学校の授業づくり、学級経営の相談に乗る。
- 13日(水) 8名も子供が一度に集合。混乱。
- 14日(木) 相談、2件。午後から、茅ヶ崎市へ。湘南教組教研に共同研究者として参加。ここは20年来通っているので、気心が知れていて楽しい。夜、痛飲！
- 15日(金) スケジュール表に固定授業を少し組み入れる事を決定。夜、JFにて“ポリヴィア識字教育”のための校舎建設の話し合い。終了後、26名で大宴会。痛飲。
- 16日(土) 代々木にてシンポジウム。タイトル“学校ってなに？”野本三吉氏(横浜市大)、保坂展人(衆院議員)とぼくとの3人の予定が、野本氏発熱で欠席。

二人でやる。夜、S氏と渋谷で痛飲。
 17日(日)やはり、代々木で講演。私塾の会の集まり。かつては100人以上集まったというが、今は停滞。次の例会をJFで行う事が決定。「
 18日(月)21C研に原稿送付。相談を3件、たまっていた手紙を一気に6通書く。
 19日(火)相談、2件。吹上町に夜、授業。
 21日(木)工藤順一氏(「国語のできる子どもを育てる」の著者)の教室で、マンツーマンの授業を見学。恵比寿・渋谷で痛飲。」
 22日(金)相談、1件。子ども達と散歩の授業。野口記念館に行く。23日(土)“選択登校”を語ろう会”不登校・引きこもりの問題を考える会。毎月1回やっている。今回は、教師批判が多かった。
 24日(日)教師のためのセミナーをJFで開催。
 25日(月)相談、1件。読み聞かせをはじめる。
 26日(火)ミーティングにて日本語の学習が組み込まれる。
 27日(水)フリースクール協会の原稿依頼。A氏より中国(審陽)の起業家向けのセミナーで話してくれとのこと。詳細不明。“ゴーヤを描く”授業。2
 8日(木)“こぼちゃん”ンマンガを使っの授業開始。相談、2件。ゴーヤチャンプルをつくって食べる。
 29日(金)教え子G君来訪。ボランティアきむさん、歓迎会。Gも巻き込み、新宿・渋谷で痛飲。木幡、衝動的に日本海を見に行く。深夜バスで秋田に出発。五能線を周る。
 31日(日)早朝、帰京。そして今、これを書いている。
 振り返ってみると“痛飲”がなんと多い事が...。
 しかし、3日前のことは忘れていたといういい性格もんで、この日報も怪しいものだ。もっと痛飲しているに違いない。

==== デイリー・フレネ =====
 ----- VOL.0036 ----- 1999/11/02

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////
 1. 今夜の夜汽車で...
 2. てっちゃんママからのメール
 3. 障害を持っている子どもの“不登校”

=====

1. 今夜の夜汽車で...
 「日本海を見に行くぞ！」「行けばあ。」
 年内の休みは、ここだけ。教え子の結婚披露パーティーがあったのだが、衝動的に日本海を見に行く事になった代表・木幡。
 幸い、深夜バスも取れ、いざ出発だ！金曜の夜深夜バス、そして土曜の夜の深夜バスで帰ってくるという強行軍。飲まないと眠れない。ボランティアのきむさん、そして教え子のGと新宿、渋谷を飲み歩き新宿・小田急ハルク前を22:00出発。翌朝6:00には、もう秋田。ここからは五能線(東能代~五所川原)の旅。
 “男はつらいよ-奮闘編”(マドンナ・榊原ルミ。ぼくはファンクラブの会員だった。)を見て矢も盾ももたまず先輩のおふくろさんに1万円借り夜汽車に乗ったのが今から30年前。確か急行・津軽だった。
 それから、何度か行っている。海岸線を走る列車にはいろいろ乗ったが、ここが最高だと思う。
 その昔、東能代の駅で蕎麦を頼んだら、列車発車のアナウ

ンス。どんぶりを持ったままホームから飛び降り線路をまたぎ、懐かしのチョコレート色の列車に乗った。後ろから「学生さ-ん、どんぶり返してける！」とおばさんが大声出していたが、列車は遠のくばかり...。
 おばさん、(30年前はごめんね)と心でつぶやくのであった。途中、たいした見所はない。ひたすら海を見るのである。列車の本数が少ないので、1本のがすと4時間ぐらいは待たなくてはならない。
 しかし、便利な列車が出来ていた。その名も“リゾート白神”。途中下車した客をまた拾いに来てくれる。だから、1時間半ぐらい散策したり温泉につかったりして、また同じ列車に乗れるのだ。今回、“あきた白神”と“鱒ヶ沢”で下車し、それぞれ温泉につかってきた。
 10:00秋田発、秋田に戻ってきたのは20:00。
 一杯飲んで深夜バス...、お疲れさ-ん！
 あきた白神駅のそば、ハタハタ館の“漁り火温泉”はおすすめ！人がいない。露天風呂からは日本海が一望！
 鱒ヶ沢のおまわりさんは、親切
 鱒ヶ沢駅の派出所で温泉の場所を聞く。トレパン姿のおまわりさんが親切に教えてくれる。
 さて、派出所を出て歩いていると...、いきなりパトカーがやってきて、ぼくの前でストップ！
 なんだなんだ、どうしたんだあ！すると、くだんのおまわりさん、やはりトレパン姿のまま...
 「教えたのと違うほうへ行くもんだから、みぞ間違えたかと思っで...」なあんて親切なんだ！
 「いや、まず海を見てから行こうと思っで。」
 「それならいいんだ。」
 敬礼して去っていく鱒ヶ沢のおまわりさんでした。
 ヤンママ、頼むよ！
 隣の車両から4人ほど子どもが入ってきて騒ぐ。
 「走りまわっちゃだめ！席に戻りなさい。」
 濃いグラサンをかけたぼくを見て、子ども達一目散に逃げる。デッキで様子をうかがっている。
 歩いていくと自分の席に逃げ帰り、2度と出てこなかった。ヤンママの子ども達でした。
 東北地方の特徴を確認した
 (1)子どものほっぺたが赤い。
 (2)おばあさんはすれ違う時、ぼくにあいさつする。
 ただし、なんて言っているかは全然わからない。
 (3)ばつくん・ガングロ系は皆無でした。
 だいたい、夜9時すぎると秋田駅はほとんど人がいない。
 2. てっちゃんママからのメール
 デイリーフレネ創刊号・第2号に掲載した「夏の終わりに... - てっちゃんの思いで」を覚えていますか？
 そのてっちゃんのママからのお便りです。
 - - - - - 以下、転載。
 木幡さん
 ご無沙汰しています。
 デイリーフレネありがとうございます。
 日頃のフレネの様子を読ませていただいて、フレネでの夏季講習を思い出します。
 Tは2学期に入り、比較的落ち着いていたのですが、やはり学校での集団行動は苦手らしく、心電図の検査をいやがったり、遠足で行ったプラネタリウムへ入るのを怖がったりしたようです。
 最近少し気持ちが不安定で、「大きくなりたくない」

とか「2年生にはなりたくない」とか言っています。
 やはり、学校生活は彼にとってストレスが多いようです。
 それでも、学校へ行くことはいやがりません。
 いろいろ出来ないことも多いですが
 ャーをかけ過ぎないように注意しないとイケませんね。
 東京方面はご無沙汰ですが、また機会があれば是非
 フレネに行かせていただきたいと思っています。
 それから、夏休みにTがお話してたと思いますが
 もうすぐ待望の子犬が我が家にやってきます。
 家族そろって楽しみにしています。
 これからもたまに近況をメールします。
 ではお元気で

- - - - - 以上、転載終了。
 ぼくの机の上には、てっちゃんが忘れていった「鉛筆と
 キャップ」があります。それを見るたび、てっちゃんのこと
 を思い出します。
 また、お便りください。ぼくも書きます。では！
 てっちゃん、バイバアーイ！

3. 障害を持っている子どもの“不登校”
 山陰地方のAさんからの便りです。
 - - - - - 以下、転載。
 先日、久しぶりに教え子に会いました。
 彼女は脳性麻痺のために車椅子で生活をしています。
 字を書く、食事をするなど、多くのことで介助を必要と
 していますが、普通学級で他の子どもたちと同じように
 勉強していました。
 障害児学級に入らなかったのは、知的に障害がないとい
 うことでおうちの方がそう望まれたからなのか、それとも、
 障害児学級のカリキュラムが合わないと思われたのか...
 はっきりと尋ねたことはありませんでした。
 今でこそ障害児学級を持っていますが、当時は障害児教育
 に対して理解があったわけではありません。そのため、彼
 女にはいろいろ不自由な思い・辛い思いをさせてしまいま
 した。
 中学校に進学して、会うことも少なくなりましたが、不
 自由な手でマウスを握りながらくれるメールからは、楽
 しそうな生活が伝わってきていました。彼女のつらさを感じ
 るのは、本人の話からではなく、むしろ彼女の周りの人た
 ちからということが多かったです。
 車椅子で階段の多い校舎を移動するのは、介助の人がい
 てもとても時間がかかります。授業時間を無駄にすること
 はできないと、彼女は置いてきぼりで授業が始まる。
 狭い廊下を電動車椅子で移動しようとすると、他の友だ
 ちから危ないと苦情が来る。口述筆記を必要とする彼女
 にとって、授業内容を理解するための時間も、十分では
 なかったろうと想像します。
 先日、児童館で彼女に久しぶりに会いました。
 「先生、私、学校休んでます。不登校です。」
 児童館の先生が彼女の健康状態などを少しお話ししてく
 ださいましたので、
 「じゃあ、ゆっくり休めばいいよ。」
 といって、30分くらい話して帰りました。
 その晩、彼女が日記をメールで送って来てくれました。
 思春期の中で、学校に対する不信感を抱いてしまったよう
 でした。また、今まで健常者と同じようにとがんばってきた
 こと、「普通」であろうとしたことへの疲れも感じられました。
 それを読んで、ますます「学校へ行かなくてもいいよ。」

という気持ちが強くなってきて...彼女の不登校を応援してい
 ます。
 迷いもあったようですが、昨日「私は不登校します」とい
 う宣言文が来ました。
 なんだか、ほっとしました。
 もう、がんばらなくていいんだよ。。。。
 学校って、なんでしょうね。
 障害児学級の役割って、なんでしょう？
 学校はなぜ、もっと柔軟に対応できないのでしょうか？
 一人一人に対応することが望まれています。
 もっと保護者の気持ちや本人の気持ちを考えながら、一
 人一人に合った方法で学校生活をコーディネートできない
 ものなのでしょうか？
 子どもたちの抱える問題が大きくて、もう、一斉授業や
 担任だけではすべてをカバーすることはできなくなって
 しまった気がします。
 一人一人に優しい学校のあり方を、彼女と一緒に探して
 みたいと思います。
 長々と書いてしまいました。
 でも、木幡さんとお会いしなければ、彼女の不登校を応
 援できなかったろうと思います。
 だから、木幡さんにお話ししたかったのです。
 - - - - - 以上、転載終了。
 メール、ありがとうございます。

ぼくは授業屋でした。
 教材を媒介に子どもを強引にこちら側に待ってくる“けれん
 (外連)味”ある授業をやっていました。25年もそいう
 う授業で全国巡業をやってきて、ふと「これでよかったのか
 ...」と、疑問に思うことがあります。
 やっぱり、たくさんの子どもの落ちこぼしてきたらうし、
 教師という権力者の論理で生きて来たように思います。
 わからない子どもがわかるのが一番いい方法、弱い立場に
 いる子供がいきいきできるのが一番いい集団...、そう考
 えてみると、学校というのはほとんど絶望的な場所ではないか
 と思うようになりました。
 ただ、学校を全面否定するわけではありません。
 大多数の子供が行っている場所ですから、限界を照準に入れ
 ながらも、よりよい方向に行って欲しいと思っています。
 学校とそれ以外の学びの場のラインナップを目指すのは、そ
 ういう理由からです。
 お便りにあったお子さん、立派の意志をお持ちと感じました。
 ただ、私は“統合教育”がすべて正しいのかと問われれば、
 それが押し付けや画一化されたものであるならば分離教育
 が危険であると同じ程度に危険とも考えています。(この
 点に関してはハンナ・アレントの著作に詳しく出ています。)
 “選択登校”への道は、まだまだ遠いようです。

=====
 =====
 デイリー・フレネ
 =====
 ----- VOL.0037 ----- 1999/11/04
 ////////// CONTENTS //////////////////////////////////////
 1. “奇想天外パズル”ありがとう！
 2. またまた、景品です！
 3. 本日のおすすめ
 =====
 1. “奇想天外パズル”ありがとう！

例の“矢印パズル”をTooruさんに送った。
 そのお礼にと言うわけではないが、絶版になっている表
 題の文庫本を半永久的に貸していただく事になった。
 ありがとう！Tooruさん！
 さっそく見てみた。なるほど、5円玉を通した矢印。
 どんぐりを植えて芽が出たら5円玉をねかせ、さらに2
 年かけて幹が太くなるのを待ったと書いてある。
 それもありだろうが、ぼくは違う方法でやった。
 JFの工作の時間にスタッフ松岡が作った同種のパズルが、
 2個余っている。
 先着2名様に進呈！郵送料のみ、負担してね！

2. またまた、景品です

以下、投稿です！。よく読んで応募してくださいね。
 - - - - - 転載
 ゴーヤチャンプル、おいしそうにできたようですね
 ところで、チャンプルって、沖縄ではこんな感じで聞こ
 えませんか？ チャンプル ちゃんぶるう
 カタカナの感じではなくって、どうきいてもひらがなの感じ
 実は、わたしも27日から30日まで沖縄に仕事で行ってきまし
 た
 仕事の合間に読谷村の友人のところにいき、わたしの大好
 きな浜辺へも行ってきました
 その場所には、海と陸の間に湧き出ている「泉」があるんで
 す
 そういう「泉」は、沖縄では「霊格」が高いとの事
 そしてまた、近くに昔「風葬」をしていた場所もあります
 恐らく、有力者の風葬場所であったといわれていますが、
 そこには自然の「ひんぷん」(つまり、岩で出来たつい
 たてのようなもの)があって、遠くから見ると、まるで女
 性器のように見えるんです
 死んだら女性の中へ戻っていくという太古からのイメージが、
 自然の岩屋のかたちに求められたのでしょうか？
 さて、ここで、問題です！
 わたしは、その場所の波打ちぎわで、ある不思議な「玉」
 (直径で6cmくらいあり、透明)をひらいました
 (沖縄の友人は拾うということばをひらうといっている、
 いや？ そう聞こえるのかなあ)
 わたしにとって、この事にすごーく 意味を感じたん
 だけども(ま、いっか、)いったいこれは、なんでしょう？
 (ヒント> タベ、お風呂に入ったとき、その「玉」の汚
 れをがしごし落とそうと努力したのですが、なかなか落ちま
 せん
 クッソーとおもって、ムキになったのですが、そこで、はた
 と気を取り直しました
 このよごれがあると、これがなんだかわかるかも、、、
 海、透明な玉、よごれ、かすかな網目(?)
 これらのキーワードから、この「玉」がなんであるかをあ
 ててください

見事正解の方には、わたしからの素敵なプレゼントがあ
 ります(10名様)

「うちないちゃー」になりつつある、Sでした

- - - - - 転載、終了。

ところで、どこに応募すればいいのでしょうか？
 とりあえずJFに応募してください。

3. 本日のおすすめ

工藤順一さんの本が週刊読賣(10/31号)に簡単
 に紹介されていました。

- - - - - 以下、転載。
 工藤順一著『国語のできる子どもを育てる』(講談社現代新
 書・660円)は、本を読まない、作文が書けない子どもを
 どう
 教えたらいいか、親切に説く。
 - - - - -

工藤さんおすすめの『長文読解記述教室』(みくに出版)
 も購入しました。
 この本は中学受験用なのですが、いやいやどうして...。
 詩・物語・パターン別問題・記述の4編からなる。
 物語ではその基本構造を<場面・できごと・反応>の三要素
 に分類し、それぞれに沿った丁寧な説明がなされている。
 レベルは相当高い。また、作品、および問題もよい。
 授業で十分使える。中学生・高校生でも使えるのではないか。
 問題の出典があまりないのが残念。
 ぜひ、読んでみてください。

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0038 ----- 1999/11/05

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. ジャパンフレネあれこれ
- 2. 障害者の不登校そして、統合教育 まるでML...

=====

1. ジャパンフレネあれこれ

食わず嫌いで“きりたんぼ”！
 突然！衝動的！激情にかられて！思いつくまま！行き当
 たりばったり！...、五能線を周ってきて...きりたんぼ...。
 さあて、今日は食べるぞ！きりたんぼ！
 「きりたんぼってなあに？」
 「これ、ちくわ？」

鶏肉、ごぼう、いとこんにやく、ねぎ、あれこれあれこれ。
 見学に来ていた東京家政大学の学生さんも含め、みんなで
 賞味したそうです。ぼくはというと、お客さんが来て外に
 出ていたのでありつけませんでした。とほほ...。
 食わず嫌いで手をつけなかったのが、約2名。

マンガ“こぼちゃん”の授業スタート！

工藤順一さんの「国語のできる子どもを育てる」(講談
 社現代新書)をお手本に新たな授業がスタートしたよ。
 4コママンガを読んで、2段落の文章を作る。オチを考
 え文にする。

「結構はまりますね。木幡さん。」と、ちかちゃん。
 一つ作ってはぼくのところへ持ってくる。添削して返す。
 この繰り返しなんだけど、飽きないんですね。

“こぼちゃん”は奥が深い。

木幡のリヴェンジ！

デイリーフレネでも紹介した“算数道場”前回の問題、
 投稿してミスっちゃった。

そこで11月1日に掲載された問題、2時から3時に
 掲載されるといので待ち構えてチャレンジ！

ふふふふふ、やったぜ！大正解！どうだあ！道場主・
 草村あー！（草村君はぼくの高校時代のお友達、皆さ
 んは呼び捨てしてはいけませんよ。）

正答者到着ナンバー1番をいただきました。

信用できない人は下記の“算数道場HP”を見てくだ
 さいね。問題にもチャレンジしてね。

<http://village.infoweb.ne.jp/~plato/>

今覗いてみたら、デイリーフレネの読者も正解者リストに入っていました。ちゃんちゃん。

マジック ザ ギャザリング クラブができそうですよちゃんが持ちこんだマジックザギャザリング...、けんちゃんがカードを買った。

「木幡さんもやればー。」

「でもさあ、おじさんがカードを買いにいけるのもなあ。」

「すぐその店で売ってるよ。138円。買って来てあげようか?」「ほんと?」

さて、型から入る木幡、本も借りて...、やったるでえ! うーん、ハマりそう。1枚48000円のカード、買いそう...

2. 障害者の不登校、そして統合教育

山陰からのメール、そしてぼくのコメント...、それに対する投稿、さらにメール...と、まるでメーリングリストのように投稿があります。

かなり長いけれど、とても重要なのでここに転載します。
----- 以下、転載。

> 私は“統合教育”がすべて正しいのかと問われれば、
> それが押し付けや画一化されたものであるならば分離教育

> が危険であると同じ程度に危険とも考えています。
integration と including のことは、しばし論議にも上ります。

仕事から、障害を持つ子どもさんと親御さんに、何人も出会ってきました。

わたしの職場は地方です。

その地域の療育施設への通所や学校への通学には、皆さん大変な思いをしていらっしゃる。

療育施設へかようにも、養護学校へ通うにも、最低一時間はかかりますし、専門的な療育機関は皆無の状態ですから、一番近くの専門機関へは高速道路を利用して、1時間半から2時間かけて通所されています

「選択登校」を考えると、わたしはいつも障害を持っていく子ども達の学習の保障に思いがたります。

丁度今は、「就学前健康診断」とよばれる、体のよい篩い分けの行われる季節です。それまで関わりのあった親御さん達が、気持ちは整理出来てきていたはずなのに、この時期になるとにわかには動揺し始めます。

たいていが、「どうするのが一番いいんでしょうね?」という言葉となって現れます。一概にはどうするのがいいかは言えません。どの子の養育も極めて個人的な事だからです。

要は、保護者として一体何を学校に期待するのか、という事だと思うのですが、実際には親御さんとして学校に何を期待しているのかが、明確になっていない事が多いのです。

「大きくなってどんな子どもに育てて欲しいですか?」という問いかけには、たいていの場合、

「障害があっても普通の子どものように、気持ちのやさしい子どもになってほしい」

「障害があっても生きる力のある子どもになって欲しい」という答えが返ってきます。

「具体的に言うと、気持ちがやさしいとか、生きる力って、どんなことでしょうね?」

と更に問うと、

「.....」という事になってしまいます。

これはきっと親御さんにとっては、きつい質問なのでしょうが、言葉のない子どもや身体あるいは知的に障害を持って生きざるを得ない子ども自身が、自分の希望を表明出来ない、あるいは出来にくいのですから、そのこのところをはっきりとさせない事には、上記のような目標設定は、親が子どもの学習や発達を保障するなんて事には程遠く、おめでたい「念仏」になってしまうのです。

せめて、身辺自立が出来るようになって欲しいとか、食べる事だけは自分で出来るようになってほしいとか、返事が出来るようになって欲しいとか、あるいは、買い物が出るくらいのが分かるようになって欲しい、そういうレベルでの目標設定がないと、限られた就学期間の事を考えると、なんとしてももったいないのです。

その子どもが一人になったときに、何とか必要最低限の事だけは出来る人間になって欲しい、で、その取り組みを提供し、保障してくれるのは、どこなのかという発想で、地域の普通学級なのか、特学(身障・知的・情緒)なのか、養護学校(身障・知的・重複)なのかを選択することが、ひいては子どもの発達(残されている能力を引き伸ばす)を保障する事に繋がると思うのです。

また、特に地域の小学校の普通学級を選択する場合、その受け皿である学校の受入態勢がある程度あるとか、整備されていなくても、取り組みに前向きであるとかという、前提条件がものすごく大切になってきます。

このご時勢ですから、親御さんの希望が最優先はされますが、学校側が嫌々受け入れるのだとしたら、子どもさんにとって良い環境になるわけがありませんよね。

また、「この子の発達に合わせて、ゆっくりとやりたいので、、、」とあって、普通学級を選択して、学習は良いのでみんなと一緒にいさせたいとする親御さんもいます。こういう発言は、一見その子どもに寄り添った発言のように聞こえますが、一概にそうとは言えない事も多いように感じます。

子どもと親の意志決定はしばしば拮抗します。障害をもった子どもは、自分の意志を親に言うだけの「力」を、たいていの場合は持っていませんし、たとえ、その子が意志を持っていたとしても、「それは無理よ、、」と無視されてしまうのが落ちですし、親御さんのやりやすい方向で事が進められがちです。

integrationなのかincludingなのかあるいは分離なのか一概に言えないですね。

つまり、教育は極めて個人的であるということですよ。アメリカなどでは当たり前のように「IEP」というプログラムが提供されます。しかもそれは合衆国によって保障されるという事ですし、欲しいサービスは申し出る事によって、検討され妥当であれば新しく用意されるようです。長くなるので今回は書きませんが、その子どもに合った教育の方法が、当たり前のように提供される、そんな柔軟な教育制度がいつになったら日本には成立するのでしょうか?それとも、、、?

学校と学校以外の学びの場をラインナップする事は、異論ありませんが、自前の教育は誰でも用意できるわけではありません。

自前の教育の費用を負担できる親を持った子どもに救いはあるでしょうが、社会の中にはそういう条件下に生まれついていない子どももたくさんいます。そんな子どもの事を決して忘れてはいけないと思います。で、なおかつ、自分のできる範囲にいる子

もと、きちんと向きあうことが必要ですよ。
長くなってすみません。
でも、今回の投稿を読んでどうしても書きたくなったのです。
> “選択登校”への道は、まだまだ遠いようです。
でも、きっとそんな日がくる事を信じて、道を整えていきましょう!!!!
いつも、遠い空から祈っています。

一読者より
-----以上、転載終了。
体制内の多様な路線に走る行政、しかし、体制外の多様化は認めない。学校には力もない。
行き場(生き場)を求める子ども達は何を指針にすればいいのだろうか?
お願い
投稿は、程よい長さでお願いいたします。

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0039 ----- 1999/11/08

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. “Sophia”の森には何がある(いる) お散歩の授業
- 2. クラス会をやりました
- 3. 障害を持っている子どもの不登校 その(2)

=====

1. “Sophia”の森には何がある(いる) お散歩の授業

「行くぞー!」「どこにー?」「行けばあ...」
今日のお散歩は、じゃあああん、あのSophia...、つまり上智大学まで歩いて行き、学食でお昼ご飯を食べようということなのだ。
ジャパンフレネを出てそのままああすぐ歩くと、上智につくの。約30分。見学に来ていたさっちゃんも一緒に行ったよね。
出発直前にやってきたおねいちゃん、「えっ、上智に行くの?やったあ!私、四谷までの定期券持ってるの!」「おいおい、歩いて行くんだぞ。ぼくは自転車で行くけど。」
天気も良いし、気持ちいい!
「もう一生、上智には来れないかもしれないんだぞ。」
「どうして?」「入学するのが難しいから。」
上智に行って学食を探す。学食はなかったけれど、カフェテリアというものがあつた(同じことかあ)。
「上智の女子トイレに入ると、『帰国子女の馬鹿』とか、いたずら書いてあるんだよ。」
「へー、入ってみたことあるんだあ?」「... (無言)」
総勢7人、場所を取り、カレーライスとか定食とかあれこれ食べました。やっぱ、安いね。500円以内。
そば類だと200円くらいかな。
授業が終わったのかカフェテリア(カフェテリアですぞ!)はどんどん混んできた。
「へーえ...、上智って女の子がすごく多いんだあ。」
とボランティアのきむさん。
「うれしい?」「うん、ハーレムみたい。」目じり下がってるぞ!
本日の結論!「“Sophia”の森にはギャルがいる。」
「しばらくは大学の学食めぐりをやりましょうよ。」

いいっすねえ...、次回は東京女子医大辺りにしましょう!

2. クラス会をやりました
「こはたあー、クラス会やるから場所を貸して!」
Gyouからの連絡でジャパンフレネを会場に、かのJ学園4期生のクラス会。三重県から子連れメグ、結婚パーティーをすっぱかして日本海を見に行っただのに来てくれたみき、でえくになったマイケル、みんなたくさん集まった。飲んで騒いで0時過ぎ...、また再会を約束した。お互い共有した確かな時間を持っている。だから、心許して集まれる。ああ、よき時代の生徒たちでしたなあ。

クラス会仕掛け人の一人、健作からのメール
-----以下、転載。
久しぶりにあって、パズルを解いたといっちは得意がり、おもちゃのバイオリンをほんとに嬉しそうに弾き、6階から道を歩いてる麻子をおもちゃのピストルで撃ち(!)と、まるで子供のようなコハタを見ていて、なんだかかっても楽な気持ちになりました。
やっぱり人生楽しまなきゃ、もったいないねえ。
今朝、母と姉に昨夜の飲み会のことを話したところ、「そういうときは恩師におごってあげるのが常識よ!!」と叱られてしまいました。
...恩師...ちょっと次回(同窓会)まで考えさせてください。
おもわず何か差し入れしたくなる貧物スペース、ジャパンフレネは居心地のいい場所でした。今度行くときは電気ポットでも持っていくます。たぶん。
それでは、また...

健作!恩師を忘れるなあ!俺の老後は頼んだぞ!
3. 障害を持っている子どもの不登校 その(2)

山陰地方Aさんからの続報です。
-----以下、転載。
彼女と話していて、彼女の中にも養護学校への偏見やわがままがあることが分かりました。また、聞いたことなどいろいろなことを判断してしまうところがあることも分かりました。
「いろいろ考えていると、将来進むところがひとつもない。」
と書いていたので、いろんな道があること、実際に自分の目で見ること・体験することの大切さを話しました。今まで学校という狭い既成概念だけでできていますが、もっといろいろな生き方があるのだということを知ってほしいし、できれば養護学校へも体験入学して、本当に自分に合わないかどうかを確かめてほしいと思いました。
私は不登校賛成(なんでも賛成しているわけではないですが)と言っていますが、中学校の担任の先生は「登校刺激を与えて登校させなければならぬ」と言っていて時々いらっしやるそうです。
これには、彼女と二人大笑いをしてしまいました。
「もしも、鉢合わせしたらおかしいだろうね」って。
中学校のことはよくわかりません。
でも、中学校では何人もの先生が「小学校は彼女を甘やかすすぎた。」とおっしゃるのだそうです。彼女が学校が嫌いな原因の一つは、それです。私たちは、甘やかしたつもりはなかったです。一人を大切にしたい、そんなつもりで、できることは取り組んできました。

移動に時間がかかれば、授業を始めるのを待ちました。
計算に時間がかかれば、余分に時間をとりました。いったい、何が甘やかしだとおっしゃりたいのか、できることなら聞いてみたいと思いました。

最初からみんなと一緒に生活できないのなら、この学校に来るなということなのだろうか？それとも、自分の思いを言うことがわがままだと言いたいのだろうか？

人の手が必要な彼女は必ず「ありがとう」というのがあたりまえで、言わないのはよくない？

彼女一人のことではありません。

これから中学校へ進む、障害児学級の子どもたち。

どのように受け入れてもらえるのだろうかと考えるとき、小学校でやっている、一人一人の力に合った複式の授業方式は「あまやかし」ととらえられるのだろうか？と不安になります。

こちらの気持ちと中学校の気持ちが大きくずれたままでは、こどもたちも保護者もとまどいそうです。

そろそろ、私一人の問題ではなく、学校体制の問題にもかかわってきたかな？

また経過をお知らせします。

私のぼやきを聞いてくださって、ありがとうございました。

-----以上、転載終了。

Aさんに対する前号の投稿とリンクするところがたくさんあると思います。画一化されない統合教育...、みなさんのご意見をお願いいたします
投稿者からの問題、締め切りました。正解者には、景品が送られます。お楽しみにお待ちください。

=====

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0040 ----- 1999/11/09

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. これはびっくり！山梨県での“とんでも実践”！
- 2. 本日のおすすめ のと反対の方法
- 3. 北から南からいろんなひーとが... - お便りです

=====

- 1. これはびっくり！山梨県での“とんでも実践”！

山梨県教研の算数分科会に共同研究者として参加してきた。

まあ、いろいろ助言するわけですね。

ある支部から出てきた実践には驚いてしまった。

“向山型算数”と題した3年生掛け算なんだけれど、いわゆる“教育技術の法則化運動”というやつ。

まず、算数・数学の力を“計算力”と定式化し、市販テスト（市販テストですぞ！）の平均点のみで授業の良し悪しを決定しちゃう。これらを平然と言っちゃうんだから、ぶったまげるよね。

授業は完全な伝達型。しかもすべて教師の指示どおり動かししていく。子ども同士の交流は、皆無。こういうのを一般的に“調教”というのではないかしら...。

市販テスト・教科書をなんの疑いもなく使っちゃう神経もわからない。市販テストに授業が規制されてしまうなんてことは、みじんも考えていないのだろう。

「市販テストの点数がいいから問題なし。」と居直るわけだけど、テストなんてのは作る視点を変えれば

ころ変わっちゃう。

このクラスの子どもたち、ぼくの作った問題を出したら、きっと半分も出来ないだろう。

3 2 3

× 3

9

6 0

+ 9 0 0 と指導しているのだが、やり

かたはすべて教師の指示どおり。

違うやり方は、認められない。

参加者から次のような質問が出る。

「では、2位数×2位数はどう指導するんですか？」

うっと詰まって答えられない。その程度のことなのだ。

小手先の技術は「わかる」には対応できない。マニュアルになれば何もできない身体になっている事が悲しい。

そしてそのような教師の現実を作ってきたぼくをも含めた“戦後の民間運動”も悲しい。15年程前、法則化の皆さん

と一度論戦をやったが、土俵が違うので論争にならない。

でも、そうは言えない現実を知った。そろそろ、出番かしら...。

この話をスタッフ松岡にしたら、「だっせー！ばかじゃん！しんじらんあーい！」と大笑い。ちなみに松岡は山梨県出身です。

2. 本日のおすすめ

「人はいかに学ぶか 日常的認知の世界」

稲垣佳世子・波多野誼余夫（中公新書）

1で紹介した実践、つまり“伝達型”の対極にある認知の仕方をいろいろ紹介。

驚きや発見から学ぶ。参加しつつ学ぶ。ぼくが今興味を持っている“正統的周辺参加”...、徒弟制の中における学び、部分参加からの学びの拡大...。さらにそれを模倣から創造へとどう発展させるのか...。

10年前の本だけれど全然古くない。

3. 北から南からいろんなひーとが... - お便りです

いろんなかたからお便りをいただきます。まずは富山の森さん！

-----以下、転載。

こんにちは。初めまして木幡さん。

わたしは富山県に住む25歳、現在講師待機中の森満理というものです。デイリー・フレネを先月半ばより、購読させていただいてます。

木幡さんが海で拾ったもの、それは網を張った場所の目印とするガラスでできた「浮き玉」ではないでしょうか。

木幡注（投稿者がひろったものです。）

正式な名称は知りませんが、こどものころ氷見へ海水浴に行くと沖の方にそんなガラス玉が並んで浮かんでいて、そこより向こうは行っちゃだめだと父に言われました。もとは縄で編まれたネットにつつまれて、それがいくつも等間隔で網に着いているようです。

わたしは、お里の鶏舎小屋になぜかあった直径50センチほどもある浮き玉を拾って持っています。

それは5回の引っ越しのあいだ、なぜかずっと置き去りにはされずにはこぼれ、何をするでもなくわたしの部屋の隅にころがっています。

正式名称と、本当の用途、わたしも知りたいです。

プレゼントももらえたらうれしいですね。(^-^)にこっ

催促

JFの日常を垣間見ることのできるデイリー・フレネ、これからも楽しみにしています。

- - - - - 以上、転載終了。
 当選おめでとうございます！景品は投稿者のご厚意により、沖縄より直送だそうです。いいなあ！
 続いて“いわきゆき”さん！

- - - - - 以下、転載。
 木幡様
 いつも楽しみにしています。
 五能線の旅はうらやましい限りです。
 この春私も鱈ヶ沢のあたりをうろついたので、北海道のケガニみたいなカニが一匹たったの100円。とにかく買って帰り、お味噌汁にしたらなんと美味。弘前の母までがビックリ。で、浜松に帰ってからとりよせました。送料などで250円になってしまいましたが、やっぱり期待を裏切らないうまさ。友人とカニパーティやりました。

- - - - - 以下、転載終了。
 いわきゆきさん、算数道場の方にもはまっていることです。がんばってください！

=====

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0041 ----- 1999/11/10

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. ある日の出来事... 許し許される関係
- 2. 群馬県沼田、スペース“ゆう”からのお便り2発！
- 3. 本日のおすすめ

=====

- 1. ある日の出来事 許し許される関係

じゃぱんフレネに集まっている子ども達...、小人数でもいろいろなトラブルがある。みんな悩んで、大きくなる。先日もこんな事があり、保護者にメールを送った。

- - - - - 以下、木幡のメール。
 こんにちは！木幡です。お元気ですか！
 近況報告です。

彼なりに楽しい毎日を過ごしていると思います。
 ようちゃんともうまが合い、一緒にカードゲームなどやっています。

本日、ひとつ事件がありました。
 見学に来ていた高校生女子も含め5名でトランプをやっていたときの事です。見学に来ていた女子に対する彼の物言いがあまりに乱暴だったもので、彼女は泣き出し、外に出てしまいました。

JFの女子がすぐ外に行き、いろいろ話をしたようです。彼にとってはここでのいつもの物言いなのに「なぜ？」という気持ちはあったと思います。

私はよほどのことがなければ、極力介入は避けるようにしています。ただ、次のことだけ言っておきました。

「君がいつも使っている言葉や物言いは、前にも言ったと思うが、みんな不快だと思っているんだよ。それでもみんなはきみのことを許しているんだ。お互い、そうやって許し許されている関係の中で生きているんだよ。その事をわかって欲しいし、初対面の人にどういう言葉遣いをしたらいいか気遣って欲しいな。何気ない一言が他者を傷つけるということを知って欲しい。」

後はスタッフ松岡と子ども達にまかせました。
 1時間半ほどJFの女子がいろいろ慰め、やがて戻って

きました。このことで逆に女の子同士はわかりあえたみたいですよ。

最初「なんで俺が謝らなければいけないんだ。」という感じでしたが「強く言いすぎてごめんなさい。」と謝っていました。

しかし、私の感触では、彼自身、今日の問題の本質を十分理解していないのではないかと、少し心配です。

今までも同様のトラブルがあったと思います。“この事実で注意された”ということは理解できても、その事実が他者にどう影響したのかまで思いめぐらす事が出来ないのだと感じました。

このような事があったという事だけ、知っておいてください。このことであらためて彼を叱責するような事は無用だと思います。

また何かありましたら、その時に一緒に話し合ってください。

一人一人、みんな違います。それぞれの違いを認め、共生できるような集団としてJFは機能して行きたいと思います。

- - - - - 以上、木幡のメール終了。

保護者から丁寧な返信が届きました。転載します。
 - - - - - 以下、転載。

お知らせ頂き有難うございます。
 フレネがAにとって楽しい場所であることは、確かなようです。

私達が促さないでも翌日の準備を自分からするようになり、日常生活も自ら時間を見て行動できる場面が、確実に増えてきています。

ADHDの子供には、日常の洗顔や入浴などあたりまえの日常の行動が自発的に出来ないようで、この傾向はAにも顕著に出ていました。

これがこの二週間程前から、驚くように変化してきています。「八時だよお風呂に入りな」「薬飲んだの？」「歯は磨いた」「寝る時間だよ」と、365日繰り返していたものが、自分から動くようになりました。

フレネで過ごす時間がどう影響しているかは判らないものの、確実に良い変化は出ています。でも一度に全てが良くなるは成らないようですね。良い方向に向いていると思いつつ「何かやってはいないかな」とは思っていました。

“自分が楽しい”、“自分が面白い”時は、深く考える事無く、周りもそうだと思っているようでワルノリをしてしまい、周囲の人間が不快に感じていることに、気付いてないようです。

>>最初「なんで俺が謝らなければいけないんだ。」という感じでしたが「強く言いすぎてごめんなさい。」と謝っていました。

もしこの謝った言葉がA自身から出たものならば、それもかなりの変化かも知れません。本質的には納得していません。「この場はとりあえず謝ってしまおう」とはしない子でしたし、反省して謝ることもしない子でした。

アドバイス頂いた通り、今回のことを本人にあらためて聞くことはやめておきます。

何か有りましたらまたご連絡下さい。
 - - - - - 以上、転載終了。

お返事、ありがとうございました。

昔、明星学園で仕事をしていた時、ぼくのクラスで最後の詩の授業をしてくれた無着さんがよく言っていました。「木幡君、人間は生まれてから死ぬまで他人に迷惑をかけて生きていくんだ。生まれた時には産湯につけてもらい、

その他にも読むこと、読解の方法など、端的に書かれており、小中学校教師はもちろん、保護者にとっても絶対お勧めの本！

=====

=====**デイリー・フレネ**=====

----- VOL.0042 ----- 1999/11/11

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 「東京六大学 * 食 * 完全制覇！」 - 早稲田の杜へ、GO！ -
2. 泣けるぜ「フランダースの犬」
3. 本日のおすすめ 2つあります プレゼントつき！

=====

1. 「東京六大学 * 食 * 完全制覇！」 - 早稲田の杜へ、GO！

先週のお散歩の授業はSophiaの森(上智大学)の学食へ。それに味をしめたのか...

「また、大学へ行こうよ。」の声、多数。
 「大学だったら東大にしようよ。家の近くだから。」と本郷に住んでいるおねいちゃん。
 「よし！じゃあ、東京六大学を完全に制覇だ！」
 「木幡さん、六大学じゃないよ。一字ぬけてるよ。六大学食。食がぬけてるよ。」と、けんちゃん。爆笑！
 新宿JFから一番近いのは、早稲田大学。
 「早稲田へ行って、広末に会おう！」
 「会えばあ...」「会えるわけないじゃん。」
 子どもたちの反応は、冷たい。ひゅううー。

2. 泣けるぜ「フランダースの犬」
 火曜日の午後は、読み聞かせがある。今週はぼくの番...。前川康男の「ふしぎなふるしきづつみ」にチャレンジ！この作品は駅に置き忘れられたふるしきづつみの中身をあてるという筋立てになっている。風呂敷き包みには荷札がついていて、「すぐにあけてください。」「外であけてはいけない。」の文字が...

ストーリーを読みながら中身を当てよう！
 いろいろ出てきたぞ。

お骨 風船 鳥 うさぎ 雪
 ティッシュペーパー

まあ、そんなことがあれこれあって(中身は秘密)、さて本日のこと...。
 「どう？読み聞かせ？」
 「眠たくなっちゃったよ」
 「なぬーっ？」
 「どうせだったら感動ものをやってよ。“フランダースの犬”とかさあ。」
 「はあ？」
 「“フランダースの犬”知らないの？もう泣けちゃうんだから。」
 「知ってるよ！泣いちゃうから見ないんだよ！」(爆笑)
 昔、カルピスこども劇場で見て...、もう...泣けた。
 「歌、知ってるよ。」
 「俺だって！カラオケで歌うんだぞ。」(笑い)
 らんらんらん らんらんらん ジングルジングル
 ジングルギンダス...主題歌がひびきわたるJFでした。

3. 本日のおすすめ
 昨年亡くなった国際的画家・タイガー立石さんの展覧会。
 今からちょうど15年前、ぼくと森毅さん(当時京都

大教授)で「はてなし世界の入り口」という絵本(福音館の雑誌“たくさんのふしぎ”)を作った。その時、挿絵を書いていただいたのがタイガー立石さん。約1年間、タイガーさんと何度も京都に出向いた。トポロジックなセンスの絵は、ずいぶん授業に使わせていただいた。

あの白髪まじりのスポーツ刈りでにこやかに対応してくれたタイガーさんを忘れられない。

「メタモルフォーゼ・タイガー 立石大河亜と迷宮を歩く」
 日時：11月19日(金)～12月23日(祝・木)
 場所：O美術館(品川文化振興事業団)
 品川区大崎1-6-2 大崎ニューシティ2号館2階
 Tel 03-3495-4040

交通：JR山手線大崎駅下車徒歩1分
 シンポジウム、ワークショップなどのイベントあり。
 詳細は、美術館へ。

=====

*

平成11年11月11日

「111111」並びの切符をプレゼント
 昨日、外で授業を頼まれた帰りのこと...。西武池袋線秋津駅でふと見つけました「111111並びの縁起切符」。平成11年11月11日を記念してということで西武鉄道が発行。5枚一組で乗車数が11番目の駅とか大正11年11月1日に出来た駅など発の切符です。このセットを2名様にプレゼント！
 切は11月11日中、メールで。応募者が多い場合は、厳正なる抽選を行います。賞品の発送をもって発表にさせていただきます。
 ふるって応募してね！

=====

=====**デイリー・フレネ**=====

----- VOL.0043 ----- 1999/11/12

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. ありがとう！あったかーいプレゼント！
2. “ガキオヤジ”は、やめてくれ...、
 でもやっぱり“ガキオヤジ”
3. JFは授業するフリースクール
 スタッフ若菜の“おもしろデザイン授業”
 またまた、プレゼントつき！

=====

1. ありがとう！あったかーいプレゼント！

HPの新着情報にもある通り、またまた岐阜から本が送られてきました。うれしー！
 感謝の気持ちをこめて手紙を書きました。
 何人かの手紙を紹介します。

たくさんの本をどうもありがとうございました。
 私は“みずのなかのちいさなせかい”という本を読みましたが、とても勉強になるような本でした。
 この本の内容は中学1年で習った事なので、復習になりました。私はプランクトンなどに興味があったため、この本を読んで、もっとプランクトンについて知りたいと思いました。
 その他にも、たればんだのかわいい本などたくさん送っていただいて、とてもうれしいです。
 はじめまして！

この前は絵本と童話をありがとうございました。
若菜さんとダンボールを開けた時は、小さい頃読んだ本があり、すごく懐かしかったです。いろいろ知る事が出来たためになったと思います。

私は最近、文学を読むようになったので（あまりにも内容が難しいので）、絵本を久しぶりに読んだら新鮮でした。

そんなわけでJFの蔵書は一挙に増えました。
また、工藤順一さんより、一押し本が寄贈されました。「ようこそ、おまけの時間に」岡田 淳（偕成社文庫）ファンタジーです。あわせて御礼もうしあげます。

2. “ガキオヤジ”は、やめてくれ、
でもやっぱり“ガキオヤジ”

ゲームなんかやっていると男の子は結構エキサイトし、「なんだよ！ガキオヤジ！大人げないぞ！」なんて、ぼくのことを呼ぶ。
「そのガキオヤジはやめてくれよ。」
「じゃあ、なんて呼べばいいの？」
「“ガキオヤジさん”で、呼べよ。」（爆笑）
まあ、子ども達がそう呼ぶのは、そう呼んでもいい関係と考えていると思えば、たいしたことではない。ぼくには、そういう面もあるしね。
さて、ある日の午後、仕事をしてたら“わあわあ きゃあきゃあ”うるさいのなんの。「うるせえぞ！」と振り返ってみると、なにやら風船で遊んでいる。
「なにになに？何やってんの？」どうやら、ホワイトボードをネットに見たてて風船バレーボールをやってるらしい。「おれもまぜてくれよ！」2人ずつのチームを作り、さっそく対戦。5点先取のラリー...。
ふふふふふ、勝ちましたよ！
「やったね！」「もう一回やろうよ！」
「だめえ、もう5時だよ。帰る時間。勝ち逃げだよーん。」見学に来ていた教え子のあずみ、「変わってないよねえ。」やっぱりぼくは、“ガキオヤジ”かあ。
わかりました。“ガキオヤジさん”は、返上します。

3. JFは授業するフリースクール
スタッフ若菜の“おもしろデザイン授業”

またまた、プレゼントつき！
スタッフ若菜が趣味をいかしたデザインの授業をしました。一目でわかるマークなどをデザインする楽しい授業です。小学生から可能です。授業レシピも作りしました。詳細はレシピをご覧ください。
レシピ希望の方はお送りします。JFまでご連絡ください。ここでぼくから、デザインの問題です。
「大洋漁業のマークは、丸の中に“は”の字を書きます。さて、これはいったいどういう意味があるのでしょうか？」
×切11月12日（金）メールでお願いいたします。
昨日のDFで紹介した「111111の切符」、なんと都営地下鉄でも発行していました。それを2名様にプレゼント！

正解多数の場合は、抽籤です。
=====

==== デイリー・フレネ =====
----- VOL.0044 ----- 1999/11/15
//////// CONTENTS //////////////////////////////////////
1. ジャパンフレネ、あれこれ

2. 本日のおすすめ
3. あれこれお便り4連発！

=====

1. ジャパンフレネ、あれこれ

「ファイター！」は困る...？
先日、シカゴのFM局の取材があった。キャスターといろいろお話し、その別れ際の事...、「ええとう、これからはがんばってくださいね。うーん、ファイトウ！」とちいちゃん。
ところがそのキャスター（女性）困ってしまっわんわんわわん...、とは言わなかったけれど、本当に困っていた。そりゃそうだ、「ファイト！」だとケンが売ってることになっちゃうもんね。「戦うぞ！」ってな感じかな。
すごい商売
先日、JFの近くの路上を歩いていたら「先生、先生！」自動車がぼくの横に止まり、運転席から1人のおっさんが呼びかける。
もと教師だったから、思わず立ち土まっちゃやうよね。「先生、今展示会が終わってこれ一つ余ったからあげるよ。」車の中から万年筆・ライターなどのセットを差し出し、「あ、これもね。クロコダイルの財布。必要なかったら、だれかにあげてよ。」
教え子のオヤジさんかなあと思いつつ、「いや、結構ですよ。でも、どなたのお父さんですか？よく、ぼくのことわかりましたよねえ。」「先生のことはすぐわかりますよ。ただ、おれたちも一杯のみたいから、ちょっと出してくれない？」はああ...？なるほどねえ...。
「不必要だからいりません。」
「無理？あ、そう。」
車は風と共に去りぬ...。危なく引っかかるころでした。しかし、なかなかの技でした。

おねいちゃんのページを作りました。
おねえちゃんの部屋 第1話自己紹介
”おねえちゃんの部屋”を担当することになりました。林檎です。勿論フリースクール生。
初めてなので自己紹介といきましょう。
私、林檎は1984年2月4日生まれ。東京出身。ここに通っている面白い2人を紹介しよう。
一人はタンポポ、高2。タンポポによくからわれる。もう一人はすもも、中3（注 すももはわけ分からない言動及び行動をするのであらかじめご了承下さい）。あと毎週金曜日来るボランティアのキムさん、ちょっとボケた社会人25歳。大変面白い人。
すももがいうには影でさりげなく面白いことを言う遥介君。
他にもまだまだ生徒はいますが、本日はここまで。

危うく救急車
面談をやっている時、急に胃痛・腹痛...、まずい！
今年の1月の事が心によぎる。やはり面談をしている時、同様の症状。七転八倒の苦しみでヘルプ！ミー！
たまたま119番！救急車に運ばれ慶応病院に入院。
くく苦ししい。また、インフルエンザか？119番はしなかったものの、この2日間死んでいました。
皆さん、風邪・インフルエンザには要注意！

2. 本日のおすすめ

「子ども観の戦後史」野本三吉（現代書館 3990円）
できたてのほやほやの本。月刊「公評」に連載されてい
たものをぼくはすでに読んでいたが参考文献がついている
のと、若干の直しがあつたので、買いました。

「保護育成の『子ども観』を解体し、社会的存在としての
『子ども像』創出に挑戦。」

「近代日本児童生活史序説」（社会評論社...これも公評
に連載）に続く労作。戦後、子どもはどうとらえられ、ど
う変わってきたのか...?

現代の家庭（親子関係）、学校生活（教師と生徒）を再考
する上でも重要な視点を提出している。

ぼくは23章「スパルタの海」を興味深く読んだ。

戸塚ヨットスクールと“癒し”のはざまには何があるのか...
、そのはざまを疾走して行くということはどういうことか？

ぼく自身の子ども観の変化を吟味してみることが出来た。
とても読みやすい文体でさらっと読めます。

3. あれこれお便り4連発！

カニが来た！ - - - - - 以下、転載。

昨日の通信にあった山梨教研の報告、ビックリしました。
なかでもいろんな解き方が認められないとか、子供たち
同士やり取りがないなんて、どういうことなのでしょう。
子供たちだって、スッと解けちゃう子供をのぞいてちっ
とも楽しくないでしょう。知的な楽しみって、みんなで
問題を解くなかでも体験できると思うのですが。
ところで、カニの映像をデジカメに保存してありました。
圧縮して送ろうと思ったのですが、うまくいきません。
78kくらいだったので、そのまま送ります。
もしとんでもなく時間がかかったらすみません。
(いわきゆきさん)

- - - - - 転載、終了。

そういうわけで立派なカニが2匹送られてきました。

レシピの注文 - - - - - 以下、転載。

私は和歌山の中学校の講師をしているのですが、学校教育
のあり方に疑問を持ち始めています。
サービス業ととらえるあり方にも賛成できますし、地域社
会が荷なえなくなった教育部門を担当する機関という考え
方にも賛成できるし、自分の中で收拾がつかなくなっ
ています。

人間の可能性を信じ、仕事をするにすれば、あまりに入っ
てくる情報が絶望的な物が多いです。はたして、日本の未
来に人を育てる可能性があると言い切れるのでしょうか？
愚痴になりましたが、このメルマガを購読しているのは、
こういう訳からです。

では、今後とも参考になる情報を楽しみにしております。
(和歌山・飛田克哉さん)

- - - - - 転載、終了。

レシピの注文をいただきました。

JF通信7号に3本掲載しています。通信ご希望の方はご
連絡ください。年会費5000円で1年間送られます。
会員になっていただければ、嬉しいです。

“フリースクール・障害児学級”は子どもを
甘やかしている - - - - - 以下、転載。

はじめまして

毎日、楽しく拝見させてもらっています。
フリースクールの運営に関わっていらっしゃる方は、
「子どもを甘やかしている」という客観的な認識をお持ちで
すか？

子どもや障害者を甘やかしてよいものでしょうか？
弱ければ弱いほど、その者に対して厳しく臨み、あらゆる
つらい環境に適応できるよう、彼らのスキルを開発してや
るのが、真の教育者の務めだと思うのですが。

(Sさん)

- - - - - 以上、転載終了。

ぼくはこの考えには賛成できません。

まず、甘やかしているという認識はどこから来るのか？
そこから問題にしなればいけません。

“つらい環境に適応”ではなく“つらい環境を変革”だ
と思うのですが、いかがなものでしょうか？

先日、タクシーに乗った時、その運転手が同様なこと
を言っていました。「言ってもわからないのは、殴れば
いい。違いますか？お客さん。」

同時期に下記の投稿がありましたので、長いけれど
併載いたします。

障害を持っている子どもの不登校 続き

こんばんは、木幡さん。

この間の続き。。。というか、今日は中学校で2年生の
学年主任の先生とお話をしてきました。後味のよくない
話し合いで、話し合いなのか尋問なのか、落ち込んで帰
ってきました。

とても整理できそうにありませんが、それは私が中学校
に勤務したことがないからだろうと思っています。
本当は障害児学級に体験入学に行ったのですが、担任が
家庭訪問をしたときに彼女から私とのメールのことを聞
かれたそうで、なにか手がかりになりそうなことはない
か、プライバシーに触れない程度のことでも話してもよ
いことがあれば聞かせてほしいということでした。

私も、この間から「甘やかしている」という言葉がひか
かっていましたから、話し合いに応じることにしました。
体験入学が終わって、彼女の担任を待っていると...やって
きたのは彼女の介助の先生。

「担任の先生は生徒指導で忙しいし、学年主任の先生は学
校祭の片づけで忙しいから代わりに出てくれといわれて来
ました。」とのこと。

「へっ？」と思っていると、さすがに教務主任さんが「私
が呼んできます。」とおっしゃって、やっとこさ学年主任
さんが来られました。担任は、とうとう最後まで顔を出さ
れませんでした。ほんの少し顔を出してあいさつだけで
してもらえたら、また心象が違ったかもしれません。

本当に忙しかったのでしょうか、なんだか、それほど本気
で考えてもらっていないような、むしろ「こっちはいい迷
惑なんだ」って言われているみたいなのがして...

「甘やかされている」というのは、彼女が自分の考えを言
ったり、自分のやりたいことを主張したりすると先生方
にとっては仕事が増えるので、「やったことをほめてもら
えないと気に入らないようだ」とか「手をあげたとき真っ
先に指名してもらえるものだ」と思っていて、そうしないと機
嫌が悪い」とか、そんなことのように思っていました。

それに、「自分の言うことが通らなないと気に入らないよ
うで1年生の時は級長に立候補したんですよ！そして、あの

彼女のゆっくりのペースで半年間やられたんですから...。」
あきらかに迷惑そうでした。時間がかかるのは当たり前です。
でも、中学校では勉強が大切だから、そんなことは認められないと言わんばかり。

友だち関係もうまくいかなかったみたいだし、担任や介助の先生ともうまくいかなかったみたいでした。あの口振りだと、かなりみんなから「甘やかされている」と言われてきたのでしょうね。

そして、

「養護学校とか肢体不自由の子のための学校があるにもかかわらずこの学校を選んで入ってきたのだから、それなりの覚悟をして来てもらわないと。」

「では、友だち関係はうまくいかない、学校では孤立している、じゃあ、勉強をするためだけに出てこいと言うことなんですか？」

そういうわけではない、と言うようなことをおっしゃいましたが、彼女がいるとやりたいというのでこっちもがんばってやらせているが、本当はとても迷惑しているんだ！というニュアンスを感じてしまったので、それ以上話すのはやめました。

きっと、聞かれることもないでしょうが、もし今度聞かれても「お話しするようなことはありません。」と丁寧に断りしようと思いました。

校区内に住む子は、みな当たり前（選択権もなく）地元の中学校へ進みます。

それは、覚悟していくようなものではありません。障害があるから覚悟しなければならぬのですか？彼女は自分の願いが通らないと気に入らないという子ではありません。いえば分かる子です。彼女が「音読を私の読むスピードに合わせてほしい」というのは、自分も学習に参加したいという意思表示です。合わせてくれないといやなのではなく、彼女は自分の願いを表現しているだけです。それに対応してほしかったのだと思います。

養護学校へ進まなかったのは、勉強したかったからです。養護学校では、彼女の望む知識は得られません。でも、、、生き方はそれだけではありません。

そのことも、知るべきだと思います。

ほんとうにまとまりませんが、受験と個性的な子どもたちで忙しい中学校の実態を垣間見た気がしました。今日話をしてみて、やっぱり彼女に登校を勧める気にはなれませんでした。

むしろ他の生き方もあるっていうことを、探してきて見せてあげたいと思いました。

（山陰・ないさん）

-----以上、転載終了。

さて、みなさんいかがでしょうか？

二つの論調に対しどうお考えですか？

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0045 ----- 1999/11/16

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 都の西北、早稲田の学食
2. 本日のおすすめ 「学級崩壊についての調査」のサイト
3. 投稿特集 「甘やかし」論 の波紋

=====

1. 都の西北、早稲田の学食

金曜日のお散歩の授業（これも「甘やかし」？）、早稲田に行ったが、広末おらず...。上智に比べて男が多い。（ぼくは教研で不在。）

みんなが食べたもの、「大限定食」3名...からあげ、コロッケ、焼肉...、なんでこれが大限定食なのか、よくわからん。「カツカレー」1名...、食べた後、お皿を割ってしまった。「皿うどん」2名。

「ごはん・味噌汁・冷奴」1名...、シンプルー！

五木寛之の時代のメニューっばい。

さすが早稲田と言おうか、立てカンの向こう向こうからアジテーションが聞こえてくる。おっとー、その立てカンの前で約1名、グンゼのブリーフ一枚で“スピード”の歌を歌ってるやつがいる。はああ？股間に手をやり、なんかあやしい...

「早稲田ってこういう大学だったの？」ようすけ...、幻滅。

確実に受験生を一人減らした早稲田でした。

次回は！東京大学だ！

2. 本日のおすすめ - 「学級崩壊についての調査」のサイト

下記のサイト（チャイルド リサーチ ネット・ベネッセ教育研究所）に学級崩壊の原因、対応策など教師に対するアンケート調査など載っています。

<http://www.crn.or.jp/index.html>

3. 投稿特集 「甘やかし」論 の波紋

前日の投稿「フリースクールや障害児学級は子どもを甘やかしている...」に対して、下記のような反論が来ますので掲載いたします。さらに投稿者のSさんから再投稿が来ています。

計5本...、まるでメーリングリストのようになってきました。大変長くなりますが、重要な問題ですので一挙掲載いたします。

なおSさんの投稿の中に昨日の木幡の文章に対する批判がありますが、後日まとめて反論しましょう。

投稿される方は“1行二十五字で改行”の文章にしてください。

まずは、栃木のみかさん。

-----以下、転載。

こんにちは、木幡さん。

体調はいかがですか？

さて、先ほど、デイリーフレネが届きました。

その中のお便りについて・・・

私を感じたのは2点あります。

まずは、

「子供や障害者を甘やかす」嫌な言葉です。

子供や障害者を、自分の管理下に置いた上での考え方から生じる言葉です。

この言葉を口にする時、その人のなかには意識・無意識関係なく、自分を相手よりも上に位置づけている＝ある種の驕りがあるような気がしてなりません。

そして、つらい環境に耐え得るように、ということですが、耐えなければならない状況と、耐える必要のないつらさがある、ということをしちゃんと認識し、その線引きができる人だけが、このような事を口にする事ができるのではないのでしょうか。

なにもかも自分の思い通りにならないと、怒り出してしまふ。こういう状況にある人間は、確かに、自分をコントロールする術を学ばなくてはなりません。

でも、もし、その人（子供に限らず）が、理不尽なつらさの

中でそれでも耐える事を強いられるとしたら・・・。
全ての出来事を乗り越えることが強さではないと、私は思います。

それに、強さは、さまざまな環境の中に存在します。
フリースクールや、障害児学級を問題視されるような感があるご意見でしたが、だとしたら、「みんなと一緒」の環境 = 普通学級に通っている子供達は、辛さに耐える力があるのか？

甘やかされてはいないのか？

正しいことが何なのか、私にはわかりません。

正しいことなんてないのかもしれない。

そう、正しいことはひとつではないんじゃないでしょうか。
ひとつ、もしくは数少ないものを、正しい・理想として限定してしまうから、それ以外の環境にいる人間に対して、甘やかされている・甘えているとい考えが生じてしまうのでは？

選択肢は、もっともっと広く、もっともっと多く存在するべきなのです。

これは、あくまでも、私個人の意見です。

誰を打ち負かそうというものでもありません。

呑気な言い方で申し訳ないのですが。

私には、こういう考えが自然に身につけてしまっているのです。

今日は変なお天気で、なんとなく、体もしゃきっとしました。

木幡さんほどではないけれど、(Ha

、それなりに年なのかなあ・・・。

では、また、メールします。(栃木・みか)

-----以上、転載終了。

引き続き、埼玉・Mさん

-----以下、転載。

> “フリースクール・障害児学級”は子どもを

> 甘やかしている-----以下、転載。

>

> 弱ければ弱いほど、その者に対して厳しく臨み、あらゆる

> つらい環境に適応できるよう、彼らのスキルを開発してや

> るのが、真の教育者の務めだと思うのですが。

>

こういう考え方も、あるかぎられた分野では必要です。

例えば、自閉症の子どもを行動療法的なアプローチで療育する場合、です。でもそれは、「心を鬼にして厳しくしなくてはならない場面」があるから。

なぜなら、スキルを獲得するために、彼らは通常の何百倍もの繰り返しが必要だから

です。

でも、だからといって、今回の投稿のように、弱いものに対して厳しく望むことが、真の教育者の勤めだとも思いません。

こういう例もあります。

わたしの友人の子どもは、重度の生まれつきの難聴児です。

最重度ですから、聴覚は全くといっていいほどありません。

友人は、社会福祉士でもあり、障害児教育についても「考え」をもつ人物でしたから、「あまやかす」こと

なく育ててきました。

手話文化圏ではなく、音声言語圏で、しかも、地域の普通学級で教育を受けさせました。

難聴児が普通学級に通う事についても、教育委員会に自ら交渉して、その門戸を開放させました。

もちろん、地域の学校に通いながら、聴覚障害児の療育専門機関にも、急行を乗り継いで通いつつです。

娘に対する厳しい態度には、端で見ていた私たちでさえ、少しは加減を、、、と思うときもありました。

友人は、厳しく育てる事で、その娘の将来の自立が獲得できると考え、一生懸命に親としてやれる事を提供してきた筈です。

その結果、娘は優秀な小学6年生に育ちあがりました。

聴覚障害はあっても、ほとんどの事は問題なく処理できますし、歌をうたう事や、コンサートにさえ、出かけます。

そして、今、その娘は「登校を拒否」しています。

「難聴であることで、何をしてもいつも有り難うといわされる環境に疲れた」といっているそうです。

障害を持って生きる事が、他者に対していつも感謝を

(先生や社会から)強られる事と、強制的にセット

になっているのって、何か変じゃありません？

厳しくするとか、しないとかではなく、障害をもつこと

がいる事の出来ない環境をこそ、見直す「まなざし」

が学校教育制度には必要ではないでしょうか？

ちなみに、その娘が聾唖学校に行くには、高速道路を使

っても、片道1時間半かかるところにしかありませんから、彼女の生活実態とはかけ離れた環境です。

彼女は、「もう絶対に地域の学校には行かない」といっ

ているそうですから、もはや彼女の行く事が出来る「学校」

というところは、存在しないに等しくなったという事でしょうね。

いいんですか？この子をほっといて、、、学校さん！？

(埼玉・M)

-----以上、転載終了。

それでは当事者Sさん。

-----以下、転載。

とりあえず、誤解されている点について、まず指摘しておきます。

私が語っているのは「教育論」です。

タクシーの運転手さんの語っているのは「調教論」

ではないでしょうか？

貴殿らが「教育 = 調教」と考えているのならば、当然、私とタクシードライバーの意見が「同様」という

ことになるのでしょうが、私は「教育」と「調教」を混同することは間違いだと思います。

貴殿の「甘やかさない」 = 「殴る」という発想の貧困が悲しいです。

私は「甘やかす」 = 「スポイルする」 = 「弱くする」

ことだと考えているので、その反対は「甘やかさない」

= 「厳しく鍛える」 = 「強くする」ことです。

殴って言うことを聞かせて従順にすることと、相手を強くするために厳しく接することとは根本的に異なります。

「ぼくはこの考えには賛成できません」とのことですが、これは「子どもや障害者をどんどん甘やかすべきだ」と主張されているのでしょうか？

私の「環境に適応」という言葉が曖昧だったのかもしれませんが。

私はけっして「体制に絶対服従せよ」、「自分が殺されることに甘んじろ」などと言っているのではありません。

私の主張は環境に負けなだけの強さを獲得させるべきだということです。

貴殿らの実践が「弱い者に、つらい環境を変革する能力を養わせること」ならば、私も両手を上げて大賛成です。

私の考えと同じだからです。
 そして、そのためには厳しさが必要だと思うのです。
 もしも、貴殿らの実践が、「弱い者のためにつらい環境を変革してやっている」のならば、それは間違いだと思います。
 他者に依存しない限り、自分では何もできない人間を大量生産して、いったいどうしようというのでしょうか？
 人間は闘いの中でしか成長することができません。
 逃げているだけでは、人間は成長することができません。
 もちろん不利な戦況においては、退却することも当然の戦略です。
 傷ついた兵士をそのまま戦場に送り込むことは、愚策でしょうかありませんが、私の心配していることは、闘う意志がまだ残っている者を骨抜きにしまうことです。
 私はフリースクールがどんな所なのか、正確には知りません。自分の体験から、フリースクールに対しては、かなり偏向な認識を持っていると思います。
 だから、実際のところを知りたいので、メールマガジンを購読させてもらっていますし、今回は質問してみました。
 私は、かなり初回から貴殿らのメルマガを読んでいることになるとは思いますが、読んでいて、貴殿らが、ただ単に「辛いことから逃げ出す」ことを奨励しているような気がしました。貴殿らのマガジンの記事は主義主張の宣伝性の強い記事ではないので、あくまで全体から受けとった印象です。
 厳しい感じがなく、ふにゃっと、ほんわかした印象を受けました。
 一生涯、世間から隠れて生きていく覚悟があるのならともかく、現在の日本のようなガチガチの学歴社会という状況を前にして、こんなのにのんびりしていいの、と思わず心配してしまっただけです。
 もちろん、中学や高校をドロップアウトしても、20歳前後でパイパス経由で大学に潜り込み、周囲に合わせて流されていくことを覚えて、消費社会に疑問も持たず、普通に就職して、権力に従順に暮らしていけば、社会を変革することなく、無難に生きて行けるというのが現実なので、それ程、危機感もないかもしれませんが、せつかく社会の矛盾に敏感に反応して学歴社会を蹴っ飛ばした見所のある子どもたちなのだから、逆に「普通」になって欲しくないという思いがあります。
 私も貴殿らのことを誤解している部分が少なからずあると思います。
 そういった部分は忌憚なく指摘していただきたいと思います。
 (S)
 - - - - -以上、転載終了。
 引き続き、問題提起をした山陰のないさん。
 - - - - -以下、転載。
 その方がどのようなお気持ちで書かれたのか、少し理解に苦しむところがありますが。
 スキルはとても大切です。でも、私が望むのは「甘やかかし」ではなく、「同じ一人の人として見てほしい」ということです。そのためにはスキルも必要です。
 でも、それは障害があるからがんばらねばならないとか、子どもだから大人の言うとおりにしなければならぬとか、そういうものではないと思います。
 もちろん、フレネでやっておられることも、甘やかかしではないと思います。
 厳しくスキルをして育てられた子は、その道以外は認められないわけですから、大人の顔色を見て育つ。

大人に認められている間はよい子でいられるでしょうが、人間関係で躓き、一人になったときに何をすればいいのかわからない、自信喪失もしくは無気力...なんていうのを想像してしまいます。(精神科の先生の受け売りですが。) 知的な障害があろうと、精神障害があろうと、身体の障害であらうと、子どもであらうと大人であらうと、老人であらうと、人が人として生きていることが何よりもすばらしいと思っています。
 中学校のことについては、今日、うちの校長とも話をしました。
 「先生達の考え方からしてそんな(おかしなこと)だから、知らず知らずのうちに子どもたちにも伝わっているんだろうと思う。」という答えでした。
 中学校の校長先生へもそっと話しておいてくれるそうで、ちょっとほっとしたところです。
 それにしても、そのかたはもったいないことをしていらっしゃると思います。人が人であることを認めれば、はるかに心豊かな生活が送れるのに...
 私は、また近いうちに、彼女に会いに行こうと思います。今度は何を話そうかな？
 音楽のこと、好きな男の子のこと...
 - - - - -以上、転載終了。
 では、これが最後です。Yさんの投稿です。
 - - - - -以下、転載。
 私は今年小学校に2回、中学校に1回、私たちのやっている国際ボランティアの説明のために行ったことがあります。そこで感じたのは中学校の異様さでした。
 はっきり言って先生に常識が感じられませんでした。
 私は呼ばれて行ったつもりだったのですが、職員室に伺うといらっしゃいませの一言もなく行き先の教室を告げられただけでした。
 生徒は疲れ切っていました。先生は生徒に指示という名の恫喝をしていました。あんなに脅かしてビビらせないと生徒は自分の言うとおりに動けないと本気で思っているのでしょうか。
 その感覚は今の子どもを取り巻く状況からはかけ離れています。今の中学生は自分をもっと人間として扱ってほしいと思っているのではないのでしょうか。
 先生たちを異星人だと感じるのは私だけなのかしら。たかが1年違うだけで、小学校と中学校には(あるいは、小学校の先生と中学校の先生には)子どもについてのなんというか、世界観に格段の違いがあるんだ、中学校は先生のためのパーチャルな空間である。そう感じて帰ってきました。感性が共存するなんてそんなあなた、あまいもんやおへんで。
 説明したのは6年生と中学1年生で、1年違うだけです。同じ内容の説明なのに、小学生は生き生きと感じてくれているんですが、中学生は無関心でした。その結果は、先生の取り組み方によるものではないかと私はにらんでいるのですが。
 子どもたちの可能性を何とかしようという気持ちでやると、する事が増えて面倒くさいという気持ちでやると、子どもは敏感に反応しているのだと思います。
 問題解決のためにはやはり親や地域の人達がたくさん中学校に押しかけて行って、先生や子どもたちと直接つきあうことが大切だと思います。現実の世界に早く気がついてほしいと思いました。
 あんまり関連性がないのですが、ないさんのご意見を読ん

で、私の感じるところを書いてみました。参考にはならないと思いますが、ご意見をちゃんと受けとめたいと思っている人間もいますと一言言いたかったんです。

-----以上、転載終了。

はああ、長かったですねえ。この話題は次回ぐらいで終了にしましょう。次回、皆さんのご意見を聞いて、コメントしたいと思います。

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0046 ----- 1999/11/17

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. “ほうとう”を食べる
2. お願いします！ サンタクローズはいませんか？
3. 号外を出します！

=====

1. “ほうとう”を食べる

「ほうとう”を持つと、銃刀法違反！」なんてけんちゃんと言ってる中、本日のお昼は、山梨名物“ほうとう”。山梨にはサークルの応援に毎月行く。

「桔梗信玄餅は、もう飽きたよ。」てなわけで、今回のおみやげは“ほうとう”(ほうとう=すいとんの変形)。

材料

白菜(ザク切り) 人参(いちょう切り) ねぎ(ななめ切り) ごぼう(乱切り)かぼちゃ(いちょう切り) 里芋(小口切り) 豚バラ(3センチ幅) こんにゃく(ゆがく) きのこ、以上。大根も入れるが、材料が多すぎるので、今回は省略。

かぼちゃ以外、ほうとうも含めて一緒に煮る。だしは味噌味。まあ、すいとんバージョンですね。

「料理は腰が基本！」などと山梨出身のスタッフ・松岡に言われながら、あぶなかしい手つきで野菜をカットしていました。

「野菜はどの順番に入れるの?」「????」

「火の通りの悪いものからいれるんだよ」「ふーん」

普段、ほとんどお料理なんかしない子どもたち...

「腹へったよー！」

「木幡さん、お料理はあせってはいけないんですよ」

かくして出来た“ほうとう”の味は...?

ううううううううまあああーい!

余った材料で明日は“トン汁”をつくります。

2. お願いします！ サンタクローズはいませんか？

ジャパンフレネは物資が不足しています。なんでもいいから送ってください。下記のもの余ってれば、お願いいたします。

- 雪平鍋他、鍋ならなんでも お玉 ボウル 泡だて器
- ざる その他、台所用品
- クリスマス用のお飾り
- 児童用図書
- その他、不要品があればご連絡ください。

3. 号外を出します！

「甘やかし」論についての投稿が大変多く、対応が不可能になりつつあります。そこで、昨日送られてきた投稿・ご意見など、まとめて号外にする事にしました。

まるで、メーリングリストのように活発です。私の考えを代弁しているような投稿もありましたので、あえて私

の考えは掲載していません。

もう少し落ちついてから、私なりの考えを述べさせていただきます。

“学校総合研究所”も主宰していて、そこではメーリングリストの会員も募集しています。11月一杯は無料です(以後、一月の会費、1000円です)。

そちらの方にもご加入ください。

がながん、意見交流できますよ。

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- 号 外 -----

1999/11/17

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

「甘やかし」論の反響

=====

「甘やかし」論の反響

こんにちは！木幡です。

たくさんの投稿、ありがとうございます。

昨日、10本以上の投稿がありました。通常のデイリーフレネに掲載するには量が多すぎ、かといって小出しにしているのは話題性にかけて判断しました。

ここに一挙に掲載させていただきます。とても長いメルマガになってしまいましたが、お許しください。

なお、各タイトルは私の判断でつけさせていただきました。ご了承ください。

(1)「二極対立構造の無意味」

そして、「批判と非難の峻別」

-----以下、転載。

デイリーフレネにつき、電子メールでご案内をいただいでから継続して拝読させていただいております。11月16日付第45号に「甘やかし」論に関するやりとりが掲載されてありましたが、気になった点が2つありました。

1つは、人間が環境に適應する事と、人間に合わせて環境を変革していく事といずれが正しいかという枠組みで議論が進みつつあるように感じたのですが、両者は二者択一で両立しないものではなく、両方とも大切な事であり、同時並行して取り組むべき課題であると思います。どちらが正しいかという議論をいくら行っても、求める答えは見つからないのではないかと思います。

もう1つは、批判と非難の峻別の問題です。私の理解では、批判とは論理的に何が正しくて何が間違っているかを吟味する作業であり、その対象はあくまでも相手の主張や考えであって相手の人格そのものではありません。あくまでも相手の人格に対する敬意を損なわないという点で、非難とは異なります。これに対して非難とは、相手の人格の否定を伴う、感情の表出です。

もし、フリースクールが「甘やかし」であるとするのであれば、まず、そもそもここで言う「甘やかし」とは具体的にどのような行為を意味するのか、論者の方から定義付けをはっきりさせないと、そこから先の論理的な吟味は進まないでしょう。主観的な印象を表出するのは、非難には成り得ても正当な批判にはならないような気がします。逆に言えば、具体的な実践

の中身を吟味する事で、あるいは誤解が解けるのかなとも思います。

もしかしたら的外れな事を申したかも知れませんが、読後の感想まで。

(富山・ソーシャルワーカー Tさん)

-----以上、転載終了。

ハンナ・アーレントの次のような文章を思い出しました。

“ 伝統を終焉させる転換の作業は二重の意味で始まりを明るみに出す。対立項の一方を主張すること 知性に対して信仰、理論に対して実践、永久不変の超感性的真理に対して感性的で生成消滅する生 それ自体が否認された対立項を必然的に明るみに出し、両項はこの対立的関係においてのみ意味および有意性を得ていることを明らかにする。”

- 「過去と未来の間」みすず書房 -

「はざまを駆けぬけて行く」という発想の重要性...がポイントですね。

(2)「真の教育者とは...？」

-----以下、転載。

> “ フリースクール・障害児学級 ” は子どもを

> 甘やかしている -----以下、転載。

> 子どもや障害者を甘やかしてよいものでしょうか？

>

> 弱ければ弱いほど、その者に対して厳しく臨み、あらゆる

> つらい環境に適応できるよう、彼らのスキルを開発してや

> るのが、真の教育者の務めだと思うのですが。

というか、むしろ過剰なヒロイズムはやめたほうが、真の教育者としてわたしは「カッコよく」感じます。

あなたは確かにきちんとしていらっしゃるのでしょうか、真の教育者として自覚をして、的確に対応をいらっしゃる事と思います。

でもわたしは、その子の意向の実現のために、悩みつつ傍らに静かにたたずむ、一人の教師のほうが、だんぜんカッコよく感じます。

「やってやってるんだぜ」と、言葉で言わないにしても、そう思われている方にしてみれば、たまりません。

こういう事って、言わなくても、伝わっちゃうんですね、。

障害者は鍛え上げられるべき存在でもなく、ましてや動物ではありません。あなたの論理は、何かガキ側からの発言としか、わたしには思えないのですが、、、

厳しさを必要とする場面においては、徹底的に妥協せず事を要求していくのも必要です。

しかし、なぜ、障害を持った者がそうでない側の論理に、しかも一方的に適応しなくてはならないのか、わたしには解らないのです。

障害を持った方の世界をわかるのって、本当はすごく難しいんじゃないのかなあ？

(埼玉 M・Sさん)

-----以上、転載終了。

それぞれの“生”をまず認め合うところから、出発する。違いを認識し、どうコミュニケーションして行くか...、方法論も含めて問われるところです。

(3)「子どもと障害者の並列に疑問」

-----以下、転載。

投稿を読んでいて思ったことです。

「子ども」と「障害者」と、なぜ、並列されて文章に出てくるのですか？

「障害者」というのは、「障害」を持った子ども達も成人された方達も共に含んでのことでしょうか？

しかし、投稿されたメールを私の目で読んでいますと、どうやら、「障害児」について、多くの方はおっしゃっているようですね。

何が違うのですか？

どうして、「子ども」の円の中から「障害児」ははみ出しているのですか？

ふたつの言葉が並べられるのは、そこに違いを感じ取ってらっしゃるからだだと思います。

細かいことでしょうか。わたしの誤解でしょうか。

みなさん、「障害」のある方全般を指して、「障害者」と言われているのでしょうか。

もし、そうでないなら、私には、そこに大きな溝が見えます。近頃、そういったトコロに「差別」を感じてしまうことが多過ぎて、一番偏見を持ってるのは自分なのではないか、

と思ってしまうことがよくあります。

木幡さんはどう、思われますか？

私の見方が偏っているのでしょうか。

現在みなさんが投稿されている話とは違ったところ？を感じ取ったと思っています。

教育って、その子その子に適ったことを、その子どもが育つによりBETTERな方法を、

それぞれが違った目標に向けて、違った道で行われていくものだと思います。

そこには、「普通学級」の子どもも「特殊学級」の子どもも、もちろん、学校による違いも無いものだと思います。

どうして、「彼らは甘やかされている」という言葉がでてくるのか、分かりません。

それが、その人に適したものであれば、それは、「甘やかし」でも、なんでも無いと思います。

その方法を同じように、また違う人に当てはめていくのは、間違っていると思います。

ですが、「甘やかされている」と言うということは、AグループBグループと線分けして比較しているということではないでしょうか。

子どもたちを塊でなく、ひとりひとり、見ることをするならば、その様に考えることはないのではないのでしょうか。

(Nさん)

子どもは社会的存在...。今までの保護・育成という児童観の克服と障害者の問題は、リンクすると考えます。

同様のことを考えていらっしゃる方がいます。

(4)「障害児あるいは障害者という言い方について」

-----以下、転載。

> “ フリースクール・障害児学級 ” は子どもを

> 甘やかしている -----以下、転載。

>

> > 弱ければ弱いほど、その者に対して厳しく臨み、あらゆる

> つらい環境に適応できるよう、彼らのスキルを開発してや

> るのが、真の教育者の務めだと思うのですが。

> (Sさん)

これはいくつかの混同があって、論議が交差しない事

が多いように感じます。

障害をもつ ディスアビリティ

障害を持つ事によって、社会生活に障害が生じ、生活しにくい ハンディキャップ

障害をもっている、ご本人がとりたてて社会生活に支障を感じない場合は、障害者とは言わないのでは？
もっとも、障害者自身が障害に耽溺するという事も、
ママありますが、、、

教育と療育は切り口が違うので、いっしょくたに考えると混乱が生じると思います。

療育はシビアであるといえますが、教育の場面ではそれだけでは成立しませんよね。

療育の場面で厳しく接するのは仕方ないにしても、障害を克服することに終始されるのは、あまりにも豊かな関わり合いからは遠すぎます。

子どもは「その子どもの人生を生きる」ために存在するのであって、障害を克服するためにいるわけではないからです。

子どもの存在そのものに関わる事の意味、そして、教師としてその子どもの成長のプロセスに立ち会わせていただけたという事こそが、教育者としての喜びに繋がっているのだと思います。

(埼玉 Mさん)

-----以上、転載終了。

他者との関係性が中心的課題ですね。

(5)「インナーストーリーに耳を傾ける」

-----以下、転載。

いつも、メルマガありがとうございます。

一通目のSさんのメールを読んで、

激しい憤りをおぼえましたが、

2通目を読んで納得しました。

不登校の子のことを知らずに書いていたわけですから。

私は、広島でマンツーマンの小さな塾をやっています。

不登校の子がちょくちょく通ってきます。

(今は、いないです。元不登校の子は一人います)

> 貴殿らの実践が「弱い者に、つらい環境を変革する能力を

> 養わせること」ならば、私も両手を上げて大賛成です。

> 私の考えと同じだからです。

> そして、そのためには厳しさが必要だと思うのです。

厳しさや理不尽なことに疲れた子が不登校になっているように思います。

そんな子供達になぜ厳しく接しないといけないのでしょうか。

厳しく接したら、「弱い者に、つらい環境を変革する能力を養わせること」が現実可能ですか？

ヨットスクールの理屈じゃないですか。

必要なのは、愛情ではないでしょうか。

言いたい事をよく聞き、一人一人のインナーストーリーに耳をかたむけることが大切なように思うのです。

Sさんのような考えを持っている人も多いでしょうから、こういった議論は活発にやって欲しいです。

(広島 Iさん)

-----以上、転載終了。

先日紹介した野本三吉さんの著作「子ども観の戦後史」に「戸塚ヨットスクール」のことが出てきます。

事故が発覚し、その体質が露呈されました。世間の多くは不登校・引きこもりの問題には、まだ理解を示していません。その一点で世間と「戸塚ヨットスクール」は通底しているところがあると思うのは、私一人でしょうか...？

(6)「多様な対応の可能性」

-----以下、転載。

ちょっと黙ってられないので、投稿します。

厳しく接する、ての悪くないと思います。

成果が出ればね。

相手見て、時期見て、やらないと関係できないし、

関係できないと、仕付もできないと思います。

職人修行みたいに、本人納得していれば、やりようがあると思いますけど。

厳しい人と甘い人がいて、その中で、子どもたちがうろろうしながら成長していく、って感じが好きです。

私は甘い方で、自分のやってること考えると、

生徒に「こういうことしてると、先生に悪いな」と

思わせているみたいです。

それで、生徒たちは結構成長していくようです。

(きっと、私の知らないところで、厳しい先生がしつけてくれてるんだと思うけど)

ちょっと違うな、と思うのは

「私の主張は環境に負けないだけの強さを獲得させるべきだということです。」というところで、特に「獲得させるべき」というところ。

「獲得して欲しい」とは思うし、色々工夫しますが、人間相手だと、そうまくいかないみたいです。相手の時期もあるし、自分のキャラもあるしなかなか思い通りには、、、ね。

23年間公立高校で教員やってます。

いろんな考えの人がいて、まあ、それぞれ、仕方ないところなんでしょうけど、自分のできることを、目の前の生徒相手に毎日やっていく、てことなんだと、思っています。

なんだか、具体的でなくてあまり伝わらないかもね。

教育論って、教育関係者の大人の人がはまるヤツで、

そことは別のところで若い人は色々経験して行くみたいですよ、なんて思いもあります。

(東京 Pさん)

-----以上、転載終了。

現実のはざま...、公教育の現場ほどその板ばさみになっているところはありません。保護者からも行政からもたたかれ、2002年以降の対応を迫られています。不登校から見えてくる世界もあると思います。

(7)「必要な“心の栄養補給”」

-----以下、転載。

確かに「鍛える」という考え方は、間違いではないと思います。

しかし、少し誤解されているようですが、フリースペースに通う子供たちは最初から「学歴社会を蹴っ飛ばして」

いたわけではなく、最初は学校への不応から始まり

(理由はさまざまだと思いますが)、ぼろぼろにくたびれ果てた難破船のようになり、そして、「フリースペース」という居心地のよい港を発見して、滞在しているのだと思います。

そこで初めて、「学校なんて自分にとって意味のない場所だ」という知恵を得ることができているのではないのでしょうか。

フリースペースに通う子供たちがまず必要としているのは、「心の栄養補給」です。これが完了して初めて、彼らは自ら、厳しい世の中に再び復帰してこうと自主的に思うことができるのだと思います。無理矢理彼らのような子供たちを「厳しく鍛え」ようとしてしまうと、彼らはそれこそ

ねらい 「他人にみられる」ことで自分を意識する。
自分をみせる楽しさを知る。

素材 自分 他人 クロッキーの道具 カメラ
カメラマン

キーワード みる みられる
みられていることをみる

段取り

- (1) モデルは「どんなふうにもみられたいか」を意識しながら、楽なポーズを取る。
- (2) 他の人たちは、10分間でモデルをクロッキースケッチする。3分間の予備時間を取る。
色をつけてもいい。
- (3) モデルは作品をひとつひとつコメントする。
- (4) モデルは描き上がったものの中から一番気に入ったものを持って、好きなポーズを取りながら、カメラマンにポートレイトを撮ってもらう。
- (5) 後日プリントされてきたものをみる。互いに批評する。

裏段取り

カメラマンは、参加者たちとの関係性を作っておく。
カメラマンは機材を用意する。
モデルを描くとき、また評価するときに悪意を持たない。
批判しない。撮影は白バック、フィルムは4×5インチを使用。

こんな感じでミーティング。自己をどう表現するか？他者はそれをどうみるか？そして、出来あがってきた写真、つまり、より客観的なものをどうみるか？
カメラマンはもちろンプロ、そして、4×5というプロ仕様のフィルムを使い、カメラも布をかぶった本格的なものだそう。

「くっきりと撮りますからね。」と、ワイダ氏。
“他人バージョン”があるのだから、当然“自分バージョン”もある。自分の今ある顔・なりたい自分などを自分で描き、写真を撮ってもらうというパターン。
まずは“他人バージョン”を来週水曜日に実践します。
えう、ご期待！

もちろんこれも“授業レシピ”としてブラッシュアップしていきます。

2. ジャパンフレネ、あれこれ...

トン汁を作ったよ

“ほうとう”の材料が余ったので、今度は“トン汁”に挑戦！

えりちゃんいわく

「同じ材料を使えば必ずおいしく作れるの？」

「さて、それはどうでしょう？」

というわけで、スタッフ・若菜が「おいしい料理づくりのポイント」をみんなに聞いてみました。

味をイメージ 特性調味料
味見をする 素材の味を生かす
手際よく作る 愛情をこめる
栄養と献立のバランス
なにより、おなかをすかせる
クリスマスカードも作ったよ！

「手作りカードをみんなに送ろう！」ということで、試作品を作ったようちゃん(小6)。彼の指導ですてきなカードを作りました(送ってほしい方、ご連絡ください!)。
「木幡さん、そこは違いますよ。」「木幡さん、早けりゃ

いいってもんじゃないんですよ。」

あれこれ、ご指導いただき、ぼくも試作品を完成させました。

「新トイレ掃除法」発見！

JFのトイレは“トイレ掃除マニア”の木幡が担当。
便器の水を完全に取り、素手でごしごしやると、みるみるきれいになるのだ。昨日、“ダ・カーポ”を読んでいたら...「負けたあ！」というほどの“トイレ掃除”の達人の記事が出ていた。

なんと！仕上げはカーワックスを塗るというのだ！

さっそく実践してみます。はい。

3. お便りコーナー...「クイズ」特集

購読者のクイズに見事当選したMさんからのお便りです。

-----以下、転載。

こんにちは 木幡さん。

富山のMです。

浮き玉の出題者、Tさんから景品が送られてきました。
沖縄の礼子窯(れいしよう、と読むのだそう)で焼かれた青色の小さなかわいらしい小物入れです！

はじめ、包みに「黒砂糖」とはんこが押してあったので、母と「なにをして食べる？」と箱をひらいたら小さな陶器が出てきたのです。

「黒砂糖」は、お店の名前だったんですね。

(おいしそうなネーミングですね！！)

とってもうれしいです。

うれしいのは、小箱の美しさだけではない気がします。
ネットを介して人からなにかをもらうというのは初めてです。
木幡さんに送った回答メール、あれは私が初めて見知らぬ人へ送ったメールでした。

自分も意識せずにやってしまっていたましたが、この青い小箱を見ていると会ったこともない人が こんなふうになんか何かのはたらきかけをしていることが、ちょっと不思議でちょっと暖かく感じるのです。

Tさんに、お礼のメールを出そうと思います。

さて、43号の、若菜さんの“おもしろデザイン授業”

とっても興味をそそられます！

是非、レシピを見せてください！

大洋漁業の問題は、難問ですね。

もうちょっと考えさせてくださいよ！！

では！！

-----以上、転載終了。

ぼくも正解し、同じプレゼントをいただきました。

大洋漁業のマークの正解者は、今のところ1名です。

「111111」切符、まだあります。がんばってください！

もう一人、「矢印パズル」にはまった群馬・沼田、

スペース“ゆう”の小野さんからです。

-----以下、転載。

風邪の具合はいかがですか？

沼田地方は、咳の風邪が流行っているようですが・・・

コピー早々とありがとうございました。

数々の識者たちを悩ませた代物のようですね。

知人に木工関係のひとがいるのですが、その人曰く

「これは、接いであるんだよ。プロが見ればわかる。

素人にはわからないようにしてあるけど。」とのこと。

そんなはずはないと言っても、“プロ”と“素人”を

繰り返し説かれるだけなので、もし接いでないとしたら

と訊くと彼宣わく、「始めに木をたたいて潰して

(柔らかくなる)、形をとってから五円玉を通し、水

に浸すと木が再生する」のだそうです。
 一応やってみようと思います。
 さて、いかがなものでしょうか？
 今日は、夕方になって急に冷え込み、山々は雪雲に覆われました。東京も冷えているとききます。どうぞ、お大事になさってください。

-----以上、転載終了。
 なかなかいい線いっていますが、ちょっと違います。
 これですと、木が割れてしまいます。さてさて...
 =====

=====
 ----- VOL.0048 ----- 1999/11/19
 ////////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. “東京六大学食探検隊” 結成！
2. クイズの解答
- “マル八”(旧社名 大洋漁業)のマークは授業になります
3. 「甘やかし論」 これでおしまい (最後にプレゼントつき)

=====

1. “東京六大学食探検隊” 結成！

「散歩なんか、行きたくないよ！」
 とあれほど言っていたのに上智大学で味をしめ、早稲田大学で病みつきになってしまったJF少年・少女たち...
 「今度どこ行こうか？」「学食、いいよね！」
 変わり身のなんという早さ！
 ついに、けんちゃんから「各大学の学食を食べ比べて、レポートを書こう！」という提案まで出てきた。食べ比べて、味の批評をしようというわけだ。
 ぶらぶら散歩もいいけれど、目的ある散歩もいいよね。
 「担当制にしようよ。」「おれ、ラーメン！」
 「木幡さん、ラーメンにうるさいもんね。」
 「えーっ、いつも同じ物食べるの？」(えり)
 「いや、そんな事ないけど。」
 「おれ、いつもカレーでいいい(けん)
 例えば、次のような担当を考えてみました。

- 木幡 ラーメン
- けん カレー
- ちか ご飯
- ようすけ 味噌汁
- ようこ 名物ランチ
- 若菜 値段 などなど...

そこで本日19日、東京大学(本郷)に探検隊、参上！
 「一生、行けないかもしれないから、ちゃんと見ておくんだぞ。」
 「木幡さん、合格できたの？」
 「おれの時は、唯一東大入試がなかったんだ。惜しかったなあ。受ければ入れたのに...。」(実にいい言い訳だよなあ...、はっはっはあ)。
 怪しいオヤジと少年少女のかたまりに、ご用心！

-
2. クイズの解答
 - “マル八”(旧社名 大洋漁業)のマークは授業になります
 - 「マル八の旧ロゴマーク、丸のなかに“は”の字...の意味はなんでしょう？」
 - 正解者はなし。しかし、 が2名。お二人には「111111」

切符をお送りいたします。
 -----以下、転載。
 わ、わかってしまった.....」
 そう！大洋漁業の件です。
 ずっと、デザインとして読み解こうとしていました。
 紙に向かって丸を描いて、はを描いて、んんんんうわからん！！
 隣で見ていた親戚のおばちゃん、
 「うちのお父さん物知りだから電話で聞いてみれば」って。
 夜遅いけどおじさんにきいてみると、事も無げに出てきた「知ってるよ」の言葉。
 わ、わかってしまった...
 まあ、聞いてしまった、のですけどね。
 戦前、「林 かね」ナントカなんとかという人が社長の「林かねナントカ商店」という会社があったのが、戦後いくつかの会社と統合して大洋漁業という会社が出来た。しかし、林さんの頭文字は会社のマークとして用いられ、それが大洋ホエールズの応援の小旗にもなったわけだ。
 (物知りおじさん・談)
 う～ん、では 横浜ベイスターズが優勝したときに下関の人が喜んでいたら、林さんの出身は下関だったりして？
 木幡さん、ずるっこでしたがどうですか～？
 おじさんすごーい！！ あたしは無敵だぁ！！

(とことん根性がずるっこ)
 (北陸 MMさん)

-----以上、転載終了。
 木幡からの解答
 同様の解答がもう1件ありました。
 残念ながらこの答えでは です。
 マル八の旧社名が大洋漁業です。
 その前身が下関にあった“林 兼商店”です。
 その頭文字“は”を取っています。
 しかし、もう一つ意味があります。遠洋漁業の会社ですので、海の安全を祈り“波(は)”を丸く治めるという意味で の中に“は”が入っています。
 ちなみに現在のロゴは波のデザイン(陸と海の比率3:7も入れている)を丸くしています。 に“は”の伝統は生きています。
 これは授業になりますね。マル八広報課に確認しています。
 でも、半分当たっているのだから「111111」切符をお送りいたします。
 15年ほど前、「記号の謎解き」の授業を作ったとき、直接、広報課に訊きました。
 うれしそうに答えてくれましたよ。

マル八のUR Aを掲載しておきます。
 現在のロゴを見る事が出来ます。
<http://www.maruha.co.jp/>

-
3. 「甘やかし論」 これでおしまい
 - いろいろな意見が出てきましたが、そろそろ次の話題に移りましょう。当事者のSさん、それと昨日到着した投稿で終了させていただきます。ご了承ください。
 - (1)「甘やかし論」への感想
 - 以下、転載。
 - こんにちは。以前、ジャパフレネを見学させていただ

いた者です。その節は、お世話になり、どうもありがとうございました。

さて、標記に関連して思い出したことがありましたので、門外漢ですし、この話題はもうおしまいかもしれませんが、思わずお伝えしてみたくなりました。

映画監督の山田洋次氏に、映画「学校」1作目の構想期間中にお話を伺えたときのことで、山田氏は、正確な言葉はもう忘れてしまいましたが、こんな主旨のことをおっしゃいました。

「例えば（『男はつらいよ』の）寅のような子が、教室からはみだしていたとする。悪いことをしていたら叱らなければならない。でも、口で叱ってはいても目では笑って存在を認める。（昔の学校には当たり前にあった）そうした受容のまなざしが、『学校』には必要である」今の社会やオトナに、「受容」の余裕がなくなっている、と言外におっしゃった、と感じました。そして、教育の場というのは、何かの能力を身につけることももちろん大事ですが、それ以前に子ども一人ひとりの存在を否定しない場であることに、重要な意義があるんだ、とも。

そんなお話を思い出しながら、「フリースクールが甘やかしたなんて、とんでもない...一人ひとりがそれぞれの生き方を模索し、確立するための場は、自由な場で、何通りでもあっていいはず...」と思いました。「学歴社会だから、それに合わせて厳しく教育する」のではなく、一人ひとりの子どもが、どんな社会であれ自分らしく自分の人生を送れるよう支援していくのが、教育の役割ではないでしょうか？ 見学させていただいたときの印象からも、フリースクールは画一的な狭い価値観に合わせきれなかった子どもを「受容」し、支援していく場ではないか、と私は考えています。

教育関係者ではないのですが、今の学校制度に歯がゆさを感じていますので、つい。

ジャパンフレネの今後のご発展に、期待しております。

（東京 Tさん）

-----以上、転載終了。

“受容”そして“自立”...、重要課題ですね。

(2) 甘やかしの件

-----以下、転載。

こんばんは、木幡さん。

ちょっと考えがまとまったので、私なりに書いてみます。

私は9月に講師の職を失ってから、遠くの知人を訪ねたり、前々から興味があったオープンハウスやフリースクールを訪ねてみたり、イベントの手伝いをしたり、久しく会ってなかった友人に連絡を取ったり、美術館や映画館へ足を運んだり、ふらりふらりとして見えるだろう過ごし方をしています。

いろいろな人に会って自分について先のことについて、悩んでいる自分を見せたとき、たくさんの方が「それでいいじゃない。悩めばいいんだよ」と言ってくれました。その人たちもみんな、とおった道だったからでしょうか。やさしい。ありがたい。うれしい。

だけどやっぱり苦しさは消えないです。

いちばん自分を認められないでいるのが、私自身だからです。ひとつで自分で自分に肯定感をもてないと、とてつらくて苦しいですね。

そして、自分をなんの点においてもプラス評価してあげ

られない状態だと、どうしても、次へ進んでいけない。

「苦しんだ時に、ひとは本当に成長する」という言葉があるけど、ここでいう苦しみとは、自分を肯定するための苦しみをいうのだと私は思います。

そして少しずつでも自分を知って、どこかでプラスに評価できるようになっていく変化の過程は、きっと喜びを伴うものだと思うのです。

苦しみを経て辿り着くこの喜びこそが、人の育ちの原点ではないでしょうか。

私は自分で自分に肯定感を抱けるようになりたいです。自分のことを「ここはいい」と評価できるようになりたい。

ただその評価は、社会との関係の中で自分自身が生み出すものであって、他者によってつくり出し、下されるものではないと考えます。

そしてまた、どんな評価に至るにせよ、至らぬにせよ、大切なのはその到達点・結果ではなく、そこへの過程だと思うのです。

私がSさんの文章をよんで「つらい」感じを受けたのは、Sさんが他者に外側から「弱いもの」とレッテルを貼っていると感じたためであり、そのレッテルを、Sさんによってもたらされた偽物の評価だと感じたからです。そしてなによりも、そのような世界観からつくり出されるものは、決して「教育」ではないと思うからです。

今の教育の現場には、他者が下す評価が子どもたちを苦しめ、本当の自分と出会うことを奪ってしまっている現実があります。

自分自身にとっても、考え続けていきたい課題です。

（富山 Mさん）

-----以上、転載終了。

「弱者」とは誰か...、確か小浜逸郎さんの著作にありました。おすすめ本です。

(3) 「甘やかし論」について

-----以下、転載。

なんか盛り上がってますねえ。ぼくは「性善説と性悪説のたたかいか？」と思って読んでます。

でも、彼はいわば「敵陣」で戦う形になってしまうので、論理以外で決着がつきそうなのが心配といえば心配です。（「こんなにやいやい言われて、やってられるか!!」または「はいはい、解った解った」とならないかやっぱり、お互い納得できるのがいいもの。

でも、刺激になりますね。

あと、フレネって「もらい物だけでやってみよう!!」という方針みたいですね。じゃあわざわざ電気ポット「買う」のはやめようかな。なんか「余ってる」ものにして。

では、またたのしみにメールを待ってます。 健作

-----以上、転載終了。

そう言わず、よろしくお願いします!

では最後に、当事者Sさん。

(4) ご安心ください

-----以下、転載。

S ことろんどべるです。

「甘やかす」についていろいろ考えてくれてありがとうございます。

「甘やかす」の定義が曖昧だったため、あまり建設的な議論にはならなかったのは残念です。

私は教育する方の立場ではなく、自身「不登校」で学歴社会からドロップアウトした者ですから、「人間は常に

戦わなくてはならない」と教育現場で「厳しく」キュウキュウ生徒をいじめていることはけっしてありませんので、そういう心配からメールを書かれた方は、ご安心下さい。

精神病院に入院したり、通院を続けていたりする事情もあって(自分ではそれなりに働けると思っているのですが)、正直に経歴を話すと、たいがい面接で就職は(アルバイトも)駄目になります。

ちょっと微妙な立場にいる私も含めて、学校に適應できない子どもや障害者など社会的に弱い立場の者でも、「生きていくこと」は経済的に豊かな日本では簡単なことです。でも「誇りを持って生きていくこと」は難しいです。

私は人間の本质は「戦うこと」だとおもっているので、与えられたエサには満足できません。

自力で戦って、勝ち取ったものでしか満足できません。満腹のブタより、腹をすかしたソクラテスの方に私は惹かれます。

そういうスタンスで私はつっぱっています。

いや、ブタもソクラテスも同じだ。

いや、エサがたくさんもらえるなら、私はブタの方がいい、という方は、私の意見は無視して下さい。

ブタにだって生きる権利は当然あると思います。

「戦場で消耗し疲弊した兵隊の補給基地」、フリースクールとはそんな所とっていいのでしょうか。

私はできれば「軍事教練所」であって欲しいな、とか思いました。

それでは。

ご縁があったら、またよろしくお願いします。

-----以上、転載終了。

「- 依存や支配から受容と独立と相互性へ - 」と、いつもメールのタイトルに書いてくる投稿者がいます。このセンスをぼくはかかってます。ここからしか「誇り」は生まれないように思います。その獲得の方法、ベ-

スになる思想が吟味されなければと感じました。

DFは平日刊、次回は11月22日です。

有楽町スバル座の映画鑑賞券を2名様ペアにプレゼントいたします(期限11月中)。メールでお申し込みください。発送をもって、当選にかえさせていただきます。
=====

===== デイリー・フレネ =====
----- VOL.0049 ----- 1999/11/22

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. ジャパンフレネ、海外に紹介される!
2. カレー1杯、ラーメン2杯...東大学食完全制覇!
3. ジャパンフレネあれこれ

=====

1963(昭和38)年11月22日

アメリカ大統領ジョン・F・ケネディがグラスで暗殺さる

1. ジャパンフレネ、海外に紹介される!

“PACIFIC friend A WINDOW ON JAPAN 1999年12月号”(総理府発行 政府広報誌)にジャパンフレネが紹介されました。この雑誌は日本の現在を伝えるものとして、世界各国に配布されています。

特集記事“Today's Children”の一つとして

“A Place for Children”として2ページにわたり(カラーグラビア3枚付き)紹介されています。

掲載記事(英文)のコピーをご希望の方は、住所・氏名・TELを明記の上、メールにてご連絡ください。お送りいたします。

2. カレー1杯、ラーメン2杯...東大学食完全制覇!

11月19日金曜日午前11時15分、天気晴朗なれど風すずし...。いざ、東大に出陣!われら、東京六大学食探検隊総勢8名!

まずは地下鉄で一つ手前の駅、御茶ノ水で降りてお散歩しながら東大へ行くのだ。電車の中、東大に関連させてか漱石の“我輩は猫である”を読むようすけ(小6)。かたや対抗して“コミック ポンポン”を読むけん(中1)。

順天堂を越し「野々村 誠の実家、ここだよ。」といわれても、おじさんはよくわかりません。

「Fおねいちゃんのお母さんの実家もこの近くのはず。」

「そうだよ。寄ってみる?お母さんも働いてるよ。」

本郷の昔懐かしい商店街に昔からある由緒正しい文房具屋さん。

「お母さんですかあ、可愛い方ですね!」

中学生のおねいちゃんがそう言うか?(爆笑)

東大(本郷)には久しぶりに来た。安田講堂の地下にある学食がきれいになったのには、驚いた。上智に比べて安い!しかし、その味はどうか?

「うまい...、しかし早稲田のほうがいい。早稲田・東大・上智の順かな...」

「上智は量が少ない上にシダックスの経営だけあって、いかにもって感じ。」

「早稲田は学食がとてもきれい。」

「東大はとても静か」

「そう、雰囲気は一番いい。味はまあまあかな。大人の味。」

そんなわけでぼくはまず、カレーライスを1杯とラーメン1杯。「うまい!」そこで再び、ラーメンを1杯。「

えーっ!大丈夫!」うーっ...、食いすぎたあ...

しかし、そこいらのラーメン屋よりハルかにうまいっす。

麺、細めシコシコ。メンマ、甘くなく、ほどよし。チャーシュー、やや固し。スープ、東京風さっぱり。

総合得点70点。

三四郎池・赤門経由で菊坂へ...。宮沢賢治の下宿していた家、樋口一葉の家などをみて帰ってきました。

2度と行けないかもしれない東大で、記念写真も撮ったもんね!

3. ジャパンフレネあれこれ

若菜(わかな)が“ばかな”に変身!

ビートマニア禁止条例発令?

外出して帰ってきたら、ゲーム機の前がにぎやかだ。

“ビートマニア”という人気ソフトにみんな夢中。

しかし、「JFでは「午前中はゲームをやらない。」というみんなで作った“掟”がある。

「午前中はゲームはやらないって決めたんじゃないの。もう、

お終いにしなさい。誰が始めたの?」「若菜さん」

はあ?だめじゃないかあ、スタッフが掟を破っては。

みんなで決めたのに。

「若菜は“ばかな”だな。」

「ごめんなさい。今日だけは、その言葉、許します。」

子ども達に「ばかな、ばかな」と呼ばれていた1日でした。

掟は守ろうぜ!

誰が部長だ？
 J F に人気カードゲーム “マジックザギャザリング” 部が出来た。部員は 3 人（木幡・よう・けん）。
 「これから入部したいやつは、準会員。しばらく練習してから、会員。」 「だーれも入らないようーだ！」
 さて、誰が部長だ？ 「実力順じゃないの。ようすけが部長でおれが副部長。木幡さんは部員。」
 まあ、しょうがないか...。
 さて、ここで副部長と部員の対戦。なななーんと大番狂わせ！
 部員・木幡の勝利！
 「やったあ！おれ、副部長ね！ばんざーい！」
 「木幡さん、大人げないですよ。もう、子どもなんだから...」
 部長にたしなめられました。
 「おーい、君は今日から部員だよ。ふふふふふ。」
 「部員と呼ばないでよ。」
 「じゃあ、なんて呼ぶの？」
 「元副部長と呼んでくれ」
 ちょうどお時間もよろしいようで...。
 (しかし、明日はわが身か...、木幡の一日天下。)

==== デイリー・フレネ =====
 ----- VOL.0050 ----- 1999/11/24

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////
 1. 工藤さんと飲んで
 2. お料理あれこれ
 3. お便りコーナー

1944 (S19) のこの日、B29 が東京を初めて空襲。
 1. 工藤さんと飲んで...
 “国語ができる子どもを育てる” の著者・工藤順一さんにお会いし、痛飲してきました。
 感想文を書かせる以前に事実を的確に記述する力、そのために “こぼちゃん作文” が有効なんですね。それに引き続きマンガ “ロダンのこころ” (8こまマンガ) の読み、そして “子どものための哲学対話” 永井均 (講談社) この本の挿し絵を描いているのが “ロダンのこころ” の作者に進んでいきます。
 挿し絵を見て文章を書き、引き続き文章を読む...、こうやるとものすごく読めるそうです。ジャパンフレネの中・高生にもやってみるつもりです。
 話題になったのは “授業の強度”。
 伝えるに値しない “技” や “知識”、考えるに値しない “文章” や “思想” ...、それらを垂れ流的に授業化していても意味がない。 “授業の強度” が問われるのは、まさにこの 1 点です。
 飲むほどに酔うほどに...、話しが広がり...、ううむ...。
 結局、最後は酔っ払うんだなあ。
 2. お料理あれこれ
 「みんなで 1 品持ちようろう！」 ということで、お料理を持ってきたのは 3 人。
 ようすけ...、なあーんと手作りロールパン！
 そして、ちかちゃんは “卵焼き” ...なんだけど...、
 「食べない方がいいよ！」 と他の子どもたち。

「ものすごくしょっぱいの。」
 「わかった、わかったよう。木幡さん、食べないで。ほんとまずいの。」
 たまご大好き人間のぼく (プラハのホテルの朝食でゆで卵を 5 個食べて、驚かれた。まあ、驚くか...)、一つ御相伴。
 「むうう...、味が無い...。」
 もう一つ食べると 「しょっぱーい！」 なるほど、場所によって味が違う。
 「卵焼き、失敗する人もめっずらしいんじゃないの？」
 あれこれ言われてました。
 そしてボランティアのイケメン木村は 「いかを使ってみました。」 はーん？ いか？
 「いかのトマト煮込みです。」 見栄えが悪い...、
 「だまされたと思って食べてくださいよ。」
 ううむ、イタリアンかフレンチか知らないが、いかはやっぱり “しょうがと大根” さ！
 そして、今、スタッフ・若菜は “りんごのカップケーキ” を作っています。
 いろいろいただきました！ありがとうございます。
 りんご、クリスマス用リース・電球...。もらい物大歓迎です！これからも、よろしく願いいたします。

3. お便りコーナー
 障害を持った子どもの問題の最初の投稿者、NAI さんからの報告です。

----- 以下、転載。
 木幡さんのおかげで、いろいろな人たちの声を聞いたこと、とてもうれしかったです。みなさんが同じように考え込みながら、時には立ち止まりながら進むべき道を探っているという感じですね。
 不登校の彼女ですが、肢体不自由児のための養護学校へ転校することを決めたそうです。彼女に会ったという人から聞いたので、まだ直接会って話をしていないのですが...。
 その養護学校は私たちの住んでいる県の西のはじっこにあります。私たちは東部に住んでいますから、車で 2 時間半くらいかかってしまいますので、当然寄宿生活を送ることになります。
 せめて、もっとあちらこちらに肢体不自由児を受け入れる学校があれば、こんな不自由な生活をしなくてすむのに、と思います。
 どなたかのメールにあった、不登校の 6 年生さんはどうなさったんでしょうね。
 心の傷が早く癒えることを祈るばかりです。
 話の結末をご報告したくて。
 いろいろありがとうございました。

==== デイリー・フレネ =====
 ----- VOL.0051 ----- 1999/11/25

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////
 1. カメラマン・ワイダ氏の “お面写真” 授業
 2. 一所懸命は泣ける... マラソン考
 3. 本日のおすすめ...、3 本！

1970 年 (S45) のこの日、作家・三島由紀夫が仲間と市谷自衛隊に乱入、クーデター蜂起を訴えるも失敗、割腹自殺、45 歳。

1. カメラマン・ワイダ氏の“お面写真”授業

モデルになるのは辛いけど 仕方がないんだ君のため...、うーん、モデルは本当につらいですよ。

というわけで、今日は“お面写真”の他人バージョン。一人がモデルになりクロッキー。その中から自分の好きなクロッキーを選び、ポーズを取り3ショット。作者と共に1ショット。

まずはくじ引きでモデルを選定(順番で全員がモデルになる)。「やった！1ばーん！」若菜、のぶちゃんが今日のモデルだ。

「木幡さん、なあにそれー！可愛そうだよー！」

「うっせー、特徴をつかんでればいいんだ。」

10分描いて3分休み。さらに5分。

「動くなよー！」「さっきとポーズが違うよ。」

モデルは大変です。

そして、好きな写真を選んでポーズ！これがまた、本格的な機材を使ってるんだよね。ピンと合わせや照明の調整に結構時間がかかる。ポラロイドで感じをつかんだりもする。

「おっ！のぶちゃん、ジャニーズ系！」「かっこいい！」

「半けつだらしな系がかっこいいっての、初めてわかったよ。」

わいわい騒いで楽しいひととき。

しかし、この授業、やはりプロでなければ出来ないよ。臨場感が出てこない、プロじゃなきゃ。

スナップ写真じゃだめだよ。

来週の水曜日も“お面写真”の授業を行います。

“お面写真”の授業レシビはデイリーフレネのバックナンバー47号に掲載されています。

2. 一所懸命は泣ける... マラソン考

21日(日)、“教師のための授業づくり”セミナーの終了後、市谷まで“東京国際女子マラソン”を見に行った。お目当ては、13年前からの大ファン「鈴木博美」。彼女が市立船橋高校にいたときからの筋金入りのファン。ところが博美が来ない！山口...ロバ...エゴロウ...、独特の強い腕振りやと鈴木博美がやって来る。

「がんばれー！」息遣いが近づき、あっという間に遠ざかる。一所懸命っていい。走っている姿が美しい。泣けちゃう...。そういえば、ぼくも高校生時代、1度だけ校内マラソン大会でフルマラソンを走った事がある。

今考えると、とても不思議だ。なんたって、ほとんど全員が参加したってのがすごい。思い出してみると、握り飯をしょっただけ、水もお金も持たず走ったんだよねえ...。今の高校生では無理だろうな。かつては学校に力があつたから「かつたるい。」なんてこと、思うこともなかった。一所懸命「力(りき)いれる。」って感覚も忘れられてしまった。

かつて勤務していたJ学園では学年240名中80名が就学旅行不参加だった。この感覚って「マラソンなんか、かつたるい。」という感覚に共通しているところがある。みんなそれぞれ、自分のしたい事だけしかしなくなつてから、ずいぶん久しい。

小さなスペースの中、互いの関係の中でのコミュニケート、そして学びの自己契約、そこから始まる“一所懸命”の道...。そう、“一生懸命”ではなく、“一所懸命”！

3. 本日のおすすめ

まずは本を2冊！2冊ともちょっと高いが...、ぼくはこの2冊を購入し、今月の書籍代が10万円を突破...

当然、叱られました...

「LIVING ON EARTH 地球生活記」

小松義雄(福音館)5250円

“世界ぐるりと家めぐり”とあるように世界各地の家の写真集。単に外観だけでなく、そこに住んでいる人々・文化の息遣いも感じることができる。登場する人々の表情がまたいい。昔、“家”の授業でベッドインのテントを作ったことがある。この本も授業になりますね。

「知の歴史 - ビジュアル版哲学入門 - 」

ブライアン・マギー(BL出版)5040円

ソクラテスの時代から現代までの哲学の流れを物語的に説明。図版が美しい。食事の後などでゆったり読むことをお勧めします。

「数学と遊ぼう かたちと数のワンダーランド

」国立科学博物館で来年1月16日まで開催

。おもしろ道具、おもしろ実験の数々。

入場料 大人420円 子ども・学生70円

=====

===== デイリー・フレネ =====
 ----- VOL.0052 ----- 1999/11/26

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. JFの高校生パワー、小中生を圧倒！(付録 許さん！)
- 2. 本日のおすすめ
- 3. 算数・数学のお便りとお答え

=====

- 1. JFの高校生パワー、小中生を圧倒！

珍しく朝早くから高校生が4人集まった。久しぶりにやってきた小学生のKちゃんも、静かになるほどの学習モード。もっともにぎやかな中1のけん、小6のようすけもひそひそ声でマジックザギャザリングをやっている。

のぶちゃん、国語(こぼちゃん作文)。

しゅう、熟語調べ。

ようこ、数1...etc。

自分の計画でそれぞれの学習。その静寂を破るものはいない。昨日の“お面写真”とはうってかわつての机の上でのお勉強モード...

こんなこともたまにいいかあ...

おれは許さん！

東京国際女子マラソンに応援に行つてた時もらった朝日新聞の旗。記念にとつて置いたのに“大日本帝国”なんて書いたやつは誰だ！ゆるさん！

マジックザギャザリングで負けた時の罰ゲーム、銀玉鉄砲で撃たれる...。負けたくせに言い逃れをするやつは誰だ！許さん！

- 2. 本日のおすすめ

グローバル エデュ ネット

下記のサイトで総合的学習の時間などの教育情報が得られます。

<http://www.alc.co.jp/edunet/index.html>

「本」講談社広報誌12月号

伊藤順一さん(「国語ができる子どもを育てる」著者)の文章“国語ができる”ということ”が3ページにわたり掲載されています。御希望の方にはコピーをお送りいたします。

3. 算数・数学のお便りとお答え

ぼくがよくお邪魔する沖縄・鳩間島のビデオを送ってくれたOさんからのお便りです。

----- 以下、転載。

この間、福音館から出ている「はてなしの世界」買いました。(木幡注 森毅さんといっしょに作った絵本。挿絵はタイガー立石さんです)

僕は、昔から思っていたのですが、わり算では、 $10 \div 3 = 3.3333\dots$ と割り切れないのに現実の世界では、たとえば10センチのパンは、3つに割り切

れるわり算という算数の世界は割り切れないのに、現実の世界では割り切れる、この違いにとっても割り切れない！思いがあります。

この本を読んでそんなことを思い出しました。高校の頃、化学のテストがありました。そのとき化学式を解く問題が出て、化学式のテストというのは、

確かわり算が出ると思うのですが、そのテストは確か全然出来なかった記憶があります。

僕の隣に座っていた友達が、僕の化学式だけをカンニングして

いい点数をとったのに僕は、式はあっているのだけど答えが全

部間違っていてその友達に、頭おかしいじゃない？と言われた

ことがあります。

わり算というものがよく理解できないのです。やはりそんなかわったところがあるからなのでしょうが、僕は

一時期高校にいかなかったり、卒業しても学校にも行かず、就職

もしないで、たまにアルバイトをしてふらふらしていました。僕は、展覧会とかよく行くのですが、タイガー立石さんの展覧会

行って来ました。

おもしろいですね。車の中の風景が富士山になってしまったりし

て…。視点が、原初的というか子どものめというか…。

これから寒くなると思いますのでお体に気をつけて…。ではまた。

----- 以上、転載終了。

ありがとうございました。

> この間、福音館から出ている「はてなしの世界」買いました。

どうもありがとうございます。

忘れたところに、印税となってやってきます(笑)。

> 僕は、昔から思っていたのですが、

> わり算では、 $10 \div 3 = 3.3333\dots$ と割り切れないのに

> 現実の世界では、たとえば10センチのパンは、3つに割り切

> れるわり算という算数の世界は割り切れないのに、現実の

> 世界では割り切れる、この違いにとっても割り切れない！

これは十進数とn進数の違いなんですね。分母3なら3進数、

分母7なら7進数です。

$1 \div 7 = 1 / 7 = 0.142857$ の循環小数になります。

$6 \div 7 = 6 / 7 = 0.857142$ の循環小数になります。

$1 \div 7 + 1 \div 6 = 1 / 7 + 6 / 7 = 1$

しかし $0.142857 + 0.857142 = 0.9\dots$ の循環小数になります。

$1 = 0.9\dots?$

国立科学博物館で“数学と遊ぼう かたちと数のワンダーランド”

というイベントをやっています。おすすめです。

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0053 ----- 1999/11/29

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. フリースクールで“麻雀”をしてはいけない訳
2. 学食探検隊の“法政”評価?????
3. “なつかしモード”のお便りです

=====

今日はこんな日

1980(S55)、二浪の予備校生[20歳]が金属バットで両親[46歳]を殴り殺す(川崎市高津区)

1. フリースクールで“麻雀”をしてはいけない訳

「木幡さーん、これなんだと思う？」

小六のようすけが何やら四角い包みを差し出す。

「ううん、わかんないなあ？ じゃあ、クイズにしてよ。

ぼくが質問をするから、それに“イエス、ノー”で答えてね。」「いいよ！」

包みを振ってみるとがたがた音がする。

「食べ物ですか？」「いいえ」

「木で出来ていますか？」「一部はそうです。」

「ゲームですか？」「はい！」

ここで、木幡はわかりましたね。

「それは麻雀の牌でしょう！」「ぴんぼーん！」

なーるほど…、そういえば昨日、「マージャンのルールを知りたい」なんて言ってるのがいた。ようすけ、いいやつだから、さっそく、牌を家から持ってきたというわけだ。

「でも、ここでは出来ないよ。」「どうして？」

ここからが難問だ。かつて勤務していた学校でも同じような事が、何度もあった。質問にも答えるのが馬鹿馬鹿しいので、

牌を数個いただいておじゃん。

麻雀を雀荘以外でやってはいけない訳…、特に学校でやってはいけない訳…、

(1)音がうるさい(楽器やラジカセも同様)。

(2)だいたい学生の麻雀はへたくそで、半チャン1回1時間かかる。当然、休み時間にゲームは終了しない。

「わかった？」「うん」

「特別に1年1回ぐらいやってもいい日を考える？」「うん！」

そういうことです…。

2. 学食探検隊の“法政”評価?????

行って来ました、法政に…。さて、その評価は？

はっきり言って…、法政大学出身の方には申し訳ないが…、論外という判定が出ました。

先週、東大でカレー1杯、ラーメン2杯を食した木幡…、

ラーメン1杯でギブアップ。しかも汁を残してしまいました。ラーメンにはチャーシューも入っていません。スープは下が濃く、上は薄い。要するにかき混ぜていないんですね。

カレー担当のけん、「量が少ないなあ。ラーメン、食べようかなあ。」「やめたら...、このスープ飲んで決めなよ。」彼、スープだけ飲んで(残った麺も食べて)「やっぱり、いいやあ。」
 総勢8名の評価は...「2度と来ない！」
 その中で、ただ一つの救い...、味噌汁担当が「ここでは、味噌汁の単品ないんですか?」の質問に、学食のおばちゃん「ぼく?

味噌汁のみたいの?持ってきてあげるよ。」
 うーん、これだね!
 結論!おばちゃん、やさしけれど...やっぱりまずし...。
 しかも、自転車でいった木幡...、パンク!
 嗚呼、無情!

3. “なつかしモード”のお便りです
 かつて“ひと”という雑誌があった(今もあるが...)。ぼくも編集委員をやったり、“若者ひと塾”(若者ですぞ!)を組織したり...、戦後民間教育運動の“線香花火の残り火的輝き”だったのかもしれない。
 そんな時代についてのお便りです。

-----以下、転載。

「12年前の箱根」
 初めてメールします。
 私、その昔(1987年の夏)、箱根の「ひと塾」で木幡さんの講座を受けました。
 1本でもニンジン、戦時中の新聞広告とか、河童が覗いたヨーロッパとか...いまだに鮮明に記憶しています。
 私、教師になりたてのころでした。
 木幡さんのほかに、無着成恭さん・松本キミ子さん・森毅さん・広瀬隆さん・鳥山敏子さんなど、今思えば(当時でも)すごい講師陣でした。
 あの「ひと塾」でずいぶんいろいろな影響を受けました。しかし、あのころが「ひと塾」の最後の輝きだったのかなあ...とも思います。
 私も『国語ができる子どもを育てる』読みました。
 が、その話はまたの機会に。

では。 (奈良・Tさん)
 -----以上、転載終了。

12年前を単なる思い出にしないためにも、新たな教育運動を模索しています。いっしょにやりましょう! 続いて今の子どもと昔の子どもについての感想です。

-----以下、転載。

「自分のしたいことだけしか、しなくなって久しいとのコメントを読んで...。」

関係ないじゃんという言葉、少なくとも私が学校に勤めていた頃には、聞かれなかった(30年程前です)。ぶつぶつ言いながらも言うことで、他との関係を作り上げるエネルギー(?)が、子供たちにあったということでしょうか。

1歳2ヶ月になる孫の成長を見ていると、母親をはじめとする大人や同年代の子供たちや同居の猫などの付きあいがどんどん広がって、そしてそれがとても楽しそう、これが人間の当たり前姿なんだろうなあと感じています。

丸谷オーの思考のレッスン
 楽しく読みました。

(いわきゆき さん)
 -----以上、転載終了。

いやはや、文京区の“お受験殺人”といい...、いったいどうなっているんでしょうか?
 あの母親も高度経済成長時代に子ども時代を過ごしたはずです。
 このへんの児童・生徒の変遷について、先に紹介した「こども観の戦後史」野本三吉(現代書館)と「学校はなぜ壊れたか」諏訪哲二(ちくま新書)を比較、あるいは並列させて読むと結構面白いです。

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0054 ----- 1999/11/30

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. 学習会後も大盛況! S藤さんは“つくく”?
- 2. ジャパンフレネあれこれ...
- 3. “コボちゃん作文”研究会、発足!
 「木幡 工藤」往復書簡

=====

今日はこんな日
 1977(S52)年、米軍立川基地が32年ぶりに日本に全面返還
 1. 学習会後も大盛況! S藤さんは“つくく”...?

学校と学校以外の学びの場をどう結んでいくか...、ジャパンフレネでは毎月学習会を行っている。

その方向性について資料があります。必要な方は御請求ください。お送りいたします。
 今回は17名の参加。授業レシピの検討を行った。
 湘南・森井さん「音楽との対話による朗読」、湘南・小倉さん「気分はスビルバーグ(正比例の授業)」、木幡「コボちゃん作文」、若菜「デザイン」、明治大・齋藤さん「ワークショップ(ロイヤルナショナルシアターの手法)」
 コボ作とワークショップがめちゃ受け!

授業レシピとは何か...、今回のレシピの現物など御希望の方は御連絡ください。お送りいたします。
 そして、このあとは恒例の飲み会だ。いくら飲み食いしても、けてして3000円にならないという店「一の倉」。

さて、その後の2次会は...
 以下、スタッフ・松岡に聞いた話...
 「若菜、あの後どうしたの?」「シダックス」
 「は?カラオケ?」

M大・S藤氏他5名、シダックスの入り口でまず身分証明書提示。「なんで俺が出すのー!」
 「まあ、いいからいいから、助教授!」
 スタッフ・松岡「もう、私負けちゃったあ!S藤さん、ノリノリなの。次回、リベンジ!“モーニング娘。”の“ラブマシーン”とか“シャ乱Q”の“いいわけ”とか腰を振りながら歌ってるの。」
 「シャ乱Qって、あの“つくく”?“モーニング娘。ってなあに?」

それを聞いていた小6のようちゃん、
 「えっ!木幡さん、“モーニング娘。”知らないんですかあ?」
 「なんだよ!じゃあ、“津軽海峡冬景色”知ってる?」
 「知ってますよ。」「...」

よし、今回は木幡もカラオケ、そしてS藤氏にチャレンジ!
 「“フランダースの犬”を歌ってやる!」(爆笑)
 次回の学習会は、合宿。身体を解きほぐし他者との関係性を作る“ワークショップ”を中心に授業レシピの検討を行

います。

もちろん、大演芸大会も！皆さんもいかがですか？

2. ジャパンフレネあれこれ

「1 分間の読書」

「この本、なんですかあ？」コボちゃん作文5 本を終了した t i k a ちゃんが手に取ったのは... “ソフィーの世界”。“まだ無理なんじゃない？”「いいからいいから。読んでみマース！」そして1 分後...、「...」。

“ソフィーの世界”は、そっと本棚に返されました。

あり、あり、ありがとう！

岐阜からまたまた本がやってきた！これで3 回目。

ありがとうございます！（調味料も！）

相模原からはクリスマスの電飾とどういいうわけか...ルーベ！

すべて新品、ありがとうございます！

川崎からは鍋や食器、ありがとうございます！

そしてたった今、横浜からシクラメン！ありがとうございます！

マジックザギャザリングをしませんか？

ただいま部員は3 名、準部員1 名です。

ジャパンフレネでマジックザギャザリングをいっしょにやりませんか？

遊びに来てください！

（元副部長・木幡に負けて部員に降格した“けんご”）

3. “コボちゃん作文”研究会、発足！

----- 「木幡 工藤」の往復書簡 -----

「国語ができる子どもを育てる」（講談社現代新書）の著者・工藤順一さんといろいろ話し合い、「コボちゃん作文」研究会を発足させることになりました。

具体的な活動は2 0 0 0 年1 月より開始いたしますが、その準備段階として1 2 月中に今後の相談を行うことになりました。

「コボちゃん作文」をベースに記述・要約力、コメント力、そして読解力などをどう養成していくか？

それら（母国語としての日本語）を自由自在に駆使する

「身体 = 主体」の形成も考えて行きたいと思えます。

第1 回「コボちゃん作文」研究会

日時：1 2 月2 3 日（木・祝）午後6 時～午後8 時

終了後、発足記念飲み会！

場所：新宿ジャパンフレネ

内容 「コボちゃん作文」の今後

参加費 1 0 0 0 円

「コボちゃん作文」をやってみたい方、さらに発展させたい方など、ぜひ、お集まりください。当日、木幡と工藤

藤

は確実に参加します。

詳細は、ジャパンフレネまで御連絡ください。

工藤さんと木幡のこの間のメールを転載いたします。

----- （工藤 木幡）以下、転載。

たいへんにおいしいお酒でした。あのぐらいがちょうどよいですね。

さて、山梨へのおさそい本当にありがとうございます。

でも、授業があり、今回は失礼いたします。

というか、こんど計画してコボちゃんだけの研究会を開きませんか。場所は私のところあるいはフレネでも結構です。文章の暗黙の約束事を白日にさらすこと、そして、それを生徒に教えていくことです。

いろんなことが分かりつつあります。一文の範囲を超えな

い学校文法を確実に超えていき、文章を書くのに役立つような実践です。

----- （木幡 工藤）以下、転載。

こんにちは！木幡です。

昨日の学習会で参加者1 7 名に“コボちゃん作文”をやってもらいました。大好評でした。

「要約力・コメント力」の養成、そして母国語としての日本語を自在に駆使していく主体の形成...

明大助教授の齋藤孝も大学で学生にやらせるとの事です。

“コボちゃん作文”研究会、年内に発足させたいですね。

いかがですか？

ただ、教員は成績をつけるのに忙しいという難点があります...

1 2 日（日）午後から夜、1 8 日（土）夜、1 9 日（日）夜、2 3 日（木・祝）全日、2 5 日（土）午後、以上が年内の週末で空いている時間帯です。

もし年内に発足させるなら、スケジュール調整をお願いいたします。

“コミュニティ”という不登校関係の雑誌に工藤さんの著書と“コボちゃん作文”を実践付きで紹介しました。

----- （工藤 木幡）

わかりました。あなたは本当に運動家ですね。

私はもたもたです。感謝いたします。

2 3 日の夜、六時ごろからが一番都合がよいです。

よろしく願いいたします。

コボちゃん作文にとどまらず、知恵と工夫にあふれる作文教育、そして読書のための教育の提案がたくさんでてくるような場にしたいですね。

場所は人数の関係もありますが、私のところではせまいことも考えられますね。

フレネの場でもかまいません。どうぞよろしく。

またメールします。とりあえず。

----- 以上、転載終了。

こんなわけで「コボちゃん作文」研究会が出来ました。これからがとても楽しみです。

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0055 ----- 1999/12/01

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 自治への道 ビートマニア論争

2. “アマリス” 重体！

3. クリスマスがやって来る - お便りです

=====

今日は何の日

映画の日、鉄の記念日、省エネ総点検の日

世界エイズデー

1. 自治への道 ビートマニア論争

毎週火曜日は“ザ・ミーティング”の日だ。

いろんな問題が出てくる。“掟 = l a w”を決めなければいけないこともある。

本日のメインテーマは、ゲームソフト“ビートマニア”の使用時間について...。J F では午前中はTVゲームは出来ない。うるさくて学習できないということで、午前中のゲームは、ミーティングの結果禁止になった。

そして、ここで出てきたのが“ピーマニ”だ。このソフト、音を消してもキーを激しくたたくので、うるさい。

そこで「時間を決めてやってくれー！」ということで...
 「えーっ！やだよ。」「勉強してない時だったら、いつでもいいんじゃないの。」「ゲームやる人の行き場がなくなっちゃうよ。」
 しかし、これに関しては、木幡、絶対妥協はいたしません！
 「そうはいつでもね、音が出るものって、他人の迷惑になるんだよ。午後からも授業があるよ。」
 「スケジュール表をきちんと出してもらって、授業の予定がないときはいいんじゃないの？」
 「そうだよ！授業がなけりゃいいじゃん。」
 「やめるとは言ってないんだよ。時間を決めてほしいんだよ。具体的に言うなら、12時から1時までの間にやってほしいの。」
 ゲームをやりたい子ども、それがいやな子ども、そしてぼく。かつて勤務していた学園でも、ぼくはラジカセ・ギターなど音が出るものに関してはHRで提案し、持ちこまないようにしていた。そうしなければ歯止めがなくなる事も事実だ。なんでもありではいけない、他者を想定していくパースペクティブが必要だ。
 「おれが演歌のCDをがんがんかけたらどうなる？音楽にも好き嫌いがあるだろう？授業がないときに麻雀やってもいいことにしたらどうなる？歯止めが利かなくなると、なんでもありになるよ。」
 そういうさんざんなことをめっちゃくちゃ経験してきたので、「音」に関しては妥協できない木幡です。
 この日の話はここでペンディング。さて、結果はどうなるか？

2. “アマリリス” 重体！

わーいわーいのぎゃーぎゃー！「もう、うるせえぞう！」男の子2人と女の子1人が悪ふざけ...、スペースの中を走りまわっている。
 そして...、「あっ！」「折れちゃった...。」
 いただきものの“アマリリス”、やっと花が咲きかけたというのに...、茎がぼっきり折れている。
 「おれ、ここにいたから関係ない。」
 「でも、三人でふざけていてぶつかったんでしょ？」
 「...」
 「どうする？」
 マジ って感じがありあり。
 「とりあえず、割り箸で添え木して紐で結んでおいてよ。」
 「はい...」
 何とかつかないだもの...、見るからに骨折重体だ。
 「なにがまずかったのかな？」
 「ふざけて花を折っちゃったこと...。」
 「うーん、それもそうだけど...アマリリスを送ってくれた人になって言うかってことだよな。」
 いろんなやさしさに囲まれ、彼らもぼくも生きている...。さて翌日、なんとか持ちこたえているアマリリス。
 「宅急便でーす！」
 やったー！なあんとは今度は“シクラメン”がやってきた！ありがとうございます！
 重体アマリリスと新生シクラメンのジャパンフレネです。

3. クリスマスがやって来る - お便りです

沼田・スペース“ゆう”の小野さんからです。
 - - - - - 以下、転載。
 こんにちは！

JFの活動、どんどん活気を帯びてきましたね。
 デイリー・フレネの中から木幡さんと子ども達の笑いがこぼれてくるようで私までその場に居る気分になっています。
 松ぼっくりは要りませんか？
 今度“ゆう”で子ども達と一緒にクリスマスツリーづくりをします。松ぼっくりにスプレーで緑や銀色に色づけしてビーズで飾りづけをして、土台をつけるとミニツリーになります。簡単な物ですが、結構かわいくて、気に入っています。小さな子でもできるし、なにより大人が夢中になってやっています。
 先日娘と一緒に松ぼっくり拾いをし、友達も集めてくれたのでいっぱいあります。
 よろしければ、送ります。
 リースの土台のあけびの蔓（散歩の途中で引っ張って採ってきた物）もあります。リースづくりをするのなら、こちらでも送ります。いかがでしょう
 クリスマスもうじきですね。
 大掃除もしなきゃなんだけど、澄み渡った青空を見るとつつい外へ駆け出したくなる今日この頃・・・
 ああ、今日も青空の誘惑が・・・
 - - - - - 以上、転載終了。
 楽しみです。JFでは着々とクリスマスの準備が出来つつあります。

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0056 ----- 1999/12/02

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 早くも“メリークリスマス！” エクアドルから
2. 白バックで輝く君 - “お面写真” 第2弾！
3. 本日のおすすめ

=====
 今日は何の日？

- 1944 (S19) 栄光の「14番」名投手・沢村栄治
 が台湾沖で戦死 28歳
1. 早くも“メリークリスマス！” - エクアドルから - ”

久々にエアメール...、誰かと思いきや... 5年前にお世話になったエクアドルのラファエロ・ティンティン・サンタマリア。
 3回目の南米旅行で通訳として一緒に旅した時には、彼はまだ高校生。家族と一緒に日本に滞在し(父の留学で2年)、その後エクアドルの首都・キトの日本人学校に通ったバイリンガル。
 彼の手紙を転載しよう。なんとって、日本語べらべら、漢字も書ける。そんじょそらの GANGUO 高校生には負けられないでしょう！
 - - - - - 以下、転載(原文のまま)。

木幡 寛 様

今日は、お元気ですか？
 御一緒に Otavallo や Banos を旅したのは、もう5年以上も前の事ですね。
 僕は、キトのカトリカ大学言語文学部に入学し、コミュニケーション兼文学を専攻しました。今は卒業論文に取り組んでいます。来年の4月には卒業する見込みです。
 もう5年ほど HCB の日本語部で働かせてもらっていますが、卒業した後は他の所で仕事をするか、または2001年の春に日本の大学院に行く事を希望しています。

未来の事はどうなるか分かりませんが、今はとりあえず卒業する事に専心しています。

エクアドルはと言うと、Vargus LlosaやGarquez Marquezなどの文豪に見られますように、マジックリアリズム的な行いや出来事が見られます。

エクアドルはハイパーインフレへの道をたどる中、ピチンチャとツングラウが噴火活動を続けています。

今年、エクアドルでは10以上の銀行が倒産し、国営に移りました。来週にはいくつかのストライキが全国を騒がせる事になりそうです。

やはり、どこかの経済ノーベル賞学者が言ったように、文化的地盤の腐敗した植民地思想が根強く残っている南米のような国々では、経済的發展を図るよりも、人間社會の發展が先なのではないでしょうか？

木幡先生はいかがお過ごしでしょうか？

御家族の皆さんによるしくと、お伝えください。

よいクリスマスと新年を！

-----以上、転載終了。

ラファちゃん、泣けたぜ...。日本に來いよ！

2. 白バックで輝く君 - “お面写真” 第2弾！

モデルをクロッキーする。モデルはクロッキーの中から自分の好きな作品を選び、それを手にして、写真を撮ってもらう。作者と一緒に写真も撮る。ポーズは自由に決めていい。

写真を撮る人は、やはりプロのカメラマンでなければいけない。写真の出来がまるで違う。そりゃそうだ。機材も違うし、腕も違う。写真のクッキリ度がすごい。

「なりたい自分を想定し、定点写真を撮ってもらう事で時系列的にその時々をの自己を発見できる。」

ぼくはこんなふうはこの授業を解釈している。

白バックの前に立ちその気にさせなきゃいい写真は撮れない。「いいねいいね、うん、そのポーズ。はい！」

子ども達もその気になって、とっても気持ちよさそうだ。

「一生のうちに自分が脚光を浴びることって、そんなにありませんよね。それだけでもいいんですよ。」とカメラマン・ワイド氏。

モデルになって、絵を描いてもらってとってもいい気分の1日でした。そういえば入会したてのAちゃん、初めて「木幡さん」って声をかけてくれたな。帰り際、いただきもののフルーツをみんなで分けた。

Aちゃん「どうもありがとうございました。」って、さわやかに帰っていった。これも“写真”効果かしら？

今日は、いい日だったなあ。

さて、来週はいよいよ自分の顔を描いて写真を撮ります。どんなのができるかな？

この夜、ワイド氏と飲みました。

ギャラは払えないので、飲ませておしまいということなんです。ごめんね、ワイドさん。

3. 本日のおすすめ

「芸道の教育」安部 崇慶

ナカニシヤ出版 2472円)

「芸のためなら女房も泣かす それがどうした 文句があるか」

“浪花恋時雨”ではないが、芸の道は厳しい。

まねる・盗む、教えない・徒弟制...、日本的土壤の中の伝統的な教育観...、捨てたもんじゃありません。

“型”を重視する武道の世界にも通じます。

無意識を教えること、つまり自在な身体を獲得するということ、これも教育の役割だと思いますが、いかがでしょうか？

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0057 ----- 1999/12/03

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 本日のお事件 - 仁義なき戦い三連発！

2. 賑わしい一日

3. 本日の疑問(プレゼントつき)

=====

1. 本日のお事件 - 仁義なき戦い三連発！

仁義なき戦い(1) - 木幡、ようすけにぼろ負け
「キャラメル、食べたいなあ。」

数学の教材として使うグリコキャラメルを見て、小6・ようすけがつぶやく。

「授業が終わったらね。」「今、食べたいなあ。帰りに買おう。」「じゃあ、マジックやる？俺を破ったらキャラメル進呈！」「ようし！」

ところがいつもはいろいろと教えてくれるのに、キャラメルがかかると全く容赦なし。木幡、マジックザギャザリングの死闘に敗北す...

一度も攻撃できずにボ・ロ・マ・ケ...。修行の道は厳しい。

仁義なき戦い(2) - 木幡、見学者に勝利！

さて、傷心の木幡...、回り将棋をやっていた連中を押しつけ、今度は見学者・高1K君と将棋。

「将棋強いの？」「強いですよ。小学生の時負けて悔しくて、勉強したから」とK君。

ところが指してみると、いきなりの角交換。

「やめてくれー！定石どおりにやってくれよ。」

ギャラリーもうるさい。「定石ってなあに？」

「どっちが優勢なの？」

熱闘15分、木幡勝利！そりゃそうだ、将棋ソフトを攻略し将棋連盟2段の免状。しかし、かなり嘘っぽい免状なんです。10万円払わなければ認定してくれないんですから...

えっ？っどうしたかって？払うわけありませんよね！

仁義なき戦い(3) - ついに“被排除者”が出た！

将棋で山崩しをやっている連中がうるさい。

「なんだよ！」「あやまれよ！」「そうだよ、ズルするのが悪いんだろ！」

勝ちたいがためにズルをやったが発覚...、誰もがズルしたというのに謝らないということらしい。

「謝れよ！ズルやんないって謝らなきゃ、もうゲームに参加させない！」「別にいい。いいよ、謝らないよう。」

ということで、ついに強行手段！

初の被排除者出現！勝負の世界はシビアなのだ。

[教訓] まずい時には、素直に謝ろう！

2. 賑わしい一日

山梨県から小学校教師の大倉さん(りんごとキューイフルーツを送ってくれた“いー”人です)、法政大学で教育原理を学ぶ学生さん3名、それに見学の高1・K君...と、

とってもにぎやかな1日でした。

学生さんは“コボちゃん作文”にチャレンジしてもらったり(書くのに以外と時間がかかっていました)、数学“等差数列”に参加してもらったり、子ども達と楽しくやって

いましたね。

大倉さんには作文の添削をお願いしたり、話し相手になってもらったり...。そして、K君とは将棋をやったり...。こんなふうにはJFにはいろんな人が見学、あるいは遊びに来ます。皆さんもお近くにおいでの際は、ぜひお立ち寄りください！大歓迎です！

3. 本日の疑問(プレゼントつき)

下記の問題に対しエレガントな解答をお寄せください。エレガントな解答と認められたときには、日テレプレミアアテレカ他の景品をお送りいたします。

「キリンは“キリンさん”、ぞうも“ぞうさん”。なのに、さるはどうして“おさるさん”なのでしょう？また、ねこは“ねこちゃん”なのにどうしていぬは“わんちゃん”なのでしょう？昔から不思議に思ってるんです。デイリーフレネ通信は平日刊です。次回は12月6日(月)の発行です。

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0058 ----- 1999/12/06

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. “さる”はどうして“おさるさん”？
- 2. 群馬の松ぼっくり
- 3. こはたまん2号！登場！

=====

今日はなんの日

1917(T6)ロシアの支配下からフィンランドが独立

1. “さる”はどうして“おさるさん”？

キリンは“キリンさん”、ぞうも“ぞうさん”。なのに、さるはどうして“おさるさん”なのでしょう？また、ねこは“ねこちゃん”なのにどうしていぬは“わんちゃん”なのでしょう？昔から不思議に思ってるんです。

DF57号に掲載したばくの疑問...、投稿が2本ありました。御紹介しましょう！

-----以下、転載。

「ああ！」

木幡さん

今日のデイリーフレネの「疑問」について！
 いえいえ、エレガントな答えが出たわけではないのです。
 ただ、私と同じ疑問を抱いている方がいた！
 という、喜びのあまりのメールなのです。
 私にとっても、長年の疑問でした。
 なぜ、犬はわんちゃんなのに、ネコはニャンちゃんと呼ばないの？
 なぜ、ネコはネコちゃんなのに、犬は犬ちゃんじゃないの？
 実を言えば、我が家では、名前の分からない犬(野良犬や、道ですれ違った犬など)のことを“犬ちゃん”と呼ぶ習慣(?)があります。だけど、どうやら世間では違うらしいと知ったのは、私が高校生くらいの頃。
 それでも、長年のクセは抜けず、いまだに私と妹は道端で犬と会うたびに「犬ちゃん、犬ちゃん！」と声をかけています。
 いやあ～、こんなこと、疑問に思う方がおかしいのかと思っていた。
 あとは、みなさんからエレガントな回答が寄せられるのを待つだけです。

ところで、他にもいくつかある、私の疑問。

- (1)「ぬれぎぬを着せる」の「ぬれぎぬ」って何？濡れた衣でいいの？どうして、無実の罪を着せる事が「ぬれぎぬを着せる」なの？
- (2)大きい会社を自宅搜索する時に、検察の人たちが列を成してその会社の建物の中へ入っていく映像をよく見ますがあの人たちは、あそこまで何でやってくるのでしょうか？大型バスに乗ってくるの？それとも、最寄りの駅から行進してくるの？
 もう解決済みだけど、昔、疑問だったこと
- (1)道端の街燈を点けたり消したりするのは誰？
- (2)「子持ち昆布」についてる卵って何の卵？昆布は卵で繁殖するのではないのに。
 長年生きてると、世界は???だらけなのです。
 そこがおもしろい。
 では、またメールします。
 (栃木・みかさん)

-----以上、転載終了。

JFの子ども達に聞いてみたら「言いやすいからじゃないの」と冷たい反応。暗に「馬鹿じゃーん」という気配を感じたぞう！
 少年よ！疑問を抱け！みんな悩んで、大きくなる。
 では、もう一つ。

-----以下、転載。

さて、標題号の解答(案)を思いつきましたので、ちょっとお送りしてみます。
 <他人行儀か、あだなで呼ぶ仲間>
 ・キリン・ゾウ...外国にお住まい
 ・サル...外国にもいるけど、日本にもお住まい
 おサルさんの方が(まれに都心に出てくるくらい)やや身近な存在なので、キリンさん・ゾウさんのようによそよそしく機械的に「さん」をつけるだけでなく「お」もつけて呼ばれる。
 もっと身近にいるネコやイヌは、「おサルさん」より親しいので、「さん」が「ちゃん」になる(「いぬさん」「ねこさん」とはあまり言わない)。
 なおかつ、家を自由に出入りしているネコに比べると、イヌはつながれて常にそばにいる率が高い。その分、よけい身近に感じられるから、正式名称の「イヌ」で呼んでいる場合ではなく、「わんちゃん」という「あだ名」がついた。
 キリン・ゾウ サル ネコ イヌ...
 ただの「さん」づけか、丁寧な「さん」づけか、あだ名で呼ぶかは、彼らと私たち日本人の距離感を表している
 ような気がして、おもしろく感じたのですが。
 以上ですが、こうして書いてみると、当たり前な答えになってしまってますね(苦笑)。
 でも、私なりに楽しませていただきました。
 次回以降のクイズも(もちろんデイリーフレネの内容も!)楽しみにしております。
 お忙しいところ、お邪魔いたしました。
 寒さゆえ、どうぞお風邪などお気をつけください。
 (東京・Tさん)

-----以上、転載終了。

「はいーはいーはいーはいーおさるさんだよ」
 こんな歌を思い出してしまいました。皆さんも、エレガントな考えをどんどん御投稿ください！

2. 群馬の松ぼっくり

「宅急便で - す！」見ると“なま物”と書かれている。
 「みんな！来てみてよ。なま物が届いたよ！」
 なんだなんだとばかり、子ども達がわらわらと集まる。
 開けて見ると...、「松ぼっくりだ！」「あれー！可愛いツリーも入ってる！」
 小さい松ぼっくりで作った可愛いクリスマスツリーも...。
 そして、お手紙...。

- - - - - 以下、転載。

ジャパンフレネのみなさん こんにちは！
 今日の沼田は 今にも 雪が降り出しそうな空です。
 谷川岳は雪。ソリを積んだ車とすれ違いました。
 そんな沼田の山からのおくりもの 一緒に楽しんでください。

小野 若子

- 追伸 - 木幡さんへ

飲み会の季節なので 肝臓をいたわる “ ” うっちゃん
 を同封します。

- - - - - 以上、転載終了。

箱の中にはその他にも群馬のつたで作ったリースやお饅頭も！それを見たボランティア・イケメンの木村君思わず、「わー！いい人だあ！」
 お饅頭もおいしかったなあ。味噌をつけて食べるというやつ。味噌が絶妙！

あったかいおくりもの、ありがとうございました！
 みんなでクリスマスのお飾りを作ります！

3. こはたまん2号！登場！

「こんにちはー！」JFのドアが開き、お客さん...。
 一人の男性。う？ここですかさず子ども達に問題！
 「この人はだれでしょう？」
 「えー、なあに？」「??????」
 中に入ってきた男性「はい、木幡の弟です！」
 「えーっ！うっそー！」「にてなあい！」
 本当の事です。昔、ぼくがやせてたころ勤務先に現れて
 「こはたまん2号だ！」と言われた事もあるんです。
 「昔は似てたの。」「似てないよ。髪が黒いもの。」(爆笑)
 ひょうきんな弟は「たった三つしか年は離れてないんだよ。」なんて言って、ウケている。
 ぼくは3人兄弟の長男(これも「うっそう！」といわれる)。
 この日来たのは、2番目の弟・徹君。
 「この人、トライアスロンとかやるんだよ。」
 「すっごーい！」「木幡さんとは、全然違いますね。」

ほっとけ！
 かつてアラビア語を学び、一部上場の会社に就職し、しばらくサウジアラビアに行っていた。中東情勢が悪くなりプロジェクトチームが解散になったら、あっさりやめちゃって公務員に転職。木幡家の人々は変わり身が早い？今は郵便局です。

そういうわけで年賀状を持ってきてくれました。
 はい、お騒がせしてすみません。
 =====

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0059 ----- 1999/12/07

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. サンタクローズがやってきた
- 2. 学生さんもやってきた
- 3. 栃木県からのお便りです

=====

今日はなんの日

1722 (享保7) 江戸幕府、小石川に養生所を設置[極貧の病院医療施設]

1. サンタクローズがやってきた

ジャパンフレネのドアのノブには、この季節にふさわしくプレゼント用の靴下がかかっている。そういや、小さい時にはプレゼントを心待ちにしていたなあ。

さて、月曜日の朝、早朝、出勤してきたばくノぶに目をやると...、どうやら何か入っている様子...。中を探ってみると...、次のようなお便り。

「先日は、本を貸していただきありがとうございました。お休みでしたので、後日改めて伺います。ロング集会に向けてキャラメルづくりをして、遅くなりました。手作りキャラメルを靴下の中に入れておきます。召し上がってください。」

そして、手作りキャラメル...。
 近くの小学校の先生に授業づくりの話をしたことがある。その先生たちだ。

うれしいなあ！あったかいなあ...。
 さっそく、JFの子ども達にプレゼントしました。
 この日、やってきていたのは7名...、しかし、キャラメルは6個(棒がついているのが3つ、特大キャラメルが3つ)。そこで教材用のグリコキャラメル1個にグリコのおまけをつけ、じゃんけんで好きなものを選びました。
 最後まで残ったのは、もちろんグリコ。
 こどもたちはやはり、あったかいプレゼントを選びました。ありがとうございます！

松ぼっくりが入っていたダンボールを処分しようと思って、クッション用の新聞紙を触るとずしりと重い。んん？と思い、丸めた新聞紙を開くとなあーと“柿”が出てきた。なんか、すっごーく得した気分。
 これが本当のおまけですね！

2. 学生さんもやってきた

JFにはいろんな人が遊びに、見学にとやって来る。先週の法政大学の学生さん3名に引き続き、本日は東京大学の学生さん(1年)がやってきた。子ども達と遊んだり、勉強したり...、こちらも助かりました。そんななかの一コマ...、高1のおねいちゃんと“等比数列”を学習していた時...。ドラえもん“パイプイン”を使って“2のn乗”を考えた。

ここで問題！「2の2乗は、4。2の1乗は、2。じゃあ、2の0乗は、いくつ？」中高生が「ゼロ」と答える中、東大のおねいさんは「1」。

「どうして？小学生にも分かるように答えてね。」
 「えーっ、マイナスとか使っちゃいけないんですか？」
 「小学生は、マイナスを教わらないからね。」
 うううう、おねいさんギブアップ。
 もう一人のおにいさんは、次のように説明してくれた。
 「どら焼きにパイプインをかけたら倍になるでしょう？
 2×2×2...って増えていくけど、2の0乗は、パイプインをかけてないとき、だから、どら焼きは1個。」
 「そうかー！」

おにいさんは鼻高々！
 法政、東大...、次は慶応あたりかしら...？

3. 栃木県からのお便りです

益子にお住まいの有生塾・谷田部さんからのお便りです。

地方では本も手に入りにくいようですね。
 早急に読みたいものがあれば、御連絡ください。購入して
 お送りいたします。
 また、大手書店のブックウェブを利用するのもいいと思いま
 す。
 ぼくは“紀ノ国屋”のウェブでよく注文します。
 会費1000円でいつでも本が送られてきます。
 一回に付き何冊でも480円です。
 クレジットカードが必要です。
 下記のサイトにアクセスしてみてください。
<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/>
 - - - - - 以下、転載。

木幡さん、はじめまして。私は栃木県で小さな塾を営ん
 でいる谷田部茂といひます。年齢は「東大入試が中止に
 なった翌年に大学受験」です。
 「デイリー・フレネ」を興味深く読んでいます。
 54号にあった「コボちゃん作文」研究会に関心があり
 ます。『国語ができる子供を育てる』が見つからず、「作
 文」の内容を良く理解できないのですが、何か面白そうだ
 、という印象を持ちました。
 都合がつけば23日に出席したいのですが、その前に概要
 をつかめる資料かHPのURLがありましたら、紹介して
 いただけたらと思います。

塾を始めて12年になりますが、ここにきて「大きな迷い」
 状態に陥っています。苦勞しなくても生徒が集まった数
 年前に少し気づいていた「限界」が、この1年で明確にな
 ってきています。
 もとより進学塾ではありませんから、学ぶ喜びを経験させ
 ようという視点で生徒に接してきました。しかし実際には
 、学校のテストや高校入試等の強制力に依存して生徒を集
 めていたのが現実です。
 学習内容の削減や入試制度の変更に翻弄されずに、独自に
 「学びの場」を構築できないだろうか。
 学校教育とは直接関係しなくても、授業料を払ってでも子
 供を通わせたいような場を確立できないだろうか。
 それがこれからの課題だと考えています。
 そこでは、おそらくフレネのような形態が必要になってく
 るでしょう。

『人はいかに学ぶか』と『知的好奇心』を読みました。
 これまでに学んだ心理学（動物を相手にした心理学）と
 異なる観点は新鮮であると同時に、よく理解できました。
 生徒への対し方に余裕ができそうです。
 先日、宇都宮で開かれた「子どもを守る文化会議」で購入
 した青砥恭 編著『プロ教師たちの「学校崩壊」を斬る』
 （ふきのとう書房）は「プロ教師の会」を批判的に検討し
 ています。

栃木県の塾が中心になって、NPO法人「とちぎ教育ネッ
 トワーク」を申請しました。いまのところ個人塾が15名
 、他の人が1名ですが、塾とは離れて地域の中の市民とし
 て活動していこうという趣旨で集まっています。
 活動は、・不登校や高校退学者への学習面でのサポート
 ・相談内容に応じて、他の機関への紹介
 ・「何を学ぶべきか」の基準の作成と、それに対
 応した教材と評価法の開発
 ・子どもたち対象のイベント

などを予定しています。
 活動の接点が生まれるかもしれません。
 よろしく願いいたします。
 - - - - - 以上、転載終了。
 お勧めの“プロ教師たちの「学校崩壊」を斬る”の
 ほかに、下記の2冊を紀ノ国屋のブックウェブで注
 文しました。興味のある方は、ぜひ！
 「わが子を『悪い先生』から守る方法」
 ガイ・ストリックライト（研究社出版）
 「手のつけられない子 それはADHDのせいだった」
 メアリー・ファウラー（扶桑社）

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0060 ----- 1999/12/08

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. クリスマスツリーを作ったよ！
 2. 東京六大学食制覇 白雲なびく駿河台...明大編
 3. “おさる問題”についての言語学的解答
- =====
- 今日はなんの日...12.8はいろんことがあった日
 1941 (s16) 日本軍、真珠湾を奇襲、太平洋戦争勃発
 1980 (s55) ジョン・レノン、ニューヨークで凶弾に倒る 40歳
1. クリスマスツリーを作ったよ！

松ぼっくりを使い、一人一人が小さなクリスマスツリー
 を作ったよ！
 [材料・作り方]
 松ぼっくり 台座にする木 アクリル絵の具（好きな色）
 ビーズ各種 ポンド 爪楊枝
 (1) マツボックリに好きな色を塗る
 (2) アクリル絵の具が乾いたら、ポンドでオーナメン
 トに見たてたビーズをつける
 (3) 台座に爪楊枝を切ったものを支えとし、マツボッ
 クリを固定する お好みで台座にリボンなどつけ
 てOK！

この日は総勢13名というにぎやかさ...、けんごは新宿
 御苑で拾ってきた木をのこで切って台座を作る。
 ツリーを作らないものの、しっかり役割分担してくれた。
 白いツリー、みどりのツリー、金色のツリー...。
 ヴィヴァ！ ミニクリスマスツリー！
 みんなで裏道を通って東急ハンズに買出しに行ったんだよ！
 2. 東京六大学食制覇 白雲なびく駿河台...明大編
 神田がいわいを歩く。学生の街、駿河台。
 今回、明治大学は新しく建てられた“リバティータワー”
 の17階の学食“曙”！
 この日は風が強く、そら澄み渡り景色がいい。
 「わー！きれい！」景色もいいが学食もきれい。好きな
 ものを選んで後でお金を払う“カフェテリア”方式。
 ぼくは、定番のラーメン。340円、味はまあまあ。
 続いて塩ラーメンにチャレンジ。
 「えーっ！まだ食べるの！」
 塩ラーメンの方がいい。ここのラーメンは唯一きちんと
 スープを作っているのが評価できる。得点60点也
 （参考までに上智50点、東大70点、法政20点）。
 [カレー担当談]
 味・値段・ボリュームとも今までで一番いい。
 NO1はこれで決まり！

なるほど、明治 = カレーか...

帰りは神田の古本屋街を各自散策。「徒弟教育の研究」(御茶ノ水書房)を発見するも手が出ず。

1300えん 3万8千円になっている。

結局、下記の4冊を購入。

「対幻想 - n個の性をめぐって」

吉本隆明・芹沢俊介(春秋社)1800円 千円

「人権と教育 N029・30」(社会評論社)

1000円 各200円

「岩波講座 現代思想3 無意識の発見」

3200円 2千円

さて今回は、池袋に乱入! 目指すは立教大学!

Saint Paul shines tonight!

3. “おさる問題” についての言語学的解答

“おさるさん” 問題について、なかなか渋い解答が寄せられました。なるほど! とぼくは、納得させられました。

----- 以下、転載。

“さる” はどうして“おさるさん”? について

エレガントな答えという言葉がどんな言葉を期待しているのか考えると、私がこれから述べようとしていることはあまりにも夢がなさ過ぎるでしょうか。

「言いやすいからじゃないの」という答えにかなり近いものです。

1. 「おさるさん」について

「さるさん」を母音だけでいうと「あうあん」になります。日本語の母音は口を大きく開けるほうから「アエイオウ」と並べられます。

「あうあん」に含まれる「アウ」「ウア」は口を動かす度合いが非常に大きいため発音しにくいのです。

ところが「お」をつけてみると「おあうあん」と「オアウ」と「アン」に分けて発音することができます。

そのとき「オアウ」は勢いで曖昧に発音していることに気づくと思います。

言いやすくするために「お」をつけているのです。

2. 「わんちゃん」について

「ぞう」「さる」「ねこ」「ワン」には、「ぞ」「さ」「ね」「ワ」という初めの音が高く、「う」「る」「こ」「ン」という二番目の音が低いという共通点があります。

しかし、「いぬ」は逆に「い」が低く、「ぬ」が高いですね。だから「いぬさん」は言いにくいのです。

「いぬさん」と言おうとすると、「ぬさん」になってしまうのです。だから、代わりに「わん」という音を使い、言いやすくしているのでしょう。

じゃあ、キリンさんは? という疑問がここで生まれます。「きりんさん」は、三文字の言葉なので、語頭の「き」が落ちて「りんさん」になってしまっても十分通じるので問題がないのです。

以上が私なりに出した解答です。

ご意見お待ちしております。

茨城県 kumiko

----- 以上、転載終了。

かつて「馬鹿とあほの境界線はどこか?」という問題に悩んだ事があります。これに関しては、「全日本アホ・バカ分布考」という名著が出版され、“目からうろこ”でした。

“おさるさん問題” もこのような感じになればいいですね!

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0061 ----- 1999/12/09

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 怒りのワイダ氏...、“お面写真”の行方はいかに...?

2. “あなたの子どもは”

3. 本日のおすすめ

=====

今日は何の日

1986(s61) ビートたけしその軍団11人が写真週刊誌「フライデー」編集部(講談社)へ殴りこみ。芸能人のプライバシー暴走取材との喧嘩

1. 怒りのワイダ氏、“お面写真”の行方はいかに...?

さて、ホームページの新着情報に載せたように本日はお面写真の“自分バージョン”。

「ワイダさん、遅いなあ...」1時前にワイダ氏、到着。

「じゃあ、始めようか!」

ところがここで、とんでもない事が発覚。

この授業にいつか参加していた3人...、その3人も必需品の鏡を忘れてきたのだ! 自分の顔をクロッキーするのに鏡を忘れるとは...

「ぼくは、今、怒ってる。何度も何度も、鏡を持ってきて言ったよね。道具がないと授業にならないよね。それほど軽く考えていたってこと? ぼくと君たちとの関係の中で作ってきた授業だよ。君たち、この授業、本当にやりたいの?」

ワイダ氏の迫力に子どもたち...、言葉なし。

「どうしたいか、一人一人考えて。」

さて...子どもたち、そして授業の行方は...

(明日に続く)

2 “あなたの子どもは”

読者からカーリル・ギブランの詩が送られてきました。

あなたの子どもは

あなたの子どもはあなたの子どもではない

子どもは「生命」の渴望からの子どもでもある

子どもはあなたを通ってくる

しかしあなたからではない

子どもはあなたと共にある

しかし子どもはあなたのものではない

こどもは明日の家に生きている

あなたを訪ねることも、夢みることもできない

あなたは子どもを好くようになれるであろう

けれどあなたを好くようにならせようとはしなざるな

人生は後に退き昨日にとどまるものではないのだから

あなたは弓である

そしてあなたの子どもらは

生きた矢としてあなたの手から放たれる

弓ひくあなたの手にご喜びあれと

カーリル・ギブラン

3. 本日のおすすめ

「新編 綴方教室」池内 紀(平凡社ライブラリー)

「私が夫だ」と「私は夫だ」はどうちがう?

最近コボちゃん作文の関係で“文章読本”系の本を読んでいる。この本は、ファジーなところがいい。堅苦しい文法の世界に閉じこもることなく文章作法の機知を読み取ることができる。

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0062 ----- 1999/12/10

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. “お面写真”の運命は？ 怒りのワイダ氏
2. ほめていただきました！
3. 今日の“訪問者”

=====

今日はなんの日 “世界人権デー”

1896 (M29) ダイナマイトの発明者アルフレッド・ノーベル没、「ノーベル賞」の授与式はこの日おこなう

1. “お面写真”の運命は？ 怒りのワイダ氏

「授業をどうするか、来週までに結論出してください。今日はお互いいい気分じゃないから、やめましょう。」子どもたち、発する言葉なし…。まずい…。申し訳ない…。どうしよう…。いろんな感情が入り混じった表情だ。「来週まで待つ必要ないんじゃない。どうしたらいいか、今考えられる？」と、ぼく。こっくりうなづく子どもたち。「じゃあ、5分間の休憩で心を落ち着けて話し合おう。」こういう場合こそ、大人のサポートが必要。なんでも任せしておくというふうには、考えない。さて、話し合いの結果は？「なにがよくなかったの？わかる？」「うん…。鏡を持ってこなかったこと…。」「すぐにあやまらなかったこと…」「そうなの？」とぼく。「?????」「ワイダさんは、この授業はみんなで作るって言ってたね。お互いの関係で作るっていうことだよな」「関係を壊したっていうこと？」「そうだね。あれだけ『鏡を忘れないで』っていつてんだよ。信頼してたんだよね。」「そうかあ。」「この授業、やりたいの？それとも、もういいの？」どの顔もやりたいと言っている。「じゃあ、どうすればいいの？」「あやまって、もう一回チャレンジしたい。」「関係を作りなおすってことは、あやまることじゃなくてももう一回授業を作り直すってことだと思うな。そのことちゃんと言える？」うなづく、ちかちゃん。「いつ？誰が言うの？誰かがまとめて言うの？」「いや、一人一人、今言ったほうがいいと思う。」どの顔もうなづく。そして、彼ら彼女らはワイダさんのところに行った…。もちろん、ワイダさんは快くその事を受けとめてくれた。しばらくして、ぼくとワイダさんの会話…。「ワイダさん、申し訳なかったですね。」「いや、ぼくこそ感情的になって高圧的だったと反省しています。お互いの信頼関係の中でしか写真は撮れませんからねえ…。」「子どもたち、今日のことで十分わかったと思いますよ。これはワイダさんだけとの関係ではなく、ぼくや子どもたちとの共同性の問題ですから…。」

お互い気を取り直し、再チャレンジ。数分後、ジャパンフレネにはまた、笑い声があった。日常の諸問題、他者に依存することなく、自立、そして自律することの困難さ…。複数性をベースにしながらか公共性を求めることの困難さ…。ジャパンフレネの求める道は、まだまだ遠い…。
2. ほめていただきました！
昨日のデイリーフレネについての感想をいただきました。
----- 以下、転載。
今日のトピック、3つともよかったです。ワイダさんと子どもたち、いいですね。あー、教育だ、って感じがします。カーリル・ギブランの詩あなたが弓でこどもが矢、ってのは美しいイメージです。力強くも厳しい感じもします。かっこいいです。私は夫だ、と私は夫だ、「は」と「が」の違い。解釈はついていると思いますが、教材化となると色々工夫はできそうですね。工夫というより発見なのかな。勉強になっております。

(ばーこ)

----- 以上、転載終了。
ワイダ氏との授業、来週に延期です。その後、日本の童謡メドレーをみんなで歌ったりして、なごやかですので御安心ください。童謡メドレーのなかで、「この歌、出てこないかなあ…」と思ったのがあったんですが、出てきませんでした。その童謡は… “しかられて” …です。

3. 今日の“訪問者”
たくさんのお菓子をありがとうございました！いっしょにクリスマスの飾りも作りましたね！
----- 以下、転載。
突然、お邪魔してしまい、本当にすいませんでした。見ず知らずの者を、入れて下さって、ありがとうございます。毎日、メルマガを読んでいるうちに、私の中に木幡さんや若菜さんや通っている子どもさんたちのイメージがあったのですが・・・違うものですね。つつい長居をしてしまっ、ご迷惑じゃなかったでしょうか。私は、親を15年やっておりますが、最近の幼児虐待、学校崩壊などなど、辛い出来事が多すぎて、私に何ができるか、何かできることがあるのか？と考えています。(勿論、我が子をしっかり見守り、育てることが第一ですが。)それで、今日、南青山の親業訓練協会で、いまさらながら「親業訓練」のさわりを受講してきました。ただ、産んだだけでは「親」にはならない、子どもの心のサインを受けとめる方法、子どもの心に届く話し方、お互いを大切にしながら対立を解決する方法といった内容でした。

子に対して12の障害となる言い方は
命令、脅迫、説教、提案、理屈、非難、同意、屈辱、
解決、激励尋問、ごまかし
だそうで、正に、自分がやっていることだ・・・と、
考えながら足は、四谷に向かったという次第です。
老婆心ながら、さっそくの「受け売り」なんです・・・
子の心のサインを受けとめる方法として、
能動的な聞き方が有効だそうです。

1. 繰り返し聞く
2. 言い換えてみる
3. 気持ちを汲む

子に心に届く話し方として、
「あなたメッセージ」ではなく「私メッセージ」で。

君が
「早く、 しなさい、早く しなさい」

と言うよりは、

私は、

「こう思う、これはイヤ、こう考える」

といった具合で。

昨夜、長男が、だらしない格好で食事をしていたので
いつものように

「(あなた)その格好やめて」

と、注意すると、完全無視。

そこで

「(お母さんは)そんな格好で食べられるのはイヤだな」

と言い変えてみると、黙って姿勢を正しました。

魔法のようです！

肯定の私メッセージ

親子関係だけでなく、回りの大切な人たちへ
はっきり、きっぱり、批難しないで、正直な自分の気持ち
を相手の自尊心を傷つけないように、暖かい関係を結
べるように、話すことを心がけましょう。

このようなことを、教えていただきました。

毎日、本当に大変なことと思いますが、お身体にお気をつ
けてこれからも、ご活躍されますようお祈りしております。
メルマガも楽しみにしております。

今日は、本当にありがとうございました。

拝見できて嬉しかったです。

木幡さんの、お帽子、とてもお似合いですよ。

それでは・・・

(東京・セツコ)

-----以上、転載終了。

ジャパンフレネにはたくさんの方が遊びにやってき
ます。皆さんもぜひ、いらしてください！

デイリーフレネは平日刊です。

今回は、12月13日の発行です。

忘年会のシーズン、皆さん、痛飲にお気を付けください。

(自戒もこめて...)

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0063 ----- 1999/12/13

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1.Saint Paule が泣いている 東京六大学食制覇

----- 立教大学編 -----

2. ジャパンフレネあれこれ

3. 本日のおすすめ

=====

今日は何の日

1937 (S12) 日本軍、中国の首都南京を占領、30万人
もの大虐殺(南京事件)

1.Saint Paule が泣いている 東京六大学食制覇

----- 立教大学編 -----

やってきました池袋...、30数年前はまだ焼け跡闇市風
だった西口も、今はこざれいに変身している。当時、北
海道から上京したばかりのぼく、あまりの田舎っぽさに
驚いた。東武練馬あたりの駅前は舗装されておらず、そ
れこそ練馬大根が栽培されていたのだ。

それはさておき、久々の立教へ！赤レンガの校舎は健在
なり。東京学芸大学出身のボランティア・イケメン木村、
「いいなあ、雰囲気あるよなあ...」と、その世界に浸る。
しかし、第一食堂に入ってがっかり...。終日全面禁煙と
書いてある食堂内で煙草を吸っているバカな学生が多数。
先輩ではないので「やめろ！」とは言わなかった。言う気
力もなくなるほど馬鹿っぽいんです、それら学生が...。
メニューの数が少ない、テーブルの席が少ない...の、ない
ないづくし。

木幡、いつものように「ラーメンにチャレンジ。

「おいおいおいおい、やめてくれー」

ここのラーメンはなんとゆで麺を使っている。ちゃっちゃ
とお湯につけて出すだけだ。メンマ普通、ねぎの量少、
麺ぼそぼそ、スープも作り置き、チャーシューは3枚。
汁を残してしまいました。総得点35点(法政と50歩
100歩)。

子供たちの感想を聞いてみよう。

ヤキソバ・味噌汁

最悪！残したいけど、腹が減っていたので無理して食べた。
汁はしょっぱい。

ざるそば

ただひたすらまずい

カレー

辛すぎて味がわからない。今まででは最低。

とにかく、不評！この日の子供たちのスケジュール表に
は、全員「まずい・2度と行かない」と書かれていた。
ぼくが気になったのはマナーの悪さだ。

椅子の上に足を乗っける。禁煙なのに煙草を吸う。

Saint Paule が泣いてるぜ！

先輩・長嶋は...、分かんけど...。

レベルは法政を抜いて、最低に位置付けられた。

ところで、この話しをある人にしたら、メールが届いた。
彼は高校・大学も立教の“立教ボーイ”です。

-----以下、転載。

> 先ほど、東京六大学食制覇で立教に行ってきました。

> 最悪でした。

やっぱり...

だって、食べませんでしたもの、学食では(苦笑)。

> これは、ずるい！そのこと、きちんと聴いておけば...

あ、ニュアンスが違いましたが、

「第一食堂のカツどん以外はダメな気が...」

という部分で察していただければ...(笑)。

学生時代は周りはそんなにウマイとかマズイとか言わな
い食べていましたが、僕は大学で食べるときはカツど
んぐらいでしたね。高校、さらに酷かったですよ(涙)。
ここもカツどん以外はダメだったです...

一番の理由が「禁煙でタバコが吸えない」だったのに、
学食で煙草を吸うとはこれは腹がたちますね。(観点が

ズレてる、笑)。タバコが一番美味いくらい、マズイン
 でしょうか(苦笑)。
 冗談はさておき、なんか立教もそうですが、ど~しょ~も
 ないルーズな大学生が多い気がして「なんだかなあ...コメ
 ント不能」という気もします。
 場所柄、時々クルマで立教の前を通るのですが(抜け道な
 んで)、みんな中途半端ですね、格好も何も...。
 チーマー風になっていても、チーマーほどの度胸が無いの
 で夜は歩けないって言うようなヤツ多いし。
 まだ開き直っている(というか自分のやりたいことやって
 いる)日芸の学生の方が、よほど学生として魅力あるかも...。
 > 来週、青学の学食に行くんですが、どうなってるん
 > でしょうか...、心配です。生徒に「木幡さんの卒業した大学
 > って、学生、頭悪そー！」なんていわれたりして...(笑
 い)。
 いや、青学は大丈夫でしょう。
 変な話、立教ってレベル下がっているんじゃないですか
 ね???
 青学は逆に上がってきているような気が...。
 根拠は、語学系が強いところって、大学入ってからもちや
 んと勉強するじゃないですか。
 立教ってそんなに語学に看板があるわけでも無いので、
 たぶんこれから淘汰される大学だと思いますよ。
 主観ではなく、客観的に考えると...。
 以上、愛校心のかけらも無い(?)Kでした(笑)。
 - - - - - 以上、転載終了。
 立教出身のみなさん、ごめんなさいね。
 なんの悪意もありません。(OB・Kと木幡)
 というわけで来週は、番外編として青山学院大学に
 行く予定です。木幡、面目もあるので一度下見に行
 こうかと考えています
 2. ジャパンフレネあれこれ
 マジギャザ部における権力関係
 “マジックザギャザリング部”の部員は、ついに4名!
 イケメン木村(25歳)もはまりつつある(カードを購入)。
 準部員は2名。唯一の女子ちかちゃん、体験入学のはる君。
 ところで、木幡、ただいま対戦成績22連敗!
 もう、完全にはまっています。
 クリスマスモードのJF
 お飾りをすべてセッティング!ドアにはリースが二つ。
 ツリーはマツボックリ製も含め、多数。窓には電飾。
 プレゼント用の靴下は三足。
 あとは、サンタクロースが来るだけさ!
 コボちゃん作文の波紋
 現在、JFでは6名の中・高生が“コボ作”にチャレンジ。
 それぞれスタイルが違って面白い。簡潔シンプル型、
 説明こってり型、オチ重視型etc etc ...。
 添削し、書きなおしてくるとどれも素晴らしい作文にな
 っていく。それを実感し、チャレンジ精神が湧いてくる。
 いいですよええ...。
 やめる!ピーマニ!
 以前、“ビートマニア”というゲームソフトについて書い
 たことがある。とにかく、音をカットしてもハンドルをた
 たくので、うるさい!迷惑!
 今回のミーティングのテーマはこれだ。
 ピーマニ、追放されるか?
 3. 本日のおすすめ
 [その 1]

文部省のサイトを覗いていたら、
 面白い記事がありましたので紹介いたします。
 教職員配置の在り方等に関する調査研究協力者会議の
 議事要旨
<http://www.monbu.go.jp/singi/chosa/00000340/>
 欧米のクラス編成調査ですが、各国の教育行政や学校制度
 など結構面白いですよ。
 [その 2]
 かなり、硬いんですが...。
 今、読んでいる加藤典洋の著作ですが、次の流れの中で
 読み進めて行くと面白いと思います。
 「敗戦後論」加藤典洋(講談社 2500円)
 「日本の無思想」加藤典洋(平凡社 740円)
 ハンナ・アーレントの著作
 「過去と未来の間」(みすず書房 4800円)
 「人間の条件」(ちくま学芸文庫 1500円)など
 「教育改革と公共性」小玉重夫(東大出版会 5200円)
 「戦後の思考」加藤典洋(講談社 2700円)
 複数性(個性)と公共性について考えていて、今こま
 まで読み進めてきました。
 =====
 ===== デイリー・フレネ =====
 ----- VOL.0064 ----- 1999/12/14
 ////////// CONTENTS //////////////////////
 1. ジャパンフレネあれこれ
 2. 明星学園の思い出 クラス会に出席して
 3. 「ゲーム」についてのあれこれ お便りです
 =====
 今日とはどんな日
 1702(元禄15) 深夜、赤穂浪士が吉良上野介邸へ討ち入り
 1. ジャパンフレネあれこれ
 「学習派」、「遊び派」を圧倒!
 ジャパンフレネに“学習旋風”が吹き荒れた。いつもは、
 場を占拠している“ゲーマー”連中、昨日は午後から学
 習モードの二人が“連立方程式”。そして、おねいちゃん
 も“等比数列の和”なんてのをやりだしたから、たまった
 もんじゃない。
 静かーに...、小さーくなっていましたとさ。
 木幡、また、負ける!
 マジックザギャザリング部の最低ランカー・木幡、22
 連敗の後、けんごに2連勝。しかし、その後、またまた
 連敗、みんなに馬鹿にされています。
 いろんな不思議...
 本日、初登場の小4・みきちゃん。棚にのっているいろ
 んな変なものに、興味しんしん。
 インカ帝国の武器を発見して「これなあに?」、皮製の
 クジラの貯金箱を指差して「あれ、さわっていい?」
 そして、きわめつけは「せんせ!せんせ!これなあに?!」
 持ってきたのは、ポリヴィアで求めた“三葉虫の化石”だっ
 た。これは、2匹並んでいるダブルで貴重品。
 JFには変なものがたくさんあります。
 2. 明星学園の思い出 クラス会に出席して

1982年に明星学園小学校を卒業した教え子達と久しぶりに飲んだ。

北は札幌、南は博多から20名以上が集まった。当時、いろんな実践を子どもたちと楽しんだ。いろんな、はちやめちやめもあった。酒を飲んで出てくるのは、そういう話し。

この時期の思い出を一つ。

イギリスからの帰国子女、コバタケ君、クリスマスの時期にイギリス製のクリスマスグッズを教室に持ち込んだ。小さな窓がたくさんついている箱で、12月1日から毎日一つずつ窓をあけて行く。その中には可愛い天使や、クリスマス関連のおもちゃが入っていて25日の窓には、キリストが入っている。

最初のうちは一日ずつ開けていたが、悪がき連中、中身が気に入り、ある日の放課後、全部空けてしまった。

翌日、コバタケ君...、怒り狂った！今の言葉で言うなら、完全に“キレタ”！

「なんだよ！これは、毎日一つずつ開けるんだ！」

「そんなこともありましたねえ。」と、コバタケ。

札幌からきた公認会計士の高野君、苦笑いしながら、

「ごめごめん、俺もやったんだよ。」

砂場に埋められて(自ら望み)、首だけ出していた庄司君は歯医者です。ポヨヨンとしていた鈴木君は、JAL。みんな成長したなあ。

結局、3軒はしごして深夜2時...翌日は死んでました。

みんな、あの当時のぼくの年齢に近づいています。

少年老い易く、学????

そして、ぼくは...五十にして...????

3. 「ゲーム」についてのあれこれ お便りです
四国からの便りです。

-----以下、転載。

買ってしまっただけ何年もして 言うのはダメなのでしょうが、テレビ・ゲームも良くないと思います。頭脳のごく浅い所で パチパチと反射神経だけが 反応していて、ほかの遊びやスポーツのように 身体と精神が結びついてきません。わたしは鍼灸師で、ミリ単位でツボをとる仕事をしています。もっと細かい仕事をしている人もいます。たとえば、教師なら、設問を投げかけた時の 生徒の一瞬の目・眉・口元の動きを見のがさないでしょう。これはアナログの世界です。

こんど年賀状作りの ソフトを買ってやってみてますが、カットや謹賀新年を入れる場所は、行と桁のあいだで デジタル的にしか選べないのに気付きました。こころもち右とか ちょい下、というのではないのです。

ゲームソフトもそのように作られているわけですから、いくらコントローラーの操作に秀でて、そのゲームの枠内でゲームと神経が 馴れ合った、ということだと思えます。じんわり感じたり、じっくり考えたり とはほど遠いように思えます。

学校から疲れて帰ってくると、すぐに 寝転がって 黙ってゲームの相手を している子供を見て、そんなことを考えました。

(四国・Tさん)

-----以上、転載終了。

この感覚、とてもよくわかります。子どもの指先の動きで、発言したがっているという事も分かります。

JFにもゲーム機があります。ミーティングにより、

午前中はゲーム禁止です。最近、ゲーム派が劣勢です。

=====

===== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0066 ----- 1999/12/16

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. “お面写真”自分バージョン、やったぜ！

2. 本日のおすすめ

3. 学生さんからの便り2本

=====

今日はなんの日

1993(H5) 田中角栄没、75歳。

日本列島改造論と日中国交回復の元首相

1. “お面写真”自分バージョン、やったぜ！

さあ！自分の顔を描いてプロのカメラマンに写真を撮っていただく。時間は15分、そして休憩、さらに5分。

自分の顔だと“力(りき)”の入れ方が違う。

今まで描くのが苦手で最初は挫折、2回目は人間の下半身から描き始め、顔に至らなかったようちゃん、

「やった！とうとう描けた！」

みんな、それぞれいい顔を描いた。なりたい顔、怒った顔、悩んでいる顔、嬉しい時の顔...、自分の顔を手鏡で見ながらクロッキー。

くじを引いて、写真の順番を決める。一人ずつ、どんな顔を描いたか発表する。

「いいねえ！クッキリ描けてるねえ。何をイメージしたの？」

「うーん、真剣な自分。」小4のみきちゃんは「きなこ

(ぬいぐるみの名前)とわたし」そして、ぼくの絵は...

「ぐっひゃー！」「似てるう！」みきちゃん「はははは

はhhhー！」と口を抑えて笑う。おいらは、笑い者？

顔の周りにスプートニク、爆発する富士山...イメージは「Future with 8Beat」

写真を撮るワイグさんとリズムをつくりながら数ショットの写真。できあがりを楽しみだなあ。

こぼれ話あれこれ

「みきちゃん、ぬいぐるみをほっぺにつけて、写真を撮ってもらえば？こんなふう。」とぼくのほっぺたにぬいぐるみについたら、「あー、わたしの“きなこ”」

ぼくの手からぬいぐるみを取りあげ、口でふうふうと吹いている。みんな、大爆笑！

ぼくって...不潔？

2. 本日のおすすめ

静岡大学教育学部のHPより

「総合的な学習の時間」実施計画の問題点
教師主導の“総合的な学習の時間”を鋭く批判。

重ねて、教師の負担増も警告。下記、HP参照。

http://certd.ed.shizuoka.ac.jp/sch_lib/column/19991211.html

ぼくはこう思う。

「本当の総合学習は、教科学習の必然の中から生まれる。その必然は、問いが生まれる教材のもつ力である。

教材は教師と子どもの“あこがれ”が創り出す。」

3. 学生さんからの便り2本

ジャパンフレネにはいろんな大学から研究のため、あるいは個人的興味などからたくさんの学生さんがやって来る。

お二人の便りを転載します。

-----以下、転載。

こんにちは。昨日お伺いした東京大学のYです。
 きうはほんとに楽しかったです。
 子どもたちと一緒に遊んだのはもちろん、
 その後の食事での木幡さんの学生時代ばなしも
 すごく愉快で楽しかったです。
 どうもごちそうさま。
 いろんな子が自由になっている姿を見て、ジャパンフレネは
 子どものこちよい居場所なんだな、と感じました。
 そして木幡さんの、子どもをひきつけるパイパインの授業
 をみて、子どもは興味のあることを学びたがるのだな、と
 いうことをあらためて実感しました。
 ぜひ、またジャパンフレネに行きたいです。
 今日、学校の図書館で文芸春秋の8月号を読みました。
 なぜ木幡さんが理念にこだわるのか、その理由がわかりまし
 た。

「好きなこと」と「好き勝手」はちがう、「自由」と
 「何でもありの自由」はちがうということ、僕自身
 の中で、常に忘れないでいたいと思います。
 それでは合宿を楽しみにしています。
 では。

-----以上、転載終了。
 こちらこそ、合宿に若い人がやって来るのは大歓迎です。
 では、もうおひとかた...
 -----以下、転載。

筑波大学のKIです。
 昨日は1日お邪魔させて頂き、ありがとうございました。
 木幡さん、松岡さんには、お世話になりました。また、
 子どもたちとも遊んだり、いろいろ教えてもらったり、
 楽しい1日でした。
 今回は修士論文ということで、お邪魔させていただいたの
 ですが、私自身、以前、フリースクールでボランティアを
 していたこともあり、とても気になることでもありました

私は、来年小学校で、心のケア支援相談員という仕事に
 つく予定です。主に不登校の子どもと一緒に勉強したり、
 その他いろいろなことをするのですが、「学校」という
 ものにしばられないで、子どもたちと接していきたいと
 思っています。

そこで、フリースクールを知っているのと知らないのと
 では、違うんじゃないかなあとと思います。学校というもの
 に入ってしまうと、そこに染まってしまうような気がする
 のです。学校が悪いというわけではないのですが、一歩引
 いたところからみたいなあ、というのが今の私の率直な意
 見です。

そんなわけで、もしかしたら、またお邪魔させていただく
 ことがあるかもしれませんが、その時には、宜しく願い
 致します。

-----以上、転載終了。
 きちんとお礼のお便りをいただくのは、嬉しいもの
 ですね。しかし、こういう学生さんが少なくなってきた
 のも事実です。

=====

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0067 ----- 1999/12/17

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

- 1. 燃えるぜ!“クイズの鉄人”
- 2. ジャパンフレネあれこれ

3. 本日のおすすめ

=====

今日はなんの日

1917(M36) ライト兄弟[米]が世界初の動力飛行に成功

1. 燃えるぜ!“クイズの鉄人”

クイズゲーム盤を買いにいったら、すでに廃盤。

そこで、パーティー用品売り場で“パーティー・宴会御
 用達クイズブック「クイズの鉄人」”という薄い本を買
 ってきた(東急ハンズ新宿)。

この本は4冊シリーズでそれぞれジャンルが違う。

(1)「エッチのあれこれ」

(2)「テレビ道楽」

(3)「おとなの小学校」

(現代っ子に大挑戦する教育クイズ)

(4)「まんが探検」

(1)にも興味があったが(?)我慢して、(3)を買い、
 子どもたちに問題を出してみた。

「クイズ大会やろう!」

「賞品あるの?」

「最初に15問正解した人に、森永キャラメル1個進呈!」

「やるやる!」

小6から高1までの5人が参加。結構、燃えますねえ。

例えば...

『おソバ屋のメニューにあるカレー南蛮、鴨南蛮の

“南蛮”とは何のことか?』(国語)

「はいはい!ポルトガル!」「ブー!」

「外国?」「ブー」

正解はネギ。初めて知った。

『日本人が最も多く食べている海産物はイカ。では、

最も多く食べている野菜は?』(家庭)

「きゃべつ!」

正解は、大根。

「えーっ、おれはそんなに食べないけどなあ。」(笑)

『五街道といえは...、あと一つは?』

「なかやまどう!」(爆笑)

「おいおい、頼むよ。中仙道だぞ。」

こんな感じで楽しんだ一日でした。

2. ジャパンフレネあれこれ

初めてお勉強した日

小4のみきちゃんが“漢字の宝島”をやっている。

学年別配当漢字で島を構成し、それら一つ一つを探し、色
 鉛筆で塗りわけていく。

「俺もやってみようかなあ...。小6のある?」と中1のけん
 ちゃん。簡単にできると思ったらしいが、6年生ともな
 るとかなり複雑。

「えー!こんなにあるの?」やると言った手前、後には引
 けず、しばらくチャレンジしていたが、

「あした、またやるよ。」

しかし、これがけんちゃんの“お勉強デビュー”!

東京六大学学食制覇予告編

ただいま帰ってきました...東京六大学学食制覇の旅。

今回は番外、木幡の母校・青山学院大学へ!

久しぶりに青山・表参道界隈を歩いて、気持ち良かったあ!

さて、子どもたちの学食評価は...?来週のお楽しみ...

木幡、面目を保つか?乞う、御期待!

ただいま、みんなのやっていること

木幡 + さとちゃん = 連立方程式の文章題
 いっしゅー + よーこ = 古文
 ちか = コボちゃん作文終了 テトリス
 イケメン・木村 + ようすけ = 将棋
 けん = ゲーム
 若菜 = 年賀状印刷
 外はポカポカ気持ちいい。
 そして、1時間後...みんな“漢字の宝島”をやっています。

3. 本日のおすすめ

佐藤 学さんの本、2冊
 「教育改革をデザインする」(岩波書店 1700円)
 「教育時評1977-1999」(世織書房 1800円)
 “学校が学校としての機能を再生するためには「教養の伝承(リテラシー)と「民主主義(デモクラシー)」と「共同体(コミュニティ)」の三つのキャノン(規範)が復権されなければならない。”(「教育改革をデザインする」P68)と佐藤さんは言う。
 ところで現在の学校体制の中、その事を具体的にどう実現させるのか? 例えば、“共同性”一つを取ってみても、一クラス40人体制では、全くの無理であろう。これが30人クラスでも似たようなものである。かつての子ども社会では異年齢の縦割り集団の中で、多くて10人前後の子ども達が共同性を学んでいった。学校での共同性は、教師の権力で統率されていた。ぼくは、佐藤さんの提案は行政のある程度の抜本的改革抜きには、学校では無理のように思う。だから、ジャパンフレネを設立した。
 小人数の中でのみ、共同性・公共性と複数性(個性)は両立して行くのではないか? その先駆的試みとして、フリースクールでのフレネ教育の意味が問われてくるだろう。学校の限界を知るという意味で、逆説的にこの2冊を読む...、そんな読み方があっていいだろう。
 デイリーフレネ通信は、平日刊です。次回は12月20日(月)の発信です。
 明日、12月18日は、代表・木幡の誕生日です。ついに 歳です。
 「あ、そう」と、ちかこ...。泣ける...

=====

==== デイリー・フレネ =====

----- VOL.0068 ----- 1999/12/20

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 木幡、面目立つ! 東京六大学食制覇
 番外編...青山学院大学
2. “コボちゃん作文”研究会のレジュメ
3. ジャパンフレネあれこれ

=====

今日は何の日
 1952(S 27) 青山に「東京ボーリングセンター」開業、初の本格的ボウリング競技場
 1. 木幡、面目立つ! 東京六大学食制覇
 番外編...青山学院大学
 やってきました青山へ! 久しぶり。
 30代のころまでは学生に間違えられたりしたが、今は絶対、そんなことはない...、悲しい...。
 さて、母校・青学に行くのはいいんだけど、学食の中身その他もろもろが悲惨だったらどうしよう...、下見に行こうとしたら「ルール違反!」という強いお達し。

わーかったよ!
 さて、学食の場所は30年前と変わってはいなかった。これで、一安心、はあー。
 メニューを見ると「やすい!」と、みんな感激!
 ラーメン230円は立教その他に比べて格安。(東大の素ラーメン160円は別格)。
 学食内も広い! 今までで一番広いのではないだろうか。スペースもゆったり。喫煙コーナーと禁煙コーナーが分かれているのも特色。
 高等部の生徒も利用しているせいか、ケバくない。紺色が主流の服装が目立つ。
 さて、お味の方は! ビーフシチュー定食460円なりを食べたイケメン・木村、「うまい!これで460円は安い!早稲田よりいいよー!」
 カレー担当のけん、「うまいよ。明治の次ぐらいかなあ。でも、でっかい肉が入っているよ。今までで一番でかい。」
 味噌汁・担当ようすけ、「おいしー!」
 そして、ラーメン担当・木幡の評価。

ラーメン

麺、ややゆで過ぎ。チャーシューは今までで最高にジューシー。
 メンマ、甘くなく歯ごたえ良しで最高。汁、やや甘め。東大の75点に次ぐ70点。
 この後、牡蠣フライ定食も食べました。ジューシーでした。
 青学学食の特徴

安い うまい ボリュームあり 特に定食系が充実 付け合せの野菜もたっぷり なによりふんいきがいい

子どもたちの総合評価

早稲田を抜いてトップ! 最高ランク!
 木幡の面目が立ちましたああ... (涙)。
 あちこち学食内を探索していたけんちゃん、「木幡さん、ここの学食、ソフトクリーム売ってるよ。」
 これがとどめ。「うんうんうんうん、そうだろうよ、何が食べたいのパニラ? ストロベリー? ごちそうすっからね。」と東海林さだおの“あれもくいたい これもくいたい”の世界に入った木幡でありました。
 しかし、驚いたなあ...、おでんまで売ってましたよ。青山学院学生食堂の皆様! よいお年を!
 この話を聞いた立教OBのKさんから次のようなメールが入っています。

----- 以下、転載。
 げげげげげげげ...。
 ある程度の「美味」は予想していたけど、「1位」ですかあ?? うーむ、子供達も「気遣い」という処世術を覚えて来たか(冗談)。
 そろそろ「詳細は明日!」が届くと思うので楽しみにしています。そう言えば少し前に「お洒落」ということで、野球の強い大学生が集まってきて、青学が強くなったような気がするんですが、そう考えると「柔軟性」のある大学なんですね(羨)。

----- 以上、転載終了。
 今回の学食探検隊は陸の王者“慶応”に挑戦!
 新春、乞う御期待!
 2. “コボちゃん作文”研究会のレジュメ
 12月23日(木・祭)に行われる研究会の問題提

起を工藤順一さん(“国語ができる子どもを育てる”講談社現代新書の著者)が送ってくれました。かなり、長いのですが、転載いたします(国語教育に興味関心がない方は、後でゆっくり読んでくださいね)。もちろん、毎月1回の研究会には工藤さんも参加します。ぜひ、御参加ください!

-----以下、転載。

コボちゃん作文研究会

第一回

<報告と問題提起>

工藤順一

論点*****

- 1、マンガなんか読ませていいのだろうか。
-----なぜコボちゃん作文なのか
- 2、読み書き一体化の国語教育をめざして
- 3、添削から見えてくる日本語のディスカールの文法について
- 4、表現力について-----ユーモアをどう表現するか
- 5、コボちゃん作文からどうジャンプするか。
- 6、対象学年の違いによる、効果、目的の違いについて。

1、マンガは絵と言葉の2ウェイを持つ表現である。そして、絵や図は状況に自分や自分の身体を具体的に参加させて理解しやすい-----イメージ・スキーマの使用-----という点で、起こっている出来事や状況をよりリアルにそしてはっきりと理解するのに適している。

そして、何かを書くという場合に理解していないものを書くことはできない。

書く練習をするというとき、感想や意見を書く前に、事実関係あるいは状況をきちんと把握、理解して客観的に書けることが当面の課題であろう。

声で読む、目で読むということに対して、「文字で読む」という領域があってもよい。

私たちが「読む」のは書かれた文字ばかりではない。つまり「書く」とは、身体を入れた「いま・ここ」の現実や事実や状況を「文字で読む」ということにつながっていくものではないだろうか。

安易な印象批評に終わりがちな感想文や意見文の前に、事実や因果関係をきちんと見分け書けるようになりたい。

なぜ、あえてマンガなのかという問いに対しては、マンガを使ってすらここまでできると言いたい。

アメリカ産のマルチメディアならよくて日本産のマンガなら悪いという論理は非常におかしい。

2、総合学習どころではなく、国語学習の中にすら、読みと書きの深刻な分離あるいは分裂があるのではないかと私は思っている。読みは主観性を排除した厳密ないわゆる読解問題で処理し、書きは感想文、行事作文などで甘い主観性を書かせるということによって終わらせ、書きと読みとの間に密接な接点を持たないやり方が、片方でさまざまな弊害を生み出しているのではないかと。

たとえば、主観的な読み、あるいは、客観的な書きの追求はありえないのだろうか。さらに主観性が客観性になり共同的なものになるという通態化の事態はありえないのだろうか。

また、創造的な書きとは、未知の現実を読んでいくことで、新しい現実を作り出していくことではないのか。あるいは、創造的な読みとは、既知のテキストに新しい意味を書いていくことではないのか。読み書きの分裂した状態では、そのような創造性は起こってこない。

あるいは、読み書きの分離された学習とそのアンバランスこそ官僚的作文を生み出しているのではないのか。

言い換えるなら、自分の身体をそこに入れずに書いたり読んだりできる形式的な読み書きのしかたが、非人間的文章を生み出しているのではないのか。マクルーランによるなら、識字文明と、現実から離れた抽象的語彙の獲得こそが官僚社会を導いた。そして、現在、官僚的作文という最悪のものが出現しているとき、文章指導とか国語教師はそれに責任があるのではないだろうか。

少なくとも、たとえば、官僚的作文の見本を教材にして何か学習できないだろうか。

そこにあるのはおそらく深刻な身体性の忘却である。記号による意味の生成という観点からは、読みと書きは同じものである。読めないとは、読んでも頭の中に意味が生成されていかないということであるし、書けないとは、書くべき意味が記号として作られていかないということだからだ。

3、「象は鼻が長い。耳も大きい。足も太い。」この文章で二文目から省略できるのは、正確には主語ではなく主題である。三上章はこれを「主題のセンテンス越え」と言っていた。

以上は一つの例であるが、一文を越えるとき学校や塾ではその文法を教えることはない。これに類することは、このほかにもいろいろあり、暗黙の了解としての文章の文法となっている。それを不問にしたまま文章を書きなさい、というほうが無理なのではないか。

これはコボちゃん作文でなくてもできることであるが、文章添削が、特に初心者で必要になるとき必ずでてくること。

4、ユーモアをどう表現するか。文章でユーモアを表現するのはけっこう難しい。単なる説明に終わってしまう場合が圧倒的に多いであろう。

記号の使い方

5、コボちゃん作文からどうジャンプするか。媒介を用意して書かせるということ-----メディア・リテラシー

ガブリエル・バンサンの絵本-----表現力

写真集でいいのではないだろうか

新聞広告の使用

コマーシャル作文

6、対象学年の違いによる効果、目的の違い

小学生

4年からやっている。継続してやるうちに認識力がついてくるのか、理科とか社会も成績が良くなる。

6年になるともうコボちゃんは卒業している。

中学生

高校生

大学生

3. ジャパンフレネあれこれ

某・中1の挫折

小6“漢字の宝島”に挑戦、早々とリタイアした某・中1。小1ならできるかとチャレンジしたが...、またも早々挫折!一言もなし...。本人弁、「やる気のなさ。」

木幡マン = ぼけたマン

「木幡さん、将棋の本貸してくださいね!」「いいよ!」そんなやり取りが何度かあって、いつも忘れる木幡...。今夜こそ忘れないぞと、自宅の書棚を探してみたが一冊もな

い。
 んんんん？ そういや、全部古本屋に売っぱらってしまったんだ。
 ぼくは、本はどんどん処分する方針なんです。
 翌日、そのことを話したら...、子どもに言われた。
 「ぼけ？」
 そりゃないだろうと反論したけれど、
 「売ったこと忘れてたんでしょ？ それって、ぼけじゃないですか？」
 木幡、一言もなし。
 たくさんの方から、お誕生日のお祝いカードなどいただきました。ありがとうございました！

===== ==
 =====

===== デイリー・フレネ =====
 ----- VOL.0069 ----- 1999/12/21

//////// CONTENTS //////////////////////////////////////

1. 「恥じ入る」ことから、まず始めよ！
2. こんなふう書いてます 生徒の日課表から
3. 本日のおすすめ

=====

今日はなんの日
 1978(S 53) プロ野球巨人軍が「空白の日」の虚をついて江川卓投手[法政大]と電撃契約[これは無効になれど、結局翌年の1月江川は巨人に入団]
 1. 「恥じ入る」ことから、まず始めよ！

ミーティングだ！
 22日のクリスマス会の計画を話し合う。
 小4のみきちゃん、「プレゼント交換やりたいの。」
 いいね、いいいね！
 「ケーキも作ろう！」「ゲームもやろう！」
 これもいいね！
 「ウノ大会だ！」ますますいいね！
 賞品は？「木幡さん！」
 うーん、あんまり良くないけど、ま、いいかっ...。
 とどめは「一人一人を誉める“ほめほめ大会”！」
 学習は、なし。午前中、準備。12時、オープン。
 保護者の参加、可。最後に大掃除。
 そんなこんなで話が進んだところで、スタッフ・松岡、爆弾発言！「しつこく、お掃除のことを言いたいんだけど、自分の出したごみはきちんと片付けてください。何度言っても、知らん振りしている人がいます。今度、こういうことがあったら、その人の持ち物もあわせて捨てます。」
 なんだなんだ、いったいどうしたんだ。挑発的ー！
 話が大幅に飛躍してる。
 「おとっとと、そいつは反対！持ち物まで捨てる必要はないでしょう。」ということで、再度、ごみ問題が再燃。
 JFでは学校みたいに掃除をやることで共同性を強制することは、行ってない。以前も話し合ったが、気持ちいい空間とたてまえとしての掃除は、別問題として考えている。
 ぼくがトイレを掃除するのは、その方が気持ちいいからにすぎない。これはぼく自身の自己契約。そういう自己契約ができない段階で掃除は強制されないが、少なくとも後片付けや自分の出したごみは、自分で片付けるというところはここでの契約だ。

「この前の“お面写真”でワイダさんが怒った時と同じ問題だね。」
 自分の顔を描くのに誰一人として鏡を持ってこなかった。